

凡 例

一本書は冠して新式萬國地理と云ふ、新式の文字、唯夫れ前著新編萬國地誌に對して云ふのみ、敢て著者が能を誇るにあらざるなり。



一外國地理を研究するの時、自ら自國の地理に聯想せしむる必要を認め、此點に就て著者は、更に一機軸を出だせり。地圖を分割して各國の部に挿入し、また諸種の平面圖を挿入せるは、修學の際、幾多の興味を學生に與へんと欲してなり。

(1) 一從來漢字を以て顯はせる固有名詞は、殊に之を改めず、普通名詞の内、從來一定の譯語なき者は、片假名を以て之を

顯はし、その右傍に〓〓を劃す。

一固有名詞の發音に附ては、著者は殊に注意せり。

各國の幅員は、都て我が里法に換算したれども、若し之を英國の哩法に對照せんとならば、我が方里に、整數六を乗せば、その概數を知悉するを得。

但し英國の一方哩は、我が二百六十一町一四七に當る。

山岳の高低、河流道路の長短は、務めて我が國の里法を以て比較したれども、水路及び鐵道、電信の延長は、大抵一般の定則に準り、英哩、英海里を用ゐたるを以て、之を他國に對照せんとならば、左の里法に據て改算すべし。

一哩は我が十四町四十五間

一海里は我が十六町五十八間

一キロメートルは我が九町十間

一清里は我が五町六間

一韓里は我が三町十二間

寒暖計は大抵攝氏に據る、されども、その計度を華氏の計度に換算するの方式は左の如し。

$$\frac{\text{華氏} \times 9}{5} + 32 = \text{攝氏}$$

明治三十一年十二月

著者識

新式萬國地理目次

第一章 總論……………一頁

第二章 亞細亞洲……………二二頁

(一) 朝鮮……………二八頁

(二) 支那……………四〇頁

(イ) 支那本部 (口) 滿州 (ハ) 蒙古 (ニ) 伊犁

(ホ) 西藏

(三) 西伯利亞……………八四頁

(四) 中央亞細亞……………九四頁

(五) 伊蘭高原……………九六頁

(イ) 亞富汗 (ロ) 比耳路斯坦 (ハ) 波斯

(六) 外部高加索……………一〇四頁

(七) 亞細亞土耳其……………一〇七頁

(八) 亞拉比亞……………一一一頁

(九) 印度……………一二四頁

(十) 交趾印度……………一二四頁

(イ) 佛領亞細亞 (ロ) 暹羅 (ハ) 海峽殖民

地 (ニ) 緬甸

(土) 馬來群島……………一四八頁

(イ) スンダ諸島 スマトラ島 ジャバ島

チモア諸島

(ロ) ボルネオ島 (ハ) スールー諸島 (ニ)

比律賓諸島 (ホ) セレベス島 (ヘ) モラ

ツカス諸島

第三章 太平洋……………一五九頁

(一) メラネシア群島……………一六一頁

(イ) ニューギニア島 (ロ) ビスマルク

諸島 (ハ) ソロモン諸島 (ニ) ニューヘ

ブリデス諸島 (ホ) ニューカレドニ

ア、ローヤルター諸島 (ヘ) フォンシー

諸島

(二) マイクロネシア群島……………一六七頁

(イ) ギルバート諸島 (ロ) マーシャル

諸島(一)カロライン諸島(ニ)マリアン
ネー諸島

(三) ポリネシア群島……………一六九頁

(イ) トング諸島(ロ) サモア諸島(ハ) ソ

サイエナー、マーケサス、バウモト

諸島(ニ) ハーヴェー諸島(ホ) サンド

井ツチ諸島

(四) オーストララシア……………一七六頁

(イ) オーストラリア(ロ) タスマニア

(ハ) ニュー、ジーランド

第四章 歐羅巴洲……………一八九頁

(一) バルカン半島……………一九四頁

ルーマニア、ブルガリア、東ルーメ

リア、セルヴニア、モンテネグロ、土

耳其、希臘

(二) 露西亞……………二〇二頁

(三) スカンデナヴィア半島……………二〇六頁

瑞典、諾威

(四) シヤットランド半島……………二二一頁

丁抹

(五) 獨逸……………二二四頁

(六) 奧大利、匈牙利……………二二三頁

第五章

亞弗利加洲

(七) 和蘭、白耳義……………二二七頁

(八) 佛蘭西……………二三四頁

(九) 瑞西……………二四〇頁

(十) 英吉利……………二四三頁

(十一) 英吉利……………二四三頁

(十二) 伊太利……………二六〇頁

西班牙、葡萄牙……………二五四頁

(十三) 伊太利……………二六〇頁

亞弗利加洲……………二六六頁

(一) ナイル地方……………二七〇頁

(イ) 埃及、(ロ) ヌビア及(ハ) 埃及、(ニ) 埃及及蘇丹……………二七〇頁

アビシニア……………二七〇頁

(二) バールバリ地方……………二八二頁

(イ) モロッコ、(ロ) アルゼリア、(ハ) ナニニス、(ニ) トリポリ……………二八二頁

(三) ギニア地方……………二八九頁

(四) 南部亞弗利加地方……………二九二頁

(イ) ケープ、(ロ) コロニー、(ハ) 獨領西南亞弗利加、(ニ) 英領ベチエア、(三) 南亞弗利加共和國、(ホ) オレンジ自由國……………二九二頁

(ヘ) ナタル、(ト) ツールランド、(チ) スワヂランド、(リ) バストランド……………二九二頁

(五) 東部亞弗利加地方……………三〇三頁

第六章

南亞米利加洲

- (六) 中部亞弗利加地方……………三〇五頁
- (七) 東岸諸島……………三〇九頁
- (八) 西岸諸島……………三一〇頁
- 南亞米利加洲……………三一〇頁
- (一) 大西洋沿岸諸國……………三一五頁
 - (イ) ヴェネツヅェラ (ロ) ギアナ (ハ) ブラ
 - ジル (ニ) パラグラ 井 (ホ) ウルグラ 井
 - (ヘ) 亞爾然丁
- (二) 太平洋沿岸諸國……………三二七頁
 - (イ) コロムビア (ロ) エクアドル (ハ) 秘
 - 露 (ニ) ボリヴヰア (ホ) 智利

第七章

北亞米利加洲

- 北亞米利加洲……………三三八頁
- (一) 合衆國……………三四一頁
- (二) 英領亞米利加……………三五三頁
- (三) 墨西哥……………三六一頁
- (四) 中央亞米利加諸國……………三六七頁
 - グアテマラ、サンサルヴァドル、ホン
 - デユラス、ニカラガ、ユスタリカ、英
 - 領ホンデユラス
- (五) 西印度諸島……………三七二頁

新式萬國地理目次終

新式萬國地理

理學士 岩崎重三
池田鹿之助 合著

第一章 總論

我等が生活する地球はその形も球體なれども、赤道部は稍膨大し、次第に南北兩極に扁平なるを以て、橙果の如き扁圓體をなす。其の直徑は凡そ三千三百里、周圍は凡そ一萬四千里に達し、面積は大抵三千三百萬方里あり。

地球の表面は、到る處、陸地或は海洋より成る、其の内、海洋は面積二千四百四十萬方里、陸地は面積八百六十萬方里あり。

總

論

(1)

て、水陸を比ぶれば殆ど三と一との割合に當り、海洋は南半球に多く、陸地は北半球に多し。

海洋は分かちて太平洋、大西洋、印度洋、北氷洋、南氷洋の五大洋とす。その内、太平洋最も大きく、地球表面の三分の一を占め、南氷洋最も小さく面積七十六萬餘方里を有す。五大洋は水界到る處互に相連絡し、南北氷洋は兩極の周圍に偏し、大部氷を以て蔽はるゝも、他の三洋は地球の中央に位せるが故に、交通に至大の便益を與ふ。陸地は三大塊に分離し、西經十七度四十分を以て、之を東、西の各半球に分かつ、東半球は東、南の二大陸より成り、東大陸更に分かれて亞細亞、歐羅巴、亞弗利加の三洲となり、南大陸は太平洋洲之を領す。西半球は

又西大陸と稱し、更に分かれて南亞米利加、北亞米利加の二洲となれり。その面積、人口を示せば左の如し。

洲名	面積	人口	一方里平均人口
亞細亞洲	二、七五〇、〇〇〇 ^{方里}	八四六、二五〇、〇〇〇 ^人	三〇七、
歐羅巴洲	六、三三二、九〇〇	三、五七、八六〇、〇〇〇	五六五、
亞弗利加洲	一、九二〇、〇〇〇	一、六四、五〇〇、〇〇〇	八六、
南亞米利加洲	一、一七五、〇〇〇	三、六、五〇〇、〇〇〇	三一、
北亞米利加洲	一、四五〇、〇〇〇	八、九〇〇、〇〇〇	六三、
太平洋洲	六〇〇、〇〇〇	五、七〇〇、〇〇〇	九、
計	八、五三七、九〇〇	一、四九九、八一〇、〇〇〇	一七五、

各大陸の地形は概ね北に開き南に逼り、殆ど三角形をなし、

到る處沿岸出入して數多の海灣をなせり、その内、北半球は殊に南端より、東北と西北とに分走して、幾多の島嶼及び海灣をなし、亞細亞は印度及び交趾印度の兩半島を以てベンガル灣を抱き、東は馬來群島より東北に、日本群島に連なり、朝鮮半島は日本海と黃海とを分かち、臺灣島は東海と支那海とを兩分し、西は亞拉比亞半島海中に突出して、東西に亞拉比亞海と紅海とを控ゆ。歐羅巴は南に地中海を距て、亞弗利加に對し、その水、東に彎入して黒海となり、北にスカンデナヴィア半島は、北海とバルチック海とを二分す。北亞米利加は東より北に墨西哥灣セントローレンス灣等を控へ、西に下カリフォルニア灣あり、されど、南半球は海岸弧狀を

なし、著しき岬角半島なし。是れ地球上の人事は、北半球に旺盛なる所以にして、海灣の多少は人類の開化を促し、通商貿易の事業を盛大ならしめたる一大原因なり。大陸の地勢は大抵山岳を充たせども、東半球にありては、山脈四方より來り、亞細亞の中央を、稍西に偏するパミールと名づくる高原に集中す、此處一帶は、地球上第一の高原にして、地理學者は之を「世界の屋根」と稱し、到る處地高一萬尺より一萬五千尺に達す、此の高原を本とし、東は喜馬拉耶山脈、廣さ百十里より四百四十里に亘り、凡そ百五十里の連續を以て東南に向ひ支那、印度の界を劃り、餘脈支那に入り、南嶺に連りて東海岸に盡き、西はヒンズークッシュ山脈パミール

ル高原より岐かれ、アフガニスタン亞富汗の中央に亘り、ユイ、ババ山脈より
シア、ニ、サフ、エツド、コーの兩脈に續き、ペルシヤ波斯に入りてコーラ、サ
 山脈となり、エルブルズ山脈となり、カスピアン裏海の海岸に沿ひ、亞
細亞土耳其に馳せ、更にブラック黒海の南岸よりボスフォラス海峽
 を渡り、歐羅巴に入り、バルカン山脈となり、カーパシアン山
 脈よりアルプス山脈に續き、餘脈西南に趨き、ピレニーズ山
 脈に盡く、東は南嶺より西はピレニーズ山脈に脈絡して、歐
亞を南北に横斷せる一帯の山脈を歐亞大山脈と稱し、その
 南北は各地勢氣候を異にす、西半球にありてはロッキー山
 脈、北亞米利加の西北より起り、西部を南北に貫き、パナマ地
 頸を渡りて南亞米利加に入り、アンデス山脈となりて、西部

を同じく南北に貫き、南端マゼラン海峽に盡く、此の二山脈
 は互に脈絡を通ぜるを以て、或は之をロッキー、アンデス大山
 脈と稱し、その東側は共に地低く、沃野遠く連なるも、西側は
 一般に急峻なる勾配をなせり。
 地球上の氣候帶を分かちて熱帶、温帶、寒帶の三帶とす。熱帶
 は赤道を中心として、南北に各二十三度半に至る一帯を稱
 す、温帶は南北各二十三度半より、南北兩極圈に至るまでを
 稱し、その熱帶の兩側にあるを以て、又南北二帯に分ち、北
 を北温帶、南を南温帶と云ふ、寒帶は南北兩極圈より極に至
 るまでを稱し、北を北寒帶、南を南寒帶と云ふ。

氣候は生物に至大の關係を及ぼす者なれども、殊に世界に分布せる人類

はその住居せる地方の位置如何によりて特種の性格を有す、熱帯地方は氣候炎熱にして、天産物饒多なるを以て、此に生息せる人民は、勞働せざるも猶且つ飽食逸居の娛樂あると、神身を軟弱ならしむるとにより、多くは遊惰に流れ、進取の氣象に乏しく、大抵未開の民に屬す、印度、交趾、印度、馬來群島、亞弗利加及び南亞米利加北部地方の住民是なり、寒帯地方も亦氣候亟寒にして、概ね氷雪を以て蔽はるゝが故に天産物甚だ稀少なるのみならず、兩極に近づくに従ひ、一年の半ばは全く晝のみにして夜なく、半ばは夜のみにして嘗て日光を見ざるを以て、此に生息せる人民は終生衣食に奔走し、人文發達の機會に値遇するとなし、露西亞、西伯利亞及び北亞米利加北部、歐羅巴北部のノヴァ、セム、ブラー島、スピッツベルゲン島の住民是なり、されど温帯地方は、氣候は寒暖中和を得、且つ數多の天産物は、皆人智の發達に適するを以て、此に生息せる人民は、放逸なれば生活する能はざると共に、勤勉なればその報酬を得るが故に、性甚だ勇壯活潑にして、理想も亦大に發達せり、我が國、歐羅巴の大部、北米合衆國等の住民是なり。

世界の人類を皮膚、容貌、毛髮等の異同により、大別して蒙古人種、高加索人種、亞米利加人種、亞弗利加人種、馬來人種の五種とす。

蒙古人種は又黃人種と稱す、外容は皮膚稍黒黄色を帯び、顔面廣く扁平にして、頬骨高く、鬚髯は甚だ多からざれども、頭髮は黒くして鼻短く、兩眼の位置は稍斜めに、眼睛黒し、其の種族は亞細亞洲に最も多く、凡そ五億七千萬人あり。

高加索人種は又白人種と稱す、外容は皮膚白色に近く、淡紅色を帯び、額は廣く長く、鼻隆準にして毛髮蒼色を帯び、眼睛は概ね綠色にして、鬚髯甚だ多し、その種族は歐羅巴、北亞米利加の二洲に最も多く、凡そ六億四千萬あり。

亞米利加人種は又銅色人種と稱し、主にインディアン族と云ふ、外容は皮膚銅色を帯び、鼻隆準にして頬骨高く、兩眸黒色を呈し、鬚髯少なけれども頭

髪は直立して黒し、その種族は南、北亞米利加洲を主とし、凡そ一千萬あり。亞弗利加人種は又黑人種と稱す、外容は皮膚黒色を帯び、唇厚く鼻低く、鬚は少なけれども、頭髮は短く且つ捲縮せり、その種族は亞弗利加洲に最も多く、凡そ一億九千萬あり。馬來人種は又鶯色種と稱す、外容は皮膚鶯色をなせる外、殆ど蒙古人種と異なるとなし、その種族は馬來半島、馬來群島及び南洋諸島に散布し、凡そ六千餘萬あり。

世界に播布せる宗教を分ちて、佛教、婆羅門教、回教、耶蘇教等とし、外に猶太教、蠻教、妖教等亦行はる。

佛國は釋迦牟尼の教旨にして我が國、支那、朝鮮、印度、交趾、印度の人民多く之を信奉し、その教徒四億八千萬あり、婆羅門教は又印度教と稱す、婆羅門を天地の主宰者として信奉する教旨にして、印度の人民大部之れに歸依し、その教徒一億九千萬あり、回教はマホメットの主唱せし教旨にして、亞

拉比亞、土耳其、波斯埃及及び亞弗利加東北部の人民多く之を信奉し、その教徒一億八千萬あり、耶蘇教は耶蘇基督の教旨にして舊教、新教、希臘教の三派に分かるも、大體の信仰は異なるとなし、歐、米諸國の人民多く之を信奉し、その教徒は佛教に亞ぎ、四億餘萬あり。

政體を分ちて、君主政體、民主政體の二とす、君主政體とは主權の皇帝、又は王に存する政治組織にして、更に分かれて立憲君主政體、專制君主政體の二とす、立憲君主政體は、主權は固より君主にありて存すれども、一國の憲法を制定し、人民をして國の政務に參與せしむるの制とす、我が國、英吉利、獨逸等の諸國、此の政體に屬す、專制君主政體は君主親ら一國の政治を獨裁し、人民をして政務に參與せしめざるの制にして、君意は即ち國法たる者とす、露西亞、支那等諸國の政

體是なり。民主政體は又共和政體と稱し、憲法を制定して、一國の政治を行ふ者なれども、主權は全く人民に存するにより、大統領を選擧して國民を代表する者と、國民直接に主權を行ふものとの別あり、北亞米利加合衆國、佛蘭西フランスの如きは前者に屬し、瑞西スウェーデンの如きは後者に屬す。

軍備は一國の獨立を保持し、國勢を盛んにする最大要具にして、分ちて陸軍、海軍の二とす、四方海に瀕せざる諸國は専ら陸軍のみを組織すれども、その他は大抵陸海軍を整備し、財力の許す限りは、年々巨額の資金を投じ軍備を充實す。

世界の海軍は、英國に最も盛んにして、船艦殆ど五百隻、その内甲鐵艦六十五隻ありて、兵員總て十萬に達し、優勢遙に世

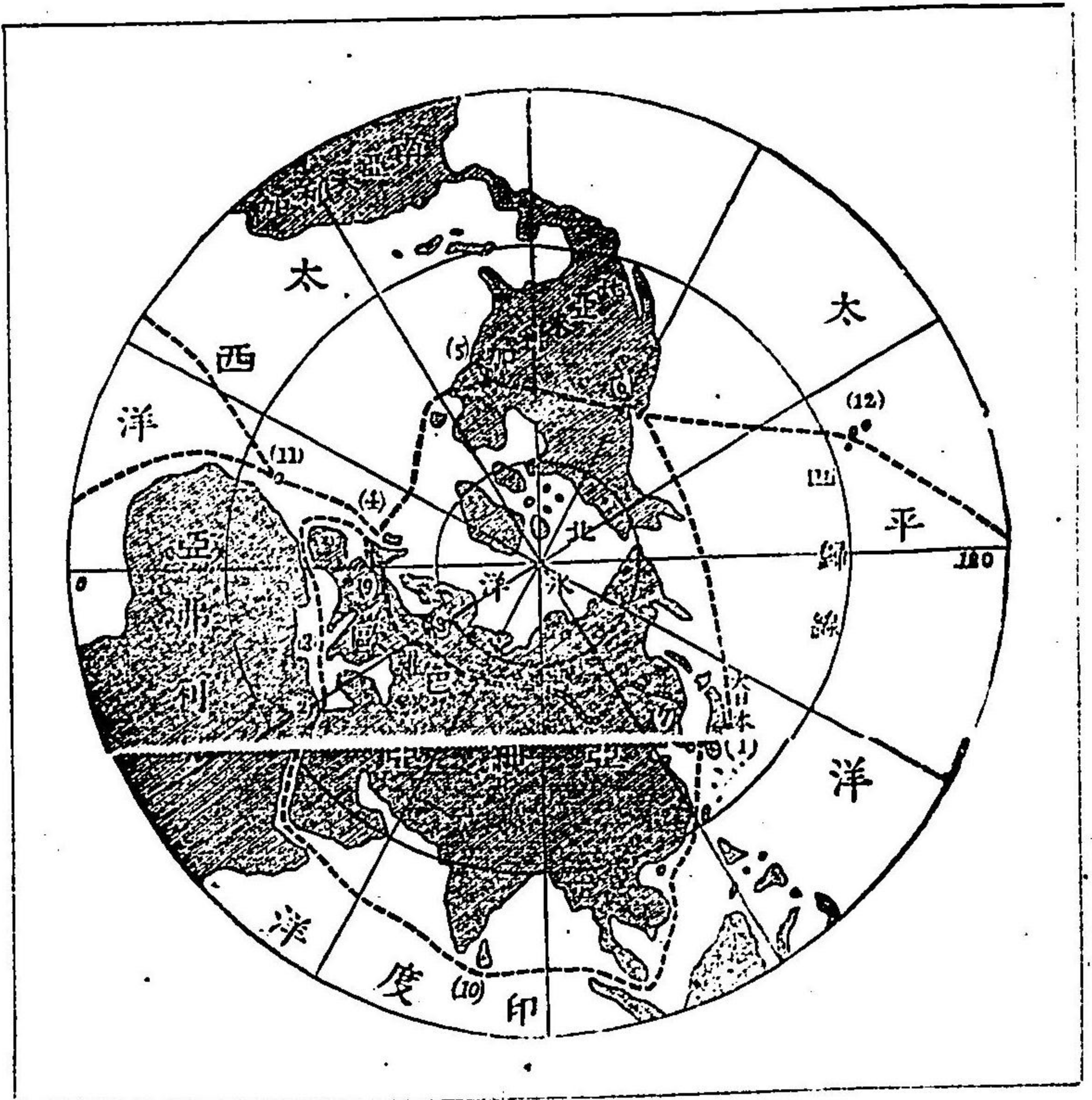
界諸國の上位を占む。之れに亞ぐを佛蘭西、伊太利イタリアとす、佛蘭西には四百三十餘隻、伊太利には二百五十餘隻の船艦あり、露西亞ロシア、獨逸、奧太利オーストリアは共に海軍の創設は全く近世に屬すれども、その進歩頗る著しく、獨逸には三十四隻、露西亞には三十五隻、奧太利には十六隻の甲鐵艦あり。陸軍は露西亞、佛蘭西、獨逸の三國最も精銳を極め、露西亞には八十餘萬、佛蘭西には六十萬、獨逸には五十餘萬の常兵を備へ、獨逸の如きは一朝事あるの日は、兵役に堪ふる者三百萬あり、之れに亞ぐを奧太利、伊太利とす、共に三十萬の常備兵を有し、戦時に際せば、二百萬の兵士を召集す、米國は現時漸く軍備の必要を認めたれども、もこ、世界の平和を主張せる國とて、兵備は粗

略に失し、陸軍は、戦時には各州より民兵を組織し、干戈を
 執て事に従ふ者千餘萬人ありと稱すれども、平時は常備
 兵僅に三萬に充たず、海軍も亦戰鬪艦砲艦巡洋艦水電艇等
 を合せ三十三隻を備ふるに過ぎず、その他西班牙、葡萄牙、和
 蘭等の諸國は、海外に幾多の殖民地を有するを以て、海軍整
 備の必要を認めざるにあらざれども、未だ精銳なるに至ら
 ずして、和蘭は砲艦巡洋艦を合せて百餘隻、西班牙は百十餘
 隻を有するに過ぎず、葡萄牙の如きは船艦僅に四十隻に充
 たず。

世界の交通路を大別して、陸路及び水路の二とし、その主な
 る機關を汽船、汽車、郵便、電信、電話等とす。

陸路の交通は、往時は専ら天然の地形により、駱駝、驛馬、牛、驢、通車等を用ひ
 て、貨物および人衆の運搬を支配せしが、西曆千八百四年にトレヴヰス
 ツク氏始めて汽車を發明し、その後十年を経て、ヘッドレー氏、スツフエンソ
 ン氏等の改良せし、現今、使用の汽關車を發明せしより、世界の交通俄かに一
 變し、鐵道は文明諸國、陸路交通の必要缺くべからざる機關となり、發明以
 來、未だ百年を出でざるに、現今、世界に於ける鐵道線路は、凡そ四十六萬五
 千餘哩に延長せり、之れを五大洲に區別すれば、亞米利加に二十四萬六千
 餘哩、歐羅巴に十六萬六千餘哩、亞細亞に二萬八千餘哩、大洋洲に一萬五千
 哩、亞弗利加に八千七百餘哩あり。就中、北米合衆國の鐵道線路は、全歐洲よ
 りも著大にして、鐵道事業最も進歩し、大南、大北、大中等
 の線路は、皆太平、太西の兩洋を聯結し、英領加奈多は人口僅に五百萬にし
 て、鐵道の延長十七萬哩に達し、加奈多、太平、鐵道亦同じく、東西の二洋を
 連絡す、南米の各國は、亞爾然丁及ブラジルの諸國に、鐵道の敷設非常の進
 歩を呈し、高き者はアンデス山上一萬六千六百尺の山峯を走れり、歐羅巴

の諸國は、獨逸を以て第一とし、^{フランス、イギリス、ロシア、オーストリア、イタリア、スペイン}佛國、英國、露國、埃國、伊國、西班牙等之れに亞
 ぎ、鐵道の最も稠密なるは、全地球上獨り白耳義^{ベルギー}を以て第一とす。
 水路は最も至便なる交通路にして、往昔より櫓船、帆船を以て人衆及び重
 要なる貨物の漕運を支配し、洋海を航するには、終始風力を離るゝ能はざ
 るを以て、交通上の不便少なからざりしが、西曆千八百一年、サイミン^{サイモン}ト
 氏始めて蒸氣力を、航船に應用することを發明し、その後數年を経て、フル^{フル}ト
 氏の考案に成りたる、一氣船を使用せしより、世界の水路交通は、漸次迅速、
 確實、安全、利便となり、西曆千八百十九年に、氣船の始めて大西洋を航行せ
 しより、帆船の領域は、殆ど氣船の侵略する所となり、ことに蘇士運河の開
 通以來は、著しく世界の航路を短縮し、從來、世界を周航するには、凡そ三年
 を要したりしも、今は僅に二ヶ月餘を以て一週するに至れり。



圖之路通週一界世

(1).....橫濱	世 界 一 週 通 之 路 圖	(7).....ウラジワ
(2).....スエズ		(8).....セントルイス
(3).....アムステルダム		(9).....アレクサンドリア
(4).....サザンポート		(10).....印度
(5).....ニューヨーク		(11).....カナリー
(6).....ヴァンクーヴァー		(12).....ハワイ

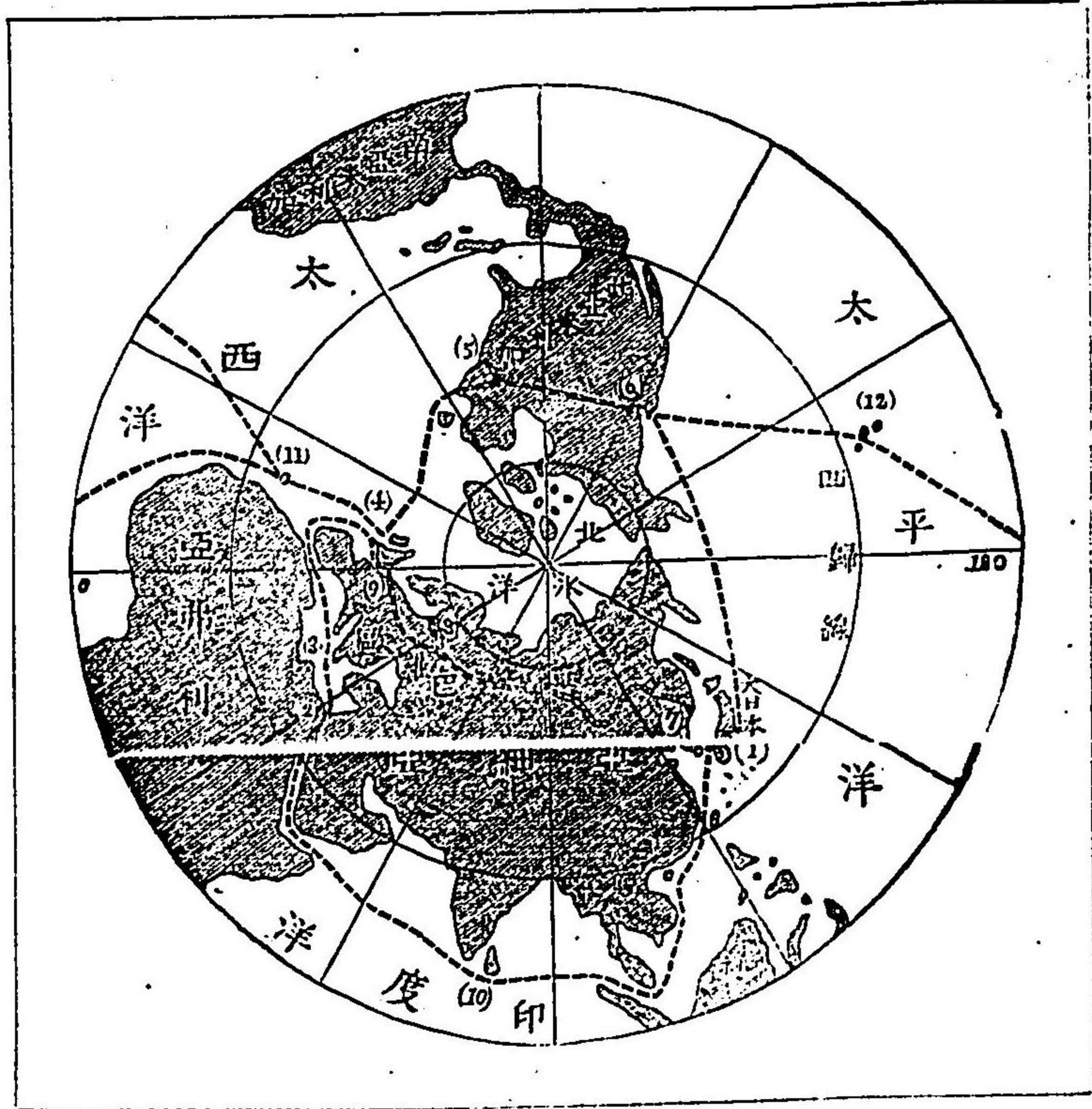
今我が横濱を起點とし、水路兩路を利用して、最も迅速に全世界を一週する通路を求むれば、先づ程を

- (一) 横濱より發し、蘇士スエズを経て、ブリンヂシーに至る 四十二日
 - (二) ブリンヂシーより、ジブラルタルの海峡を過ぎ、サウサムプトンに至る、 四日
 - (三) サウサムプトンより太西洋を横ぎり、紐育ニューヨークに至る、 六日
 - (四) 紐育より加奈多太平洋鐵道に乗り、ヴァンクローヴァーVan Cloufferに至る、 五日
 - (五) ヴァンクローヴァーより太平洋を航し、横濱に歸る、 十三日
- にして、凡そ七十日の旅程を費すに過ぎず。されど、目下工事中に屬する、西伯利亞大鐵道の、一朝竣工するに至りて、横濱を起點とし、全世界を一週せば、

- (一) 横濱を發し、浦鹽斯德ポルトランドに航し、 八日
- (二) 浦鹽斯德より、瀛車セントペートルスボルクに乗て、聖彼得堡セントペートルスボルクに至る、 十日

- (三) 聖彼得堡より再び瀛車に乗て、ブレイメンブレメンに至る、 二日
 - (四) ブレイメンより、太西洋に航し、紐育に至る、 七日
 - (五) 紐育より加奈多太平洋鐵道に乗て、ヴァンクローヴァーVan Cloufferに至る、 五日
 - (六) ヴァンクローヴァーより、太平洋を航し、横濱に歸る、 十三日
- にして、旅程四十五日を要し、現時の最近旅程より、猶二十五日を短縮す。その上ニカラガ運河の開鑿に際せば、著しく船舶の航路を縮短し、現時、倫敦ロンドン桑港間サンフランシスコの航行は、南亞米利加の南端を廻航せるを以て、航程一萬三千六百海里なれども、七千海里を短縮して六千六百海里となり、倫敦、布哇間ハワイは、同じく航程一萬二千三百海里なれども、五千六百海里を短縮して、六千七百海里となり、皆殆ど航程の半ばを減す。ことに紐育、桑港間は、航程一萬二千八百海里なれども、七千九百六十海里を短縮して、殆ど航程三分の一を減するを以て、此等大工事の竣工せるに至らば、全世界の貿易に、至大の關係を及ぼすに至らん。

の諸國は、獨逸を以て第一とし、^{フランス}佛國、^{イギリス}英國、^{ロシア}露國、^{オーストリア}奧國、^{イタリア}伊國、^{スペイン}西班牙等之れに亞
 ぎ、鐵道の最も稠密なるは、全地球上獨り^{ベルギー}白耳義を以て第一とす。
 水路は最も至便なる交通路にして、往昔より櫓船、帆船を以て人衆及び重
 要なる貨物の漕運を支配し、洋海を航するには、終始風力を離るゝ能はざ
 るを以て、交通上の不便少なからざりしが、西曆千八百一年、^{サイモン}ト
 氏始めて蒸氣力を、航船に應用することを發明し、その後數年を経て、^{フルトン}フ
 氏の考案に成りたる、一氣船を使用せしより、世界の水路交通は、漸次迅速、
 確實、安全、利便となり、西曆千八百十九年に、氣船の始めて大西洋を航行せ
 しより、帆船の領域は、殆ど氣船の侵略する所となり、ことに^{スエズ}蘇士運河の開
 通以來は、著しく世界の航路を短縮し、從來、世界を周航するには、凡そ三年
 を要したりしも、今は、僅に二ヶ月餘を以て一週するに至れり。



圖之路通過一界世

(1).....橫濱	世一通過之 圖界週路	(7) ウラジゴストック
(2).....スエス		(8) 聖ペートルスホルゲン
(3).....アリンヂシ		(9).....アレメン
(4).....サリザムプトン		(10).....印度セロー
(5).....ニューヨーク		(11).....カナリー
(6).....ヴァンクーヴァー		(12).....ハワイ

今我が横濱を起點とし、水路兩路を利用して、最も迅速に全世界を一週する通路を求むれば、先づ程を

(一)横濱より發し、蘇士スエズを経て、ブリンヂシーに至る 四十二日

(二)ブリンヂシーより、ジブラルタルの海峡を過ぎ、

サウサンプトンに至る、

四日

(三)サウザンプトンより太西洋を横ぎり、紐育ニューヨークに至る、

六日

(四)紐育より加奈多太平洋鐵道に乗り、ヴァンクローヴァー

に至る、

五日

(五)ヴァンクローヴァーより太平洋を航し、横濱に歸る、

十三日

にして、凡そ七十日の旅程を費すに過ぎず。されど、目下工事中に屬する、西伯利亞大鐵道の、一朝竣工するに至りて、横濱を起點とし、全世界を一週せば、

(一)横濱を發し、浦鹽斯德ウラジスラフに航し、

八日

(二)浦鹽斯德より流車セントペートルスボルクに乗て、聖彼得堡セントペートルスボルクに至る、

十日

(三)聖彼得堡より再び流車に乗て、ブレーメンブレメンに至る、

二日

(四)ブレーメンより、太西洋に航し、紐育に至る、

七日

(五)紐育より加奈多太平洋鐵道に乗て、ヴァンクローヴァー

に至る、

五日

(六)ヴァンクローヴァーより、太平洋を航し、横濱に歸る、

十三日

にして、旅程四十五日を要し、現時の最近旅程より、猶二十五日を短縮す、その上ニカラガ運河の開鑿に際せば、著しく船舶の航路を縮短し、現時、倫敦ロンドン桑港サンフランシスコ間の航行は、南亞米利加の南端を廻航せるを以て、航程一萬三千六百海里なれども、七千海里を短縮して六千六百海里となり、倫敦、布哇間ハバワは、同じく航程一萬二千三百海里なれども、五千六百海里を短縮して、六千七百海里となり、皆殆ど航程の半ばを減す、ことに紐育、桑港間は、航程一萬二千八百海里なれども、七千九百六十海里を短縮して、殆ど航程三分の一を減するを以て、此等大工事の竣工せるに至らば、全世界の貿易に、至大の關係を及ぼすに至らん。

最近の統計に據れば、現時世界に於ける、汽船の總數は一萬千二百七十餘艘にして、その噸數は總計千七百八十八萬九千九百噸に達す、その内、英國は五千六百六十餘艘を有して、實に世界の第一位を占め、獨逸は八百四十餘艘、ノルウェー諾威は六百餘艘を以て、英國の次に列す、之れに亞げる者は、佛蘭西の五百四十餘艘、スウェーデン瑞典の四百十艘、スペイン西班牙の三百五十餘艘、露國の三百五十艘、我が國の三百十餘艘等にして、伊太利の如きは、二百三十餘艘を有するに過ぎず、世界の帆船は、總數二萬九千三百十餘艘にして、その噸數は八百八十九萬四千八百噸を有せるが、その内、八千五百四十餘艘は實に英國船なりとす、英國に亞ぐは米國にして、三千七百八十餘艘を有す、之れに亞げる者は、ノルウェー諾威の二千五百九十餘艘、露國の二千九十餘艘、伊太利の千六百餘艘、スウェーデン瑞典の千四百三十餘艘、トルコ土耳其の千四百二十餘艘にして、佛國の如き、海運の事業は、嘗て久しく世界諸國の上位を占めしも、今は、僅かに千三百六十艘を有するに過ぎず、之れに亞げる者は、希臘の千百六十餘艘、獨逸の千六十餘艘、我が國の七百餘艘等とす、和蘭、スペイン西班牙、ポルトガル葡萄牙の諸國は、往時、航海業

も盛大なりしのみならず、嘗て夥多の殖民地を有して、海運の事業は、海洋に到る處に優勝の勢力を有せしが、今は著しく衰頹に傾き、スペイン西班牙は千百六十餘艘、ポルトガル葡萄牙は二百四十餘艘、和蘭は六百三十餘艘となれり。

電信の初めて實用をなせしは、西曆千八百四十六年にして、海底電線は西曆千八百五十年に、英、佛間に沈設せしを首とす、されど、現今世界の陸上電線は二百萬哩以上に達し、海底電線は十五萬哩以上に延長す、就中、大西洋の兩岸を連結する海底電線は、その數七線に達せり、我が國より諸外國に通ずる電信は、長崎より上海、シンガポール西貢、マドラス新嘉坡、マドラス孟買、ボンベイ亞丁、スエズ蘇士等を経て、地中海歐羅巴洲に至る者を主線とすれども、又孟買より、ベルギー比耳路斯坦の海岸に沿ひ、ペルシヤ波斯灣に入り、ユーフレチース河の谿谷を傳ひ、ボスニアボスフォラス海峡を渡り、コンスタンチノープルコンスタンチノープルに至り、バルカン歐羅巴線に接する支線と、長崎より浦鹽斯德に通じ、西伯利亞内地を経て、シベリア歐羅巴線に接する二線あり、又新嘉坡よりは別に支線を派し、ジャバ島を経て、オーストラリア濠洲大陸に達せり、若し、太平洋兩岸を接續する、海底電線にして沈没せるに至らば、電線は世界を一週する

を以て、我が國より米國に達する通信は、歐洲を迂回するに及ばざるに至らん。

第二章 亞細亞洲

北緯七十八度十二分 || 南緯十度
東經二十六度三分 || 百六十九度
面積二百七十五萬餘方里
人口凡そ八億
四千六百二十五萬

亞細亞は東半球の東部に位し、北は一面北氷洋に沿ひ、東は太平洋に面し、南は印度洋に瀕し、西はウラル山脈、ウラル河及び裏海、黒海を以て歐羅巴洲と界を分かち、蘇土地頸を距て、亞弗利加洲に對す、面積二百七十五萬餘方里、人口凡そ八億五千萬ありて五大洲中第一の大陸なり。本洲は歴史上及び政治上分かちて日本、朝鮮、支那、交趾、印度、

馬來群島、印度、西伯利亞、中央亞細亞、亞富汗、比耳路斯坦、波斯、外部高加索、亞細亞、土耳其、亞拉比亞の十四區となり、交趾印度又分かれて東京、安南、交趾支那、カムボヂヤ、暹羅、緬甸、海峽殖民地の諸部となれども、大部は露、英、佛等の諸國に分屬し、獨立の國をなせるは、我が國及び朝鮮、支那、暹羅、波斯等の數邦に過ぎず。

歐亞大山脈は、東に喜馬拉耶山脈よりパミール高原を経て西に走り、裏海の南より、ボスフォラスの海峽を越へ、バルカン山脈に續きて本洲を東西に亘れども、大山脈の主軸たるパミール高原は、更に一脈の大山脈を南北に派し、南は直ちにスリマン山脈に續きて、印度と亞富汗との界を劃り、猶南



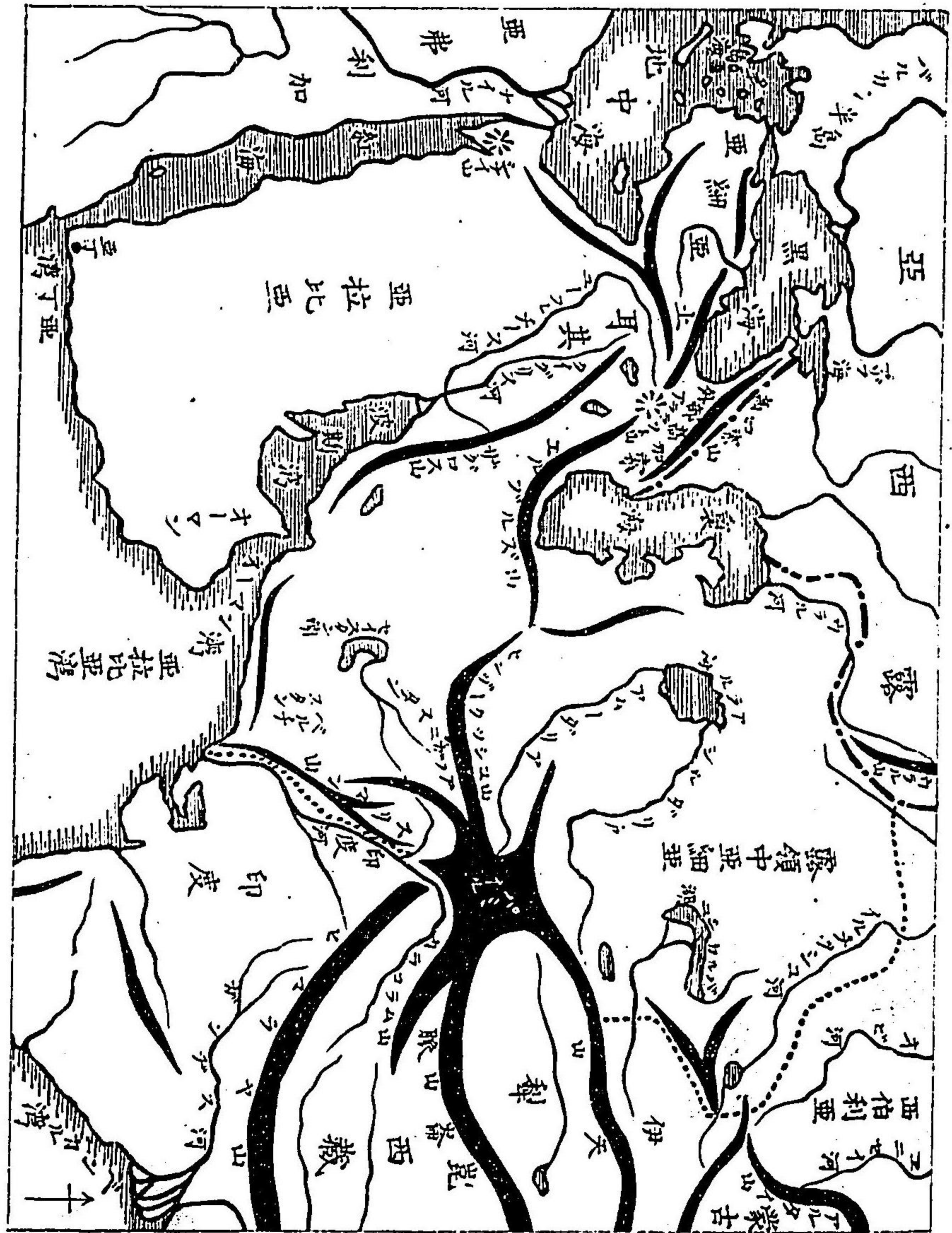
(圖之亞細亞方東)

にハラ山脈となりて印度洋に盡き、北は葱嶺脈、天山脈となり、稍東に向ひズンガリア通路を開き、再びアルタイ山脈を起し、東北に延びヤブロンイ山脈となり、スタノヴォイ山脈に續きて、終に西伯利亞の東北隅、ペーリング海峡に突出す、パミール高原を中心として、南はスリマン山脈が、ハラ山脈に連なり、印度洋に盡くる處より、北はスタノヴォイ山脈が、ペーリング海峡に終る一帶の連脈は、自然に亞細亞を東西の二大部に區劃する分界線にして、パミール高原の以東を東方亞細亞、以西を西方亞細亞とす、世人が所謂東洋諸國とは、大抵此の東方亞細亞の呼稱なり。

東方亞細亞は地勢大體山岳多けれども、殊に歐亞大山脈の

一部なる喜馬拉耶山脈は、パミールより東南に、支那、印度の間を馳せ、餘勢支那に入り、南嶺に續きて全土を南北の二部に分かつ、北部は支那本部獨り地低く、土肥ゑるも、大部はパミール高原より分岐せる諸山脈、東西を横斷せるを以て伊犁、蒙古、西藏の地は、一般に不毛の高原をなし、雨量乏しく、朝露だも生ぜざる處あり、南部も、域内到る處に山岳を充たせども、皆歐亞大山脈の分派なるを以て、山勢殊に低く、漸次南方に開き、豐沃なる原野をなせり。

西方亞細亞は地區甚だ廣く、南は熱帶より北は寒帶に亘るを以て、地勢頗る錯雜すれども、歐亞大山脈を以て大體南北の二部に分かれ、南部は亞細亞土耳其の東、雙兒河領の一帯



(圖之亞細亞方西)

のみ、波斯灣に傾き、地稍平坦なるのみにして、その他は高臺
 燥地山地砂地等を交へ、一般に高原なれども、北部は大體草
 原多く、漸次北に開き低平となり、西伯利亞の西部は殊に廣
 大無限の沃野を成せり。

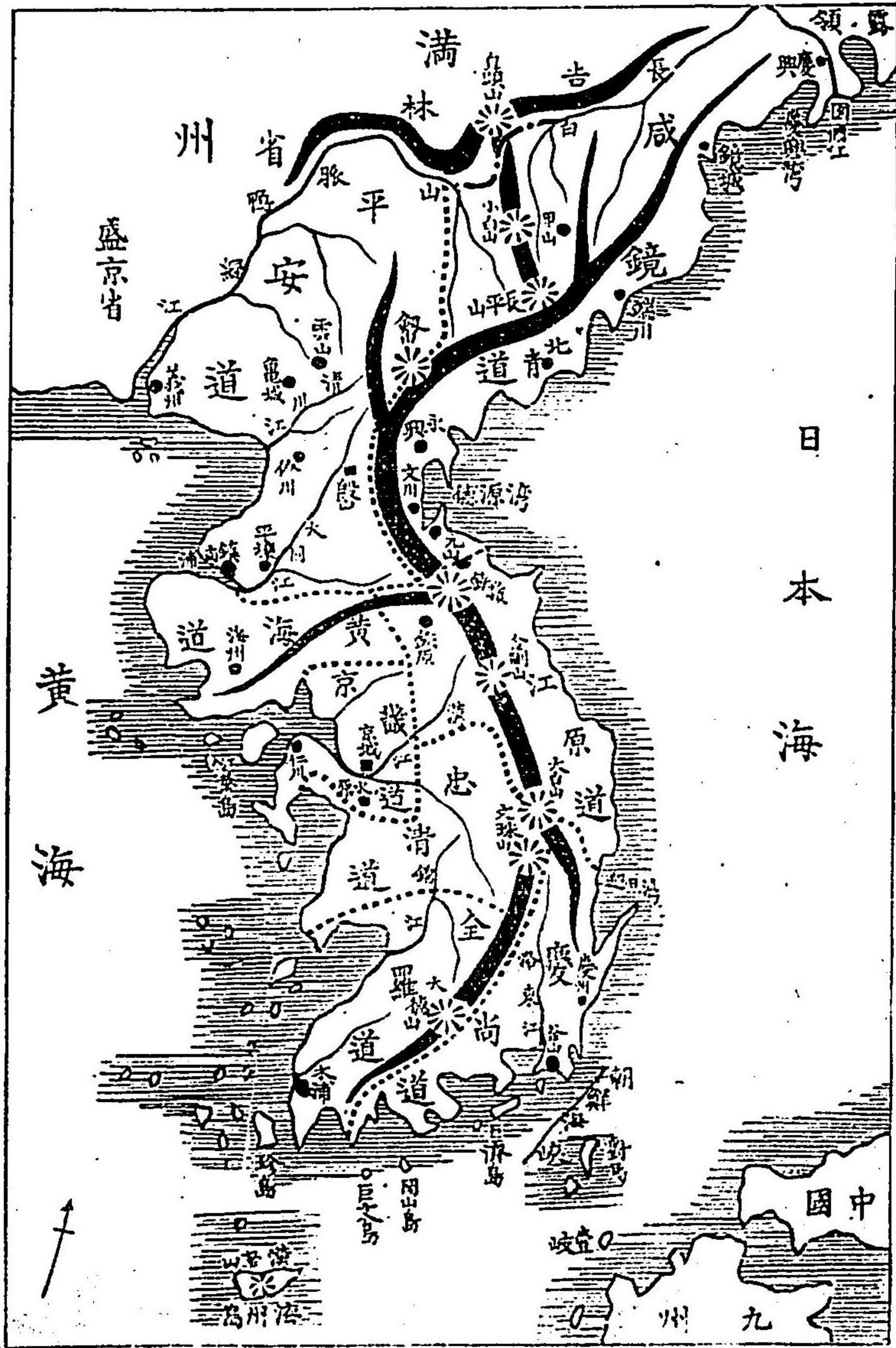
(一) 朝鮮

北緯三十三度十五分—四十二度二十五分
 東經百二十四度三十分—百三十度三十五分
 面積一萬三千八百方里人口千五十三萬餘

朝鮮は國名を大韓と號し、亞細亞の東南より海中に突出して、黄海と日本
 海とを兩分す、北は長白山脈を以て滿州と圖們江を距て、遼領西伯利亞
 とに接し、東は日本海を限り、南は朝鮮海峡を距て、我が國に對し、西は黃
 海に臨む。

全國を分ちて京畿道、忠清道、慶尙道、全羅道、江原道、黃海道

平安道、咸鏡道の八道とす、近時、施政の便宜により、忠清、慶尙



(圖之國鮮朝)

全羅、平安、咸鏡の五道を南北に分ち、之れに三道を加へて十三道とせり。

沿海は三面海に瀕し、黄海より朝鮮海峡に至る間は、海岸屈曲して仁川、釜山、木浦、鎮南浦等の良港あれども、日本海に臨める方は、斷崖高く海岸の凸凹に乏しく、僅かに慶興灣、徳源灣、延日灣等の二三に過ぎず、島嶼も西より南に多く、その内、濟州島、巨濟島、珍島、江華島、閑山島、巨文島、絶影島、月尾島等は最も著名なり。○地勢は長白山脈の白頭山より、餘脈日本海に沿ひ、東南に分かれ、更に西南に延びて海に没し、再び濟州島の漢拏山に亘り、恰も國の脊梁を成し、支脈更に四方に分派し、國中に蟠まれるを以て、山岳丘陵處々に起伏し、鴨綠江、

大同江、漢江、圖們江、洛東江等の諸流東西南南に分流す。

此の國の緯度を移して我が國に嵌めなば、南は九州の北端より、北は殆ど北海道の小樽に至るが故に、大體の氣候は我が國と大差なき理なれども、寒暑共に劇しく、夏は六月より九月に至り、室内に屏居しきれず、冬亦十一月より三月の間は、戸外に出で、業をなすと能はず、殊に三南地方は、夏期室内にて洋蠟炎熱の爲めに溶け、北道地方は、冬期酒類凍り、玻璃瓶を破ぶるとあり、沿海の諸道は、冬は積雪常に尺に餘り、漢江の如きは、江上能く人馬を往來せしむるも、三南地方は、稍温かに、嚴冬雪ふると稀に二三尺に過ぎず。

物産は古來農産を主とし、米、麥、豆、高粱、人參等を出だすも、地

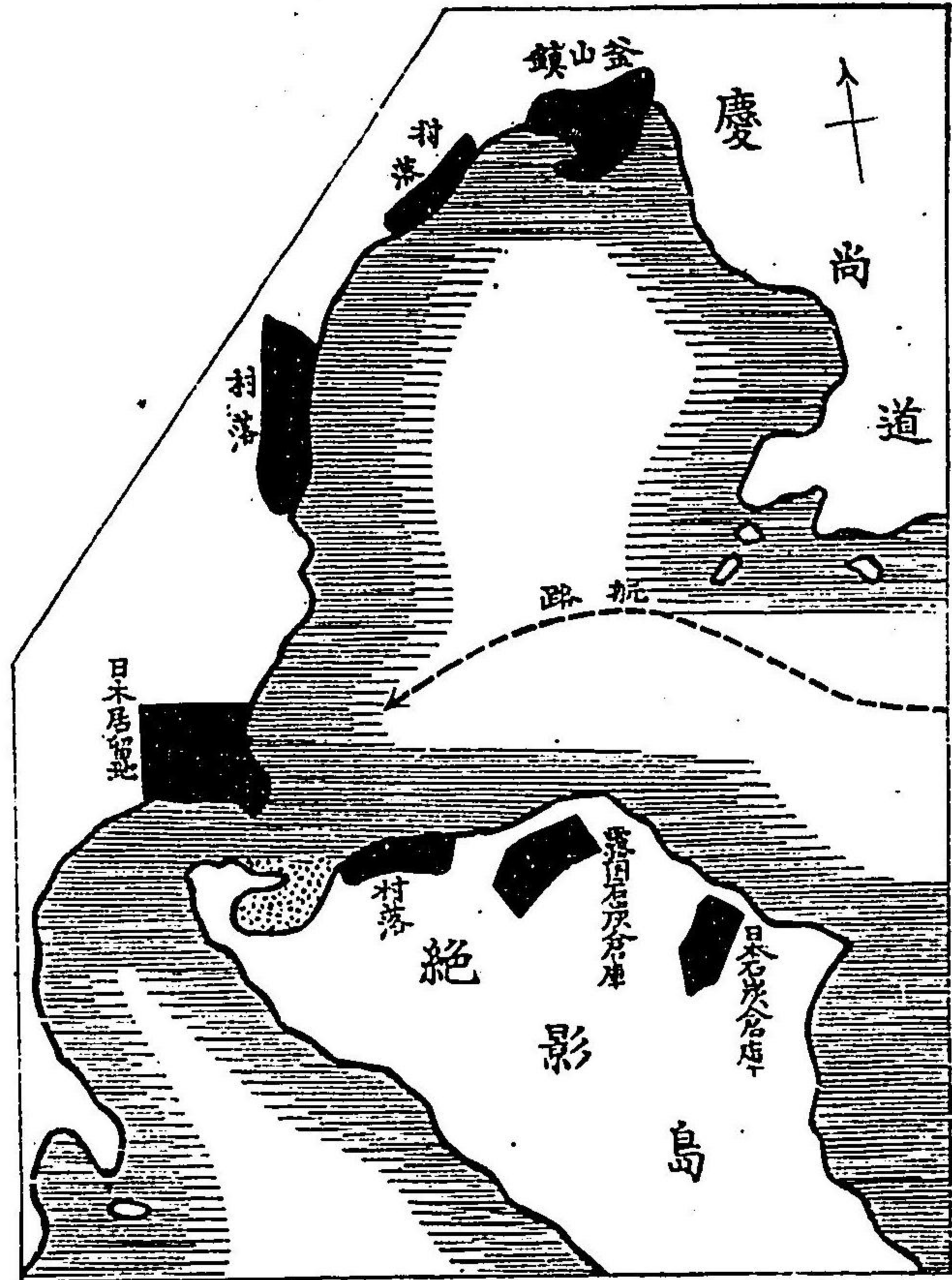
大抵耕作に適せざるに農民の怠惰なることにより品質悪し、植物は北方の諸山に松柏、山毛櫸、枹、槭、樹、榆、樅等の良材を出だし、三南地方及び諸道の都邑に接せる山地にも亦植物の生育に適せざるにあらざれども、樹木の濫伐を禁ぜざりしより、秃童不毛の觀あり、獸類は我が國に産する者と殆ど同じきも、虎、豹及び騾馬は我れになき者とす、獨り犬は國中甚だ多く、家毎に二三を畜ひ、その皮を敷物とし、その肉を食す、海産物は大口魚、明太魚、海參、鱘、鱈、干鰯、昆布等を産すれども、人民貧しく、且つ材木に乏しきが故に、我が國の漁民は、税關の免許を得て、捕獵に従事せり、鑛物は古來人民に採掘を許さざりしが故に世に知られざりしが、金、鐵、砂金は鑛床廣く、

品質亦佳良なり、金、砂金は平安道の雲山、殷山、咸鏡道の永興、端川に多く、鐵は平安道の价川、龜城、咸鏡道の文川、北青、甲山、黃海道の海州附近に於ける鐵峴、及び慶尙道の慶州等より多く採掘す、されど銅、銀、鉛、石炭はその量少なし。内地の商業は、二三の都會を除けば甚だ不振にして、一週僅かに一度市場を開き、雜穀、綿布、馬、牛、鳥、魚等の物品を交換するに過ぎず、外國貿易もまた發達の域に向はず、唯我が國産消費の區域のみ、年々増加の傾あり、輸出は米、大豆、小豆、牛皮、生牛等を主とし、外に紙、人參、牛骨、木綿、干鰯等あり、輸入は金、巾、寒冷紗、毛布、絹布、石油、砂糖、燐寸、石炭等、日常の需用品を主とし、貿易は皆仁川、釜山、元山、木浦、鎮南浦に於てし、外に、慶尙

道の馬山浦、全羅道の郡山浦、咸鏡道の城津浦を開港場とし、平安道の平壤を開市場となせども貿易未だ盛んならず。

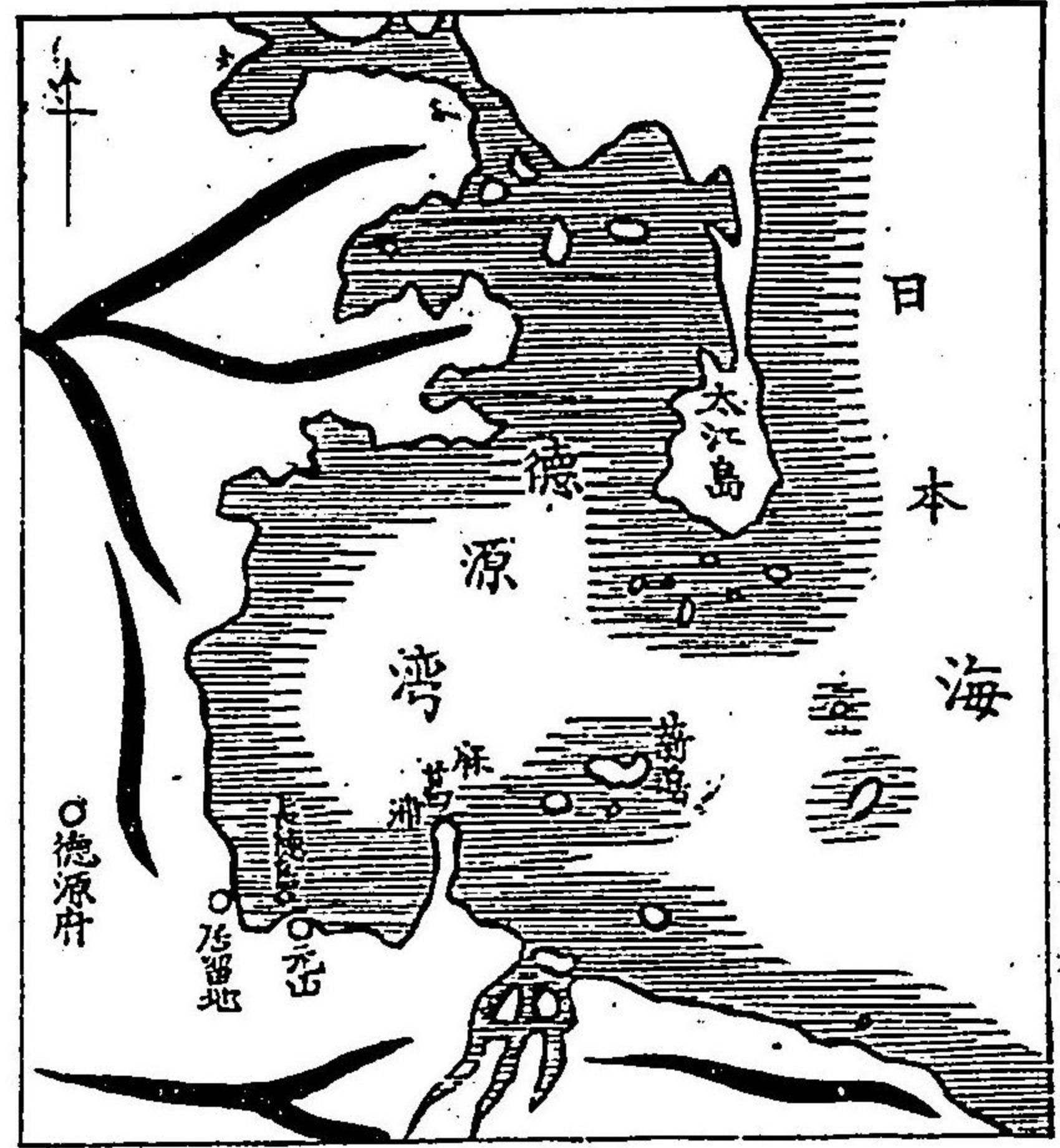
仁川は京城の西海、六里餘の海岸に位し、往時は漁村なりしが、今は人口凡そ二千を有す、港内水浅く大船を入る、能はざれども、京城の咽喉に當るを以て、繁華は國中第一に位す、居留地は英、清、露、獨と市街を並べ、我が居留地は露、清の中央を占め、人口四千餘あり、本港の輸出は大豆、小豆、米、麥、牛皮、牛骨、人參、砂金を主とし、金巾、木綿、絹織物、紡績絲、石油、雜貨類を輸入す、長崎へ直航四百五十八海里あり。

釜山は慶尙道の東南に位し、四十海里を距て、我が對島に對し、快晴の日には遙かにその炊煙を望む、灣内廣く港口に絶影島を横たへ、我が居留地は灣の西部に位し、別に一區をなす、國人の在留せる者五千餘あり、輸出は大豆、米、麥、牛皮、魚類、海草等を主とし、金巾、木綿、銅、錫、海産物を輸入す、長崎へ直航百六十海里あり。



(圖之港山釜)

元山は德源灣の南岸に位し、人口凡そ二萬、多くは家猪を飼養し、糞穢路傍

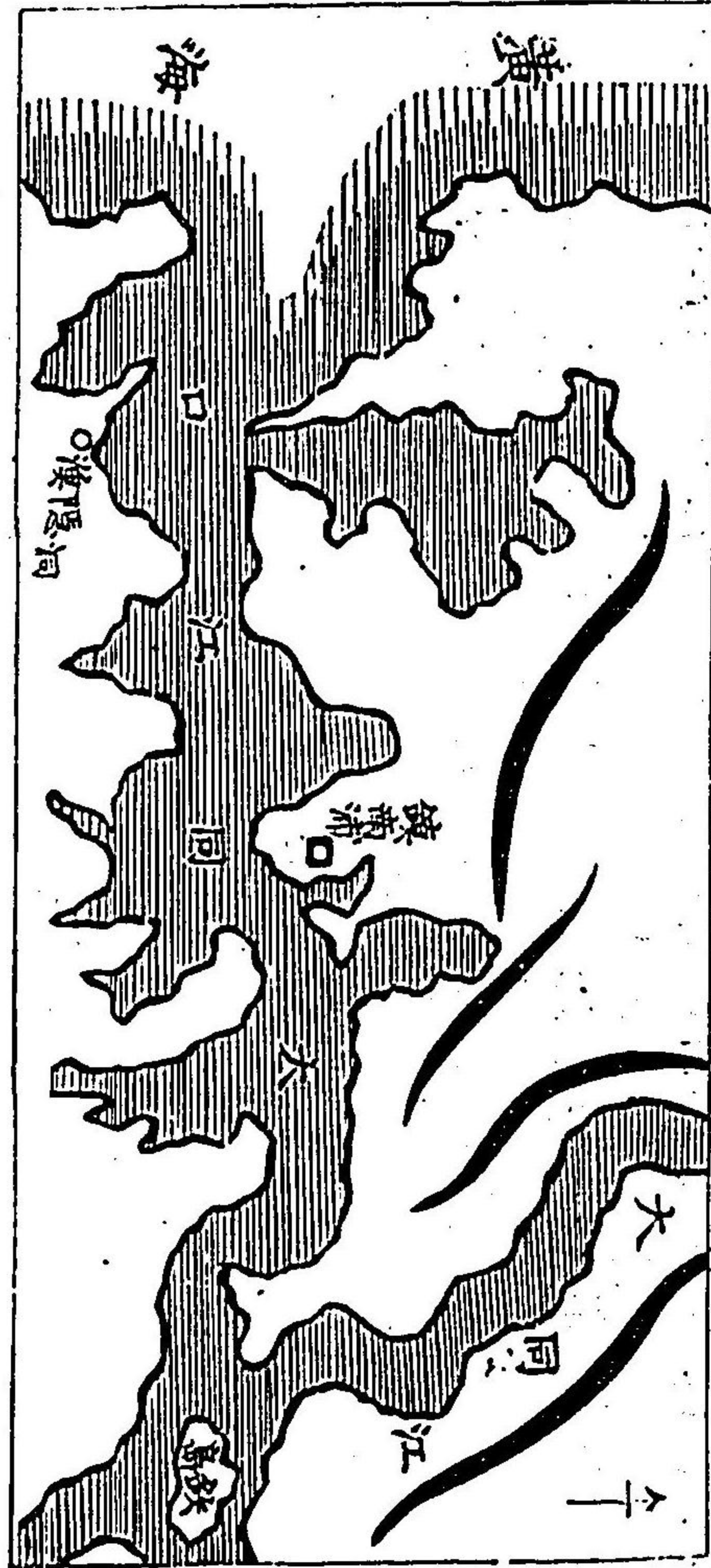


(圖之近附山元)

に堆れるが故に臭氣甚し、我が居留地は港の西北岸を占め、人口凡そ千三百許あり、輸出は牛皮、牛骨、大豆、明太魚、砂金、海參等を主とし、打綿、木綿紡績絲、毛布、金巾、酒類、染料、諸金屬等を輸入す、長崎へ航程四百六十

海里、馬關へ三百八十海里あり、

鎮南浦は平安道の西南隅に位し、大同江を浜ると、四里の江岸にある一村落なり、戸數凡そ百二十餘、人口四百七十餘なれども、明治三十年十月に開港せしより、市街俄に繁榮に趣き、平安、黃海、江原、咸鏡等諸道の商民、踵を接



(圖之近附浦南鎮)

して四集し、外人の居留せる者は我が國人最も多く、外に、支那人、米國人あり、物産の集まる者は米穀、砂金最も多く、又大豆、小豆、麥、棉、牛皮、牛骨、木綿、黍、粟等夥し、此の地は日清戦争の當時、我が兵站部を置きし處なるを以て、村民最も能く我が國民に親昵す。

木浦は鎮南浦と同時に開港したる貿易港にして、全羅道の南端、榮山江の河口に位す、港内水深く、一時に大艦百餘隻を容るゝに足るのみならず、港

口の内外には、許多の島嶼羅列せるを以て、能く強風怒濤を防ぎ、韓國稀有の不凍港とす。此の地は國中第一の農産物多き處にして、米、麥、大小豆、稗、黍等の穀類より、實綿、牛皮、牛骨、木綿、麻等は皆他道に輸送してその需用を充し、近海亦著名の漁獵場にして、鱈、鯛、鰈、海苔、鰯等の魚類は、多く乾物又は鹽漬として輸出す。我が國人の在留せる者四百餘人、領事館を設け、居留地は十萬坪を劃せり。船便は未だ定期の者なきも、大阪商船會社は此處に支店を置き、仁川、大阪間を二週間に一回往復するの途次此に寄航す。

漢陽は漢城又は京城と稱す。漢江の北岸に位し、人口十八萬外に、外國人三千餘あり。府の周圍は四方に城壁を繞らし、八門を設け往來を通ず。王城は景福宮と稱し、府の中央を占め別に一郭を設け、河流を引て濠となす。我が國人の居留地は南大門の近傍、泥峴にありて、在留せる者凡そ二千あり。外

に平壤、開城、公州、全州、大邱、咸興、海州等は地方繁華の都會なり。就中、平壤は此の國最古の都にして、人口十萬餘。大同江に臨み、鎮南浦を距つると二十四里の處に位し、國祖箕子の廟あり。府の東なる乙密臺及び牡丹臺は、之れに通ずる玄武門と共に、征清の役を以て我が國人に知らる。住民は蒙古人種に屬し、階級を兩班、常漢、奴隸の三等に分ち、上下の別甚だ嚴なり。信教は自由にして、上流社會は儒教を尊び、佛教は古へ甚だ盛んなりしが、今は僅かに地方の丘陵に寺觀を残すに止まり、信徒は唯僧侶のみとなりて、人民は殆ど之を顧みず。耶蘇教の如きも、舊教徒六萬、新教徒僅かに千五百人あるに過ぎず。

政體は古より君主專制にして、官制は領議政臣、右議政臣、左議政臣を置き、六衙門の判書と共に議政府を組織せしが、先に我が官制に倣ひ、政府に内閣を置き、内務、外務、度支、軍務、法務、農商務、學務の七衙門を設け、内閣は國務大臣を以て組織し、各大臣の首席に總理大臣あり、地方制度は十三道に各監司を置き、地方一切の政治を行はしむ、陸軍は壯丁の軍籍に列せる者、二十五萬と稱すれども、實際は地方に屯する三萬人と、京城に屯する二大隊とに過ぎず、海軍は兵艦の國籍に列する者なし。

(二) 支那

北緯十八度二十二分—五十六度十六分

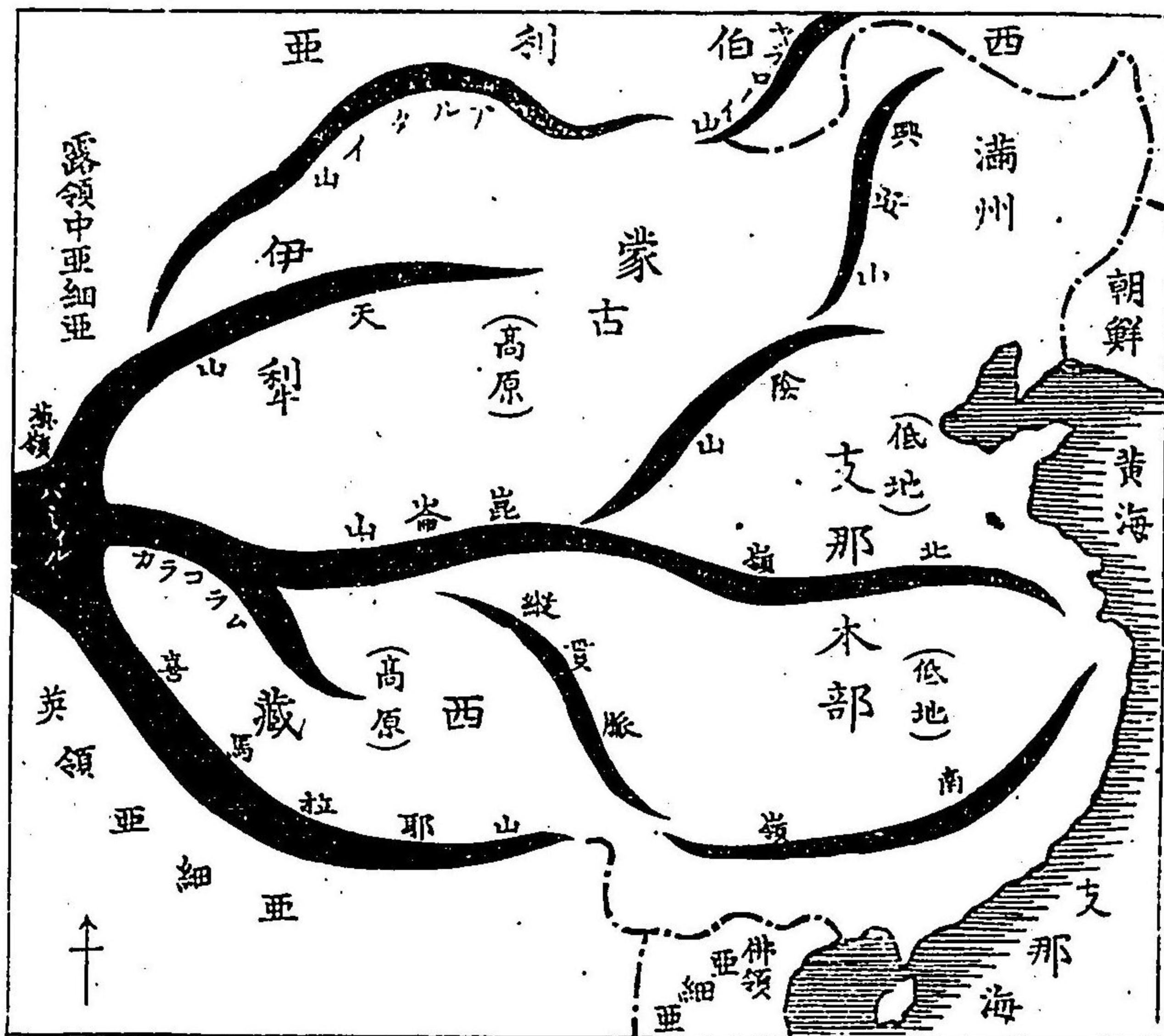
東經七十三度—百三十四度

面積六十九萬九千二百方里、人口三億九千九百餘萬

支那は國號を大清タイチンと稱し、國人は大抵中國チヨウゴと呼ぶ、廣く亞細亞の東南部を占め、北はアルタイ、ヤブロンイ等の山脈を以て露領西伯利亞に接し、東は長白山脈チャンバイヤンモを距て、朝鮮と分ち、東南は太平洋を控へ、南より西は喜馬拉耶フオンリ、葱嶺の諸山脈高く峙ち、交趾印度チヤウチイ、印度、露領中亞細亞を限る、全部分かれて、本部及び外藩ワイフアンとなり、外藩又分かれて滿州、蒙古、伊犁、西藏の四部となれり。

地勢は全部パミール高原の以東を占め、大體西より東に低下し、國內に亘れる山脈は、皆その高原より分岐下降すれども、殊に喜馬拉耶山脈ハパミール高原ヨリ、弓狀に國の西南を擁し、天山脈ファンヤンモはパミールの北なる葱嶺フオンリより分かれて、伊犁

を東西に横断し、その一端は、更にアルタイ、ヤブプロノイの諸脈を起して、國の西と北とを圍み、崑崙山脈はパミールの南なる、カラコラム山脈より分かれ、喜馬拉耶、天山の間を東に馳せ、西藏、伊犁の界を劃り、餘脈東端より三派となり、一は東北に趨き陰山、興安の諸脈となり、一は東に北嶺を起して、黄河と楊子江との間を分かち、一は東南に馳せ南嶺となり、楊子江と廣東河との間を限れるを以て、全形恰も西より東に向へる桐葉の葉脈状をなし、自然に左の三大部に分かる、(一)天山、アルタイ、ヤブプロノイの諸脈と陰山、興安諸脈との間は、地勢多くは高原に屬し、外洋より來る濕氣は、皆諸山脈の爲めに遮ぎらるゝが故に、一般に降雨稀に、不毛の地多く、



(圖 勢 地 の 那 支)

蒙古、伊犁之を領す、古の所謂夷狄、西戎是なり、(二)喜馬拉耶山脈と崑崙山脈との間は、世界第一の高原地方に屬し、大部は拔海一萬二千尺以上に位し、谿谷深く人跡の至らざる處多く、西藏之を領

す、(三)崑崙の支脈なる、陰山、北嶺、南嶺等諸脈の間は、豊沃の平原にして、支那の富源は多く此の地方一帯に存し、支那本部之を領す。

イ) 支那本部

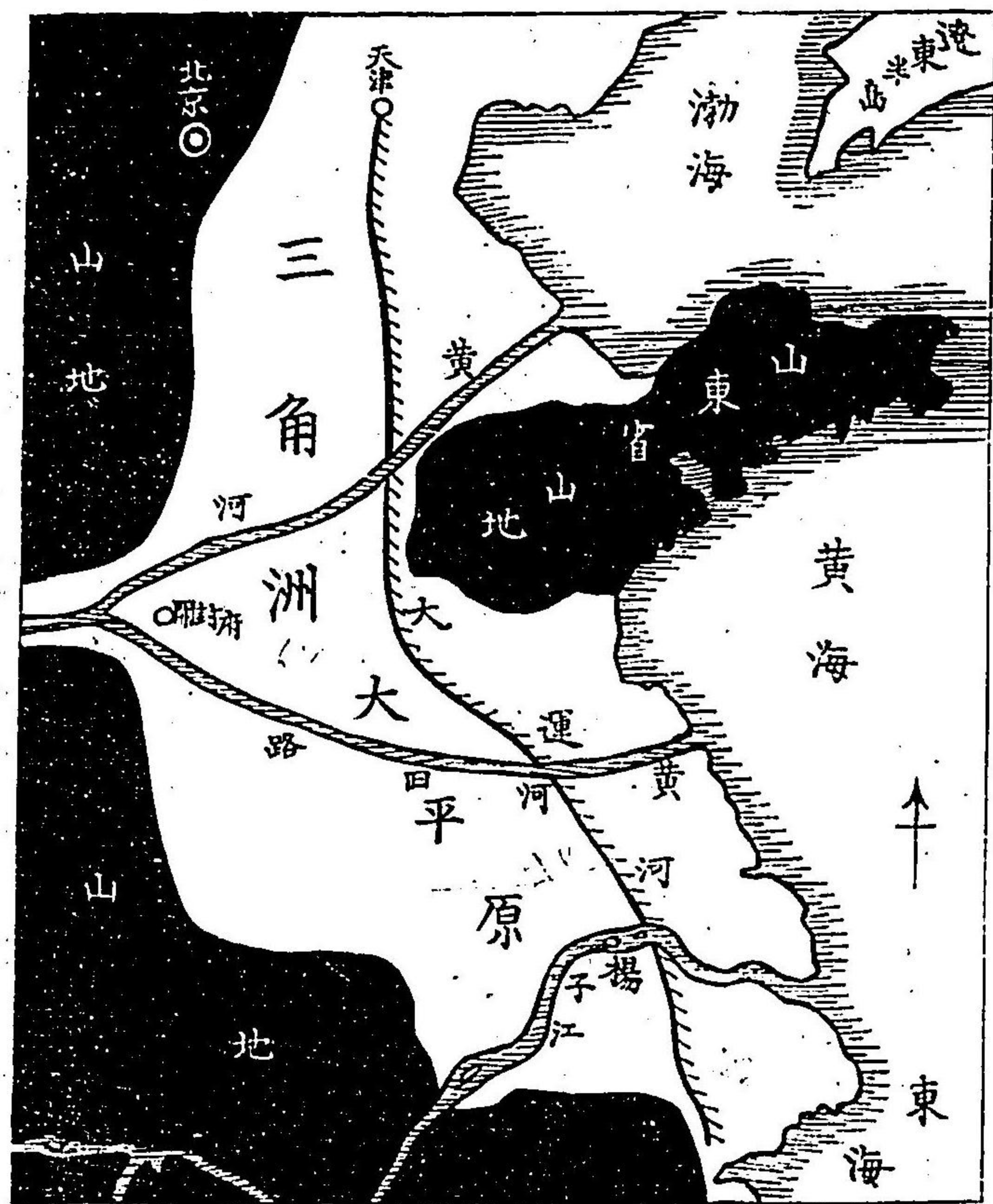
面積二十一萬八千九百方里人口三億八千三百餘萬

支那本部は帝國の東南を占め、北は萬里長城を以て滿州、蒙古と界し、東は渤海、黄海、東海を控へて太平洋を限り、南は支那海及び交趾印度に接し、西は西藏、伊犁に交はる、分ちて直隸、山東、山西、河南、江蘇、安徽、江西、浙江、福建、湖南、湖北、陝西、甘肅、四川、廣東、廣西、雲南、貴州の十八省とす。

地勢は西北隆起して一帯の高原をなし、次第に東南に傾き遂に廣大なる平原となれども、北嶺は黄河と楊子江とを限り、南嶺は楊子江と廣東河とを分かてるを以て、域内自然に

黄河々領、楊子江河領、廣東河領の三部に分かる。

黄河々領は陰山、興安の諸脈と北嶺との間を稱す、沿海一帯は、皆黄河の流



(圖之原平大洲角三)

下せる、土沙の沖積層より成れる三角洲大平原にして、支那の寶庫なりと稱すれども、黄河には水運の利なく、且つ年々の洪水は人民に幾多の困難を興ふ、楊子江河領は北嶺と南嶺との間を稱し、流域

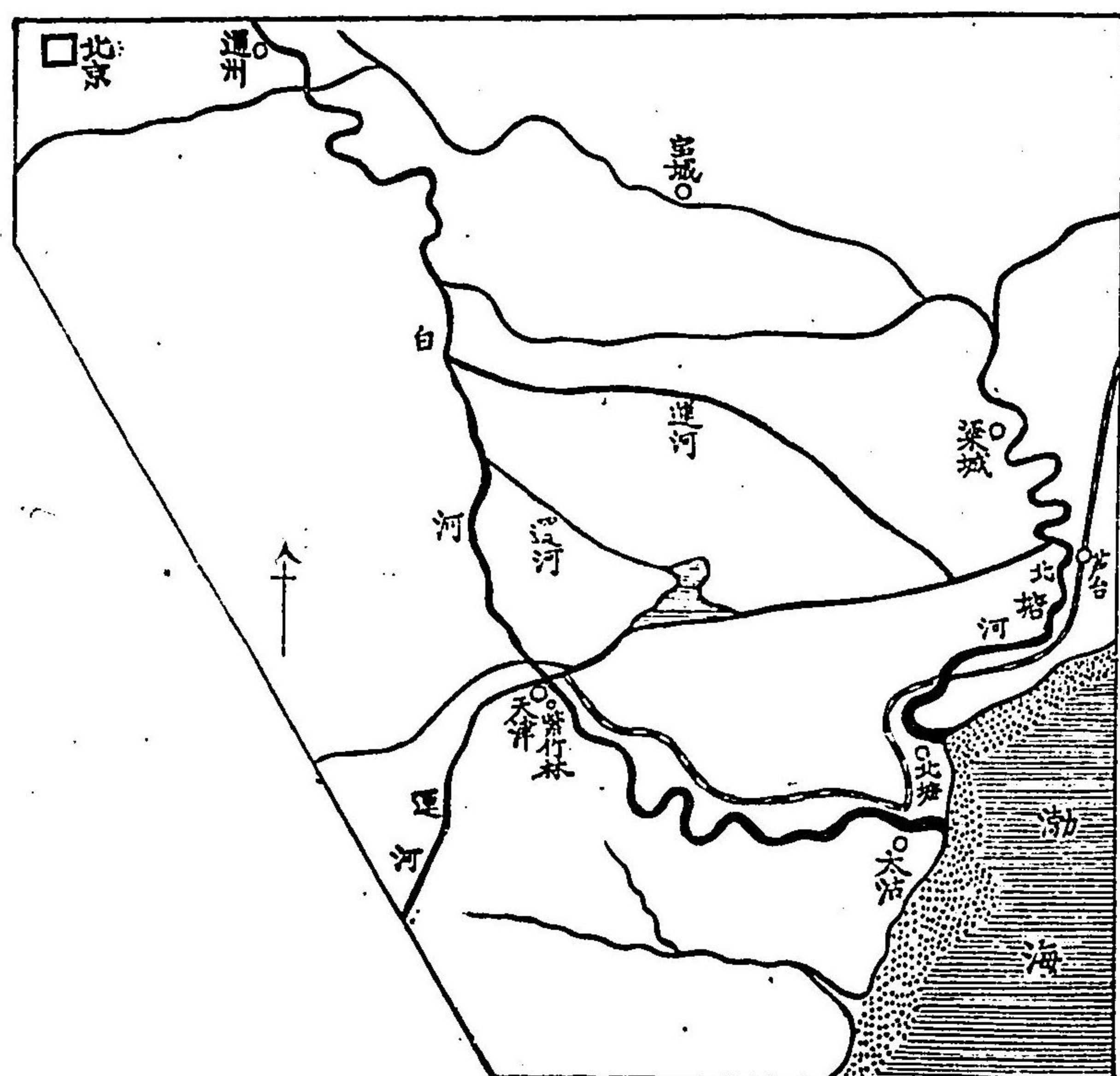
は廣大なる平野多く、桑園相望み蠶業最も盛んに、加ふるに、水運の利甚だ大なり、廣東河領は南嶺以南の一體にして、地形狭く山岳所々に亘れども、水漑の利に富めるを以て、産業開け、又漕運に便なるが故に、沿岸の諸港は船舶常に輻湊せり。

氣候は黃河、楊子江の水域は、濕風常に外洋より吹き來りて、寒暖能く調和すれども、北部は冬夏共に劇し、南部は乾濕の二期あれども、地熱帶に偏せるを以て、氣候温かに、四月より十月に降雨最も多く、沿岸の地は、七月より九月の間、颶風屢起り、災害をなすところ少からず。○物産は、米、麥、豆、玉蜀黍、綿、煙草、麻、砂糖、樟腦、大黃等の産出夥しく、外に、生絲、茶は主要の産業にして、南部、中部に産し、殊に福建省は最も良好なる茶葉を出す、此の茶葉は頗る大にして、その一小片を削り、之を熱湯

に投じて用ゐ、一葉の價往々一兩に上る者あり、阿片も今は重要農産物の一となれり、鑛物は石炭、鐵の鑛床、十八省中到處に存在せざるはなければ、交通の機關未だ備はらざるを以て、猶採掘の盛大を見ず、その他金、銀、銅、鉛、錫、水銀、硫黃、水晶、寶石等を出だせども、産額は少なし。家畜は牧場の乏しきと、國民肉食の盛んならざるにより、割合に少なし。されど、豚、水牛の牧養は甚だ盛んにして、豚は日常の食物とし、水牛は農業に使用す、工業は遠く歐米諸國に及ばざるも、廣東省の卓椅彫刻器物、福建省の繡縫品、浙江省の機織品、江西省の陶磁器、抄紙等は皆有名なり。我が國との取引は、綿、米、砂糖、豆類、油糟、熟皮、苧麻等を輸出し、昆布、石炭、生銅、錫、干鳥賊、寒天、

燐寸等は、我が國より輸入を仰げり、又その貿易場は天津、芝罘、鎮江、上海、蕪湖、九江、漢口、宜昌、寧波、温州、福州、廈門、汕頭、廣東、北海、瓊州、香港、瑪港の外に、馬關條約によりて開きし、蘇州、杭州、重慶、沙市の四港に於てし、近頃更に湖南省の岳州府、福建省の福寧府所屬の三都澳、直隸省撫寧縣所屬の秦王島、上海の外港なる吳淞を開きて、他の開港場に於けるに均しく、通商貿易に従事するを許せども、未だ税關開廳の運びに至らず、又直隸省の張家口は露人、雲南省の蒙自は佛人に限れる特別貿易場なり

天津は渤海の西北、白河を浜る十三里の南岸に位し、人口凡そ九十五萬あり、氣候は寒さ強く、十一月より二月に至り、河水凍りて舟運を絶てども、春

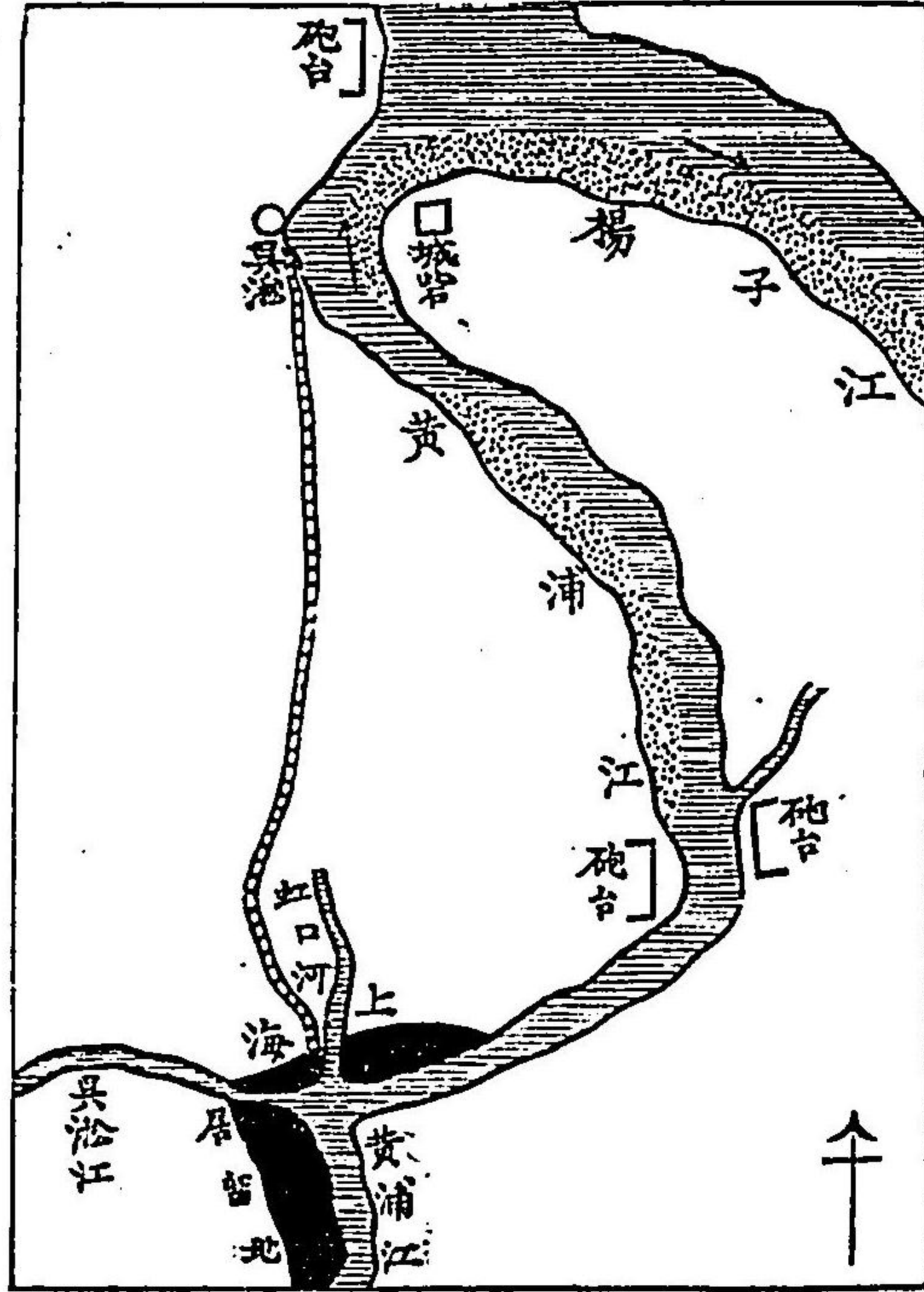


(圖 天津附近之)

期氷解するに及ばず、貢船商舶争て入津し、北京に次ぎ北部地方第一の大都なり、輸出は茶、豆、毛皮、大黃等を主とし、茶は西伯利亞へ、毛皮は歐、米諸國へ輸し、我が國より石炭、生銅、海産物を輸入す、外人の居留地は本港の東南、紫竹林にありて、英佛の租界に分かれ、我が領事館亦此處にあり、本港より北京

へ三十二里。
 芝罘は支那人の烟臺と稱せる處なり、是れ北に出づる半島を芝罘山と稱せしを、外人誤て港名に用ひしより、今は、普通に芝罘と云ひ、人口三萬あり、輸出は山東省の物産を集散するに過ぎざれども、紡績糸、金巾、紙、綿銅、鐵、石炭、砂糖、石油等の外、我が國より茶、昆布、寒天、燐寸、木綿、卷煙草等の輸入あり、本港の東、二十二海里の威海衛は、先に我が混成旅團の駐屯せし處たり、長崎へ航程五百二十二海里あり、威海衛の南、膠州灣一帶の地は、獨逸の借入地たり。

上海は申江又は滬江と稱す、黃浦、吳淞兩江の會流する處に位し、人口凡そ四十萬、日、清、韓貿易の中心に當り、生糸、茶の輸出と、綿布、綿糸、阿片の輸入とは多く、此處を經、輸出入總額二億九千五百萬圓以上に達す、外人の居留地は東北にありて、英、米、佛の租界に分かる、我が領事館は米租界にありて、在留の人民殆ど八百人、長崎より航程四百七十三海里、鎮江は揚子江の南岸に立てる河港にして、人口二十三萬、附近の地、山岳多



(圖之近附海上)

けれども、江水縦横に通せるを以て、南方貢米の北京に輸す者、必ず此處を過ぐ、輸出は米、麥、絹織物を主とし、阿片、毛布、金屬等を輸入す、本港より南京へ陸路二十五里あり、蕪湖は人口凡そ八萬

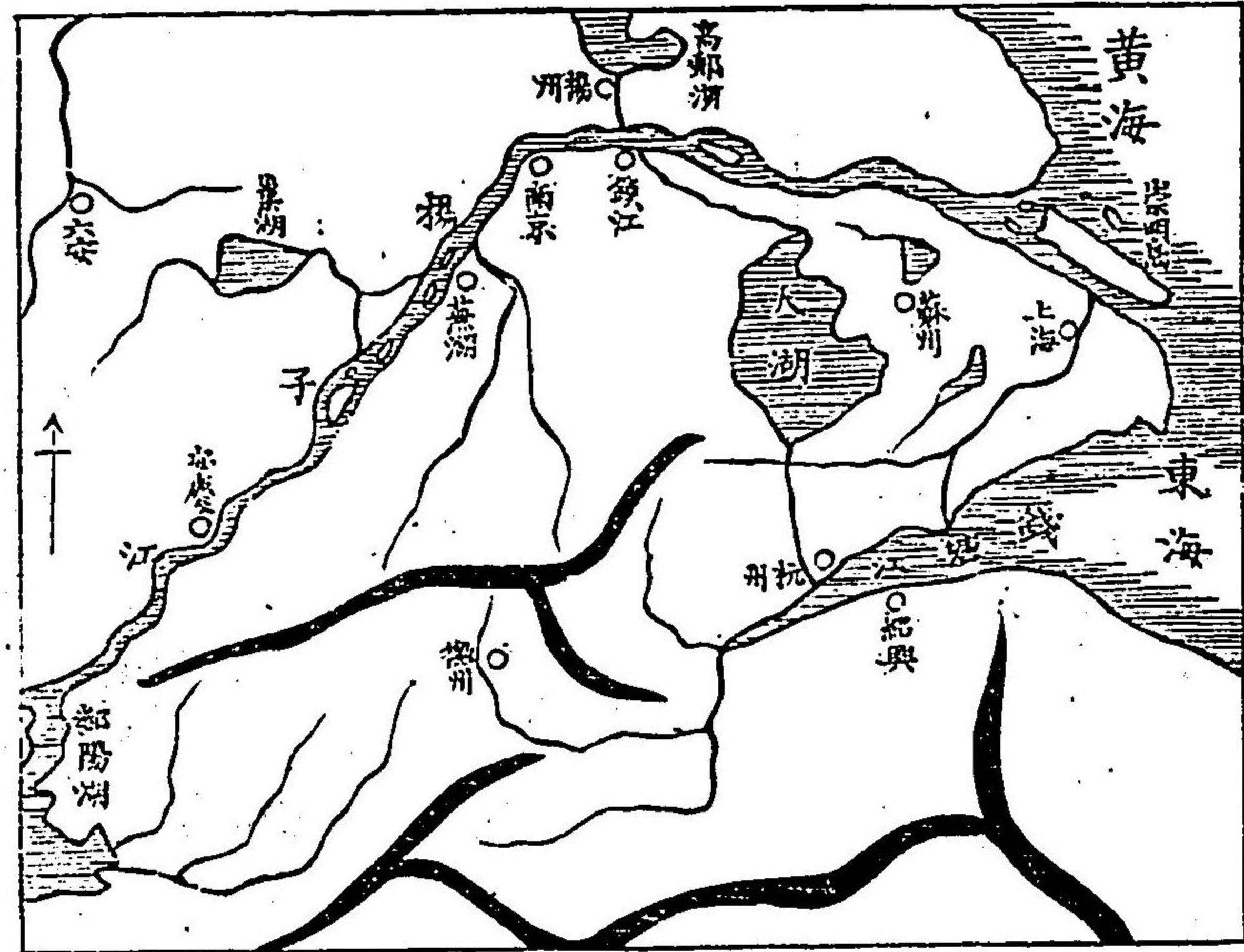
長江の東岸に位し、家屋清潔、市街廣大なれども、貿易は未だ盛んならず、されど、附近は茶、生糸の製産地と水陸の便あるを以て、米、生糸、茶、綿花、麻、等の輸出あり、輸入は阿片を主とす、我が商人亦此處に雜貨を販賣せり。
 九江は長江の南岸に位し、往時は盛大なる都會なりしが、全市大半長髮賊に焼かれ、外人の在留せしより、市況稍舊に復し、今は人口凡そ五萬三千あり

宜昌は長江の北岸に立ち、人口三萬五千あれども、開港以來貿易未だ盛ん



(圖 之 流 中 江 子 楊)

あり。オデッサ、西伯利亞等へ直輸す、我が國産の市場に上る者、薄鐵、板銅、漆器、綿糸、昆布等あり。沙市は人口七萬、長江の北岸に立ち、通商日尙淺きを以て、貿易盛んならざれども、西は蜀江に接し、北は襄陽に通ずる要路なるが故に、前途有望の商港なり、輸出は綿糸、綿牛、皮、鐵、銅、茶等多く、輸入は生金、石油、燐寸、洋傘、乾鮑、海參等あり。



(圖 之 流 下 江 子 楊)

り、茶陶器を輸出し、輸入は蕪湖に同じ、我が國より石炭、昆布、燐寸、洋傘等を輸入す。漢口は人口八十萬、漢水と長江との會流する左岸に位し、内部の諸省と舟運の便を有し、長江河港の中に於て繁昌第一たり、市街は平時淋しきも、製茶地の中央にあるを以て、茶期に至れば、江上は帆檣林立し、輸出は茶を主とし、多くは英國、



(圖之流上江子揚)

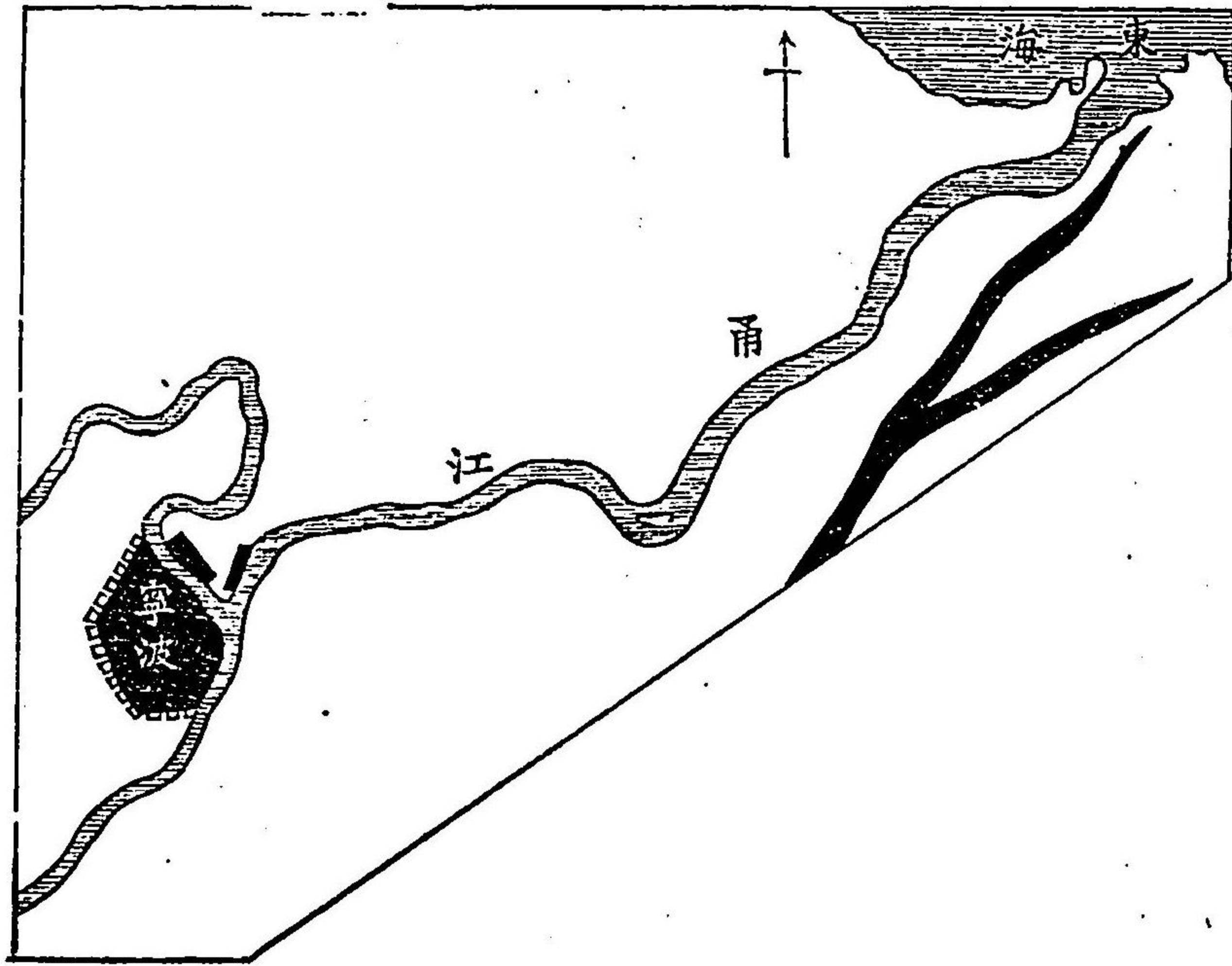
ならず、外人の在留せる者、英國領事等數人に過ぎず、輸入は綿糸、毛織物、染料、昆布等多く、輸出は阿片、生糸、皮類、大黃等を主とす。重慶は人口十一萬、長江と嘉陵江とを控へ、四方に水運の便を有し、諸省の物産を此に集む、此の地は、先に芝罘條約を以て開きしが、住民汽船を好まざるが故に、障害をなさんるを恐れ、本港と宜昌との間は支那船を以て貨物を輸送せしを、馬關條約の結果は、終に諸港と共に開放せり、されど

貿易は日尙淺く、外人は英國領事外數人に過ぎず、我が國も亦此に領事館を置けり、輸出は現時茶、白蠟、麻、木材、鐵、銅等とし、綿糸、棉花、昆布、鰯、寒天、乾貝、乾海老等あり。

蘇州は人口五十萬餘、大運河の東岸に立ち、開港日淺く、貿易は未だ盛んならざれども、諸水縦横に通じ、六七間以下の船艇は自由に航行し得るを以て、前途有望の市場なり、輸出は縐子、縫箔を主とし、生絲、繭、絹糸、綿花、象牙細工、木細工等を上海、杭州、鎮江、寧波等へ輸り、阿片、綿布、石炭、石油、木材、海産物、染料等を輸入す、我が國はこゝに領事館を置けり。

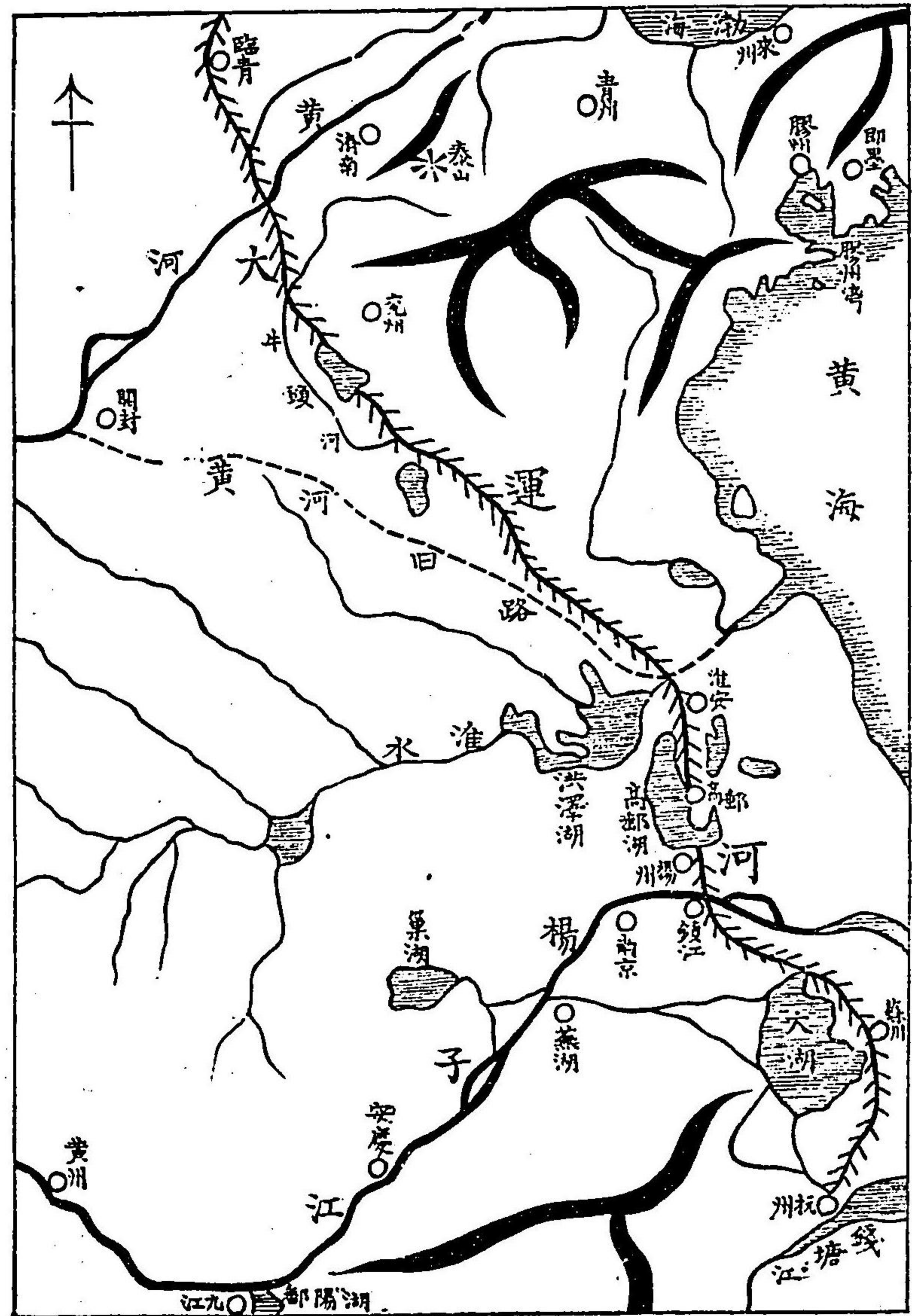
杭州は人口七十五萬、大運河の南端に位し、江流縦横に相通じ、最も交通の便あり、往時は、上海、寧波を経て、絹糸、絹織物、茶、棉花、扇子、錫箔、煙草等を輸出せしが、開港以來市場俄に一變し、上海、寧波と取引盛んに、金巾、木綿、毛布、銅鐵、藥種、海産物、石炭、錫等が主なる輸入とす。

寧波は人口二十六萬、浙江省の東北、甬江を浜る十三海里の北岸に立てるを以て、河流を縦横に疏し、運輸に便なり、居留地は市街の北部にあり、輸出



(寧波之圖)

は綿花、綠茶、生
 糸、扇子等を主
 とし、阿片、金巾
 毛布、錫、砂糖等
 を輸入す、本港
 の東海上に列
 れる舟山列島
 は、往年、英、佛同
 盟軍の臨時根
 據地となせし
 より、其の名世
 に著はる。

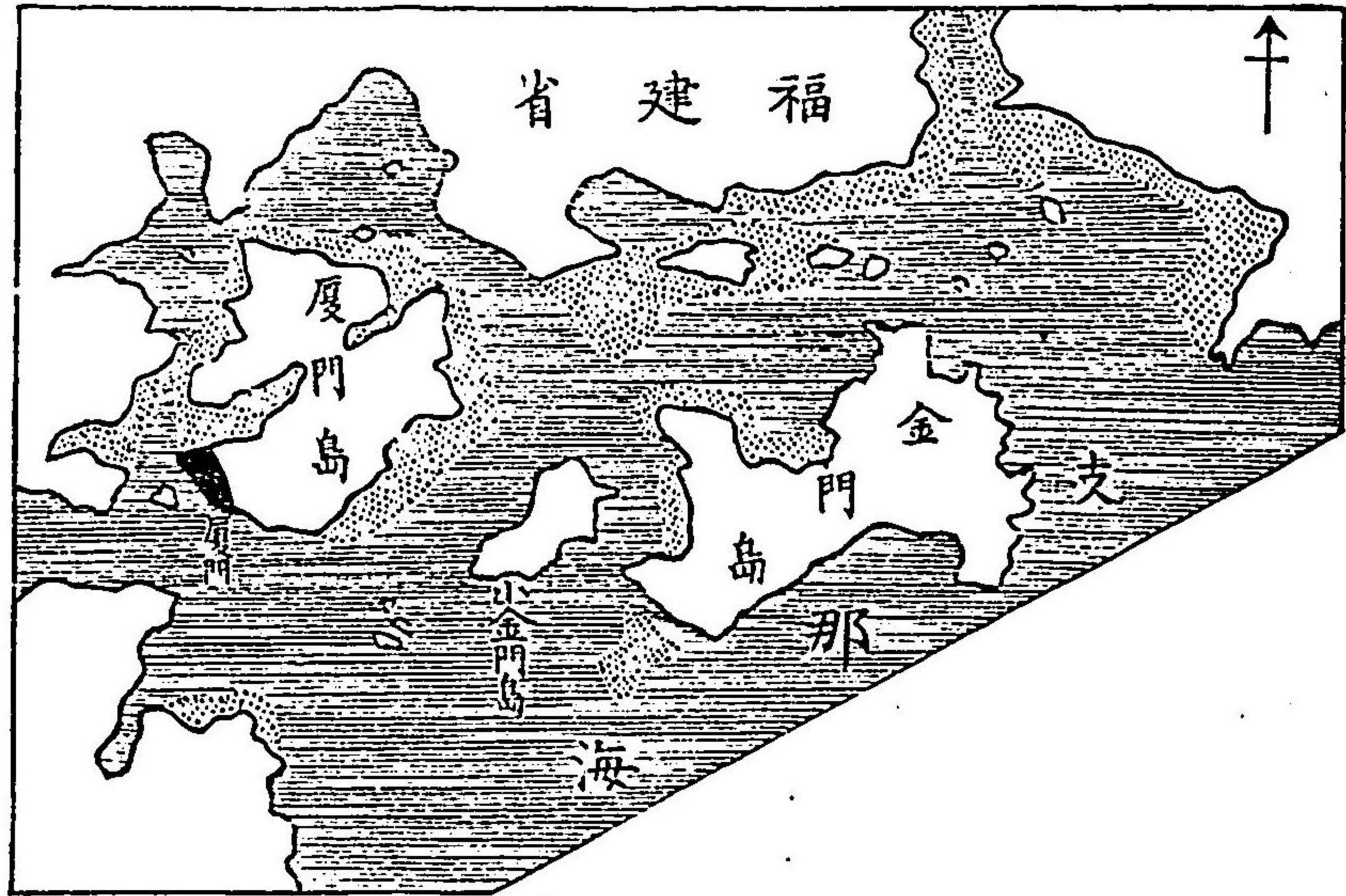


(大運河之圖)

温州は人口凡そ八萬、甌江を浜る二十海里の所に位し、地平らかに運河を通じ、市街は甌瓦を敷き溝渠を穿ち、下水の汚物を残さざるに至りては、支那の諸港に冠たり、此の地は曾て茶の一品を限れる特別輸出港なりしが、一旦長髮賊の亂に鎖港し、爾後開港日淺く商業未だ振はず、僅かに茶葉、傘、橙子、豚肉等を輸出す、我が國より綿糸、銅、人參、燐寸等を輸入す。

福州は人口六十三萬、閩江を浜る三十四海里の北岸に位し、萬壽橋を距て南岸の南臺を居留地とす、外國船碇泊處は江水淺きを以て、此より下流九海里の馬尾港にあり、輸出は茶葉、磚茶、紙、竹材を主とし、輸入は阿片、綿布、毛布、石油等あり、此の地は支那南部要害の地なるが故に、砲臺を築き福建艦隊を置き、船政局を設け、特に船政大臣を命じ、艦船の製造修理を監し、又海軍兵學校、造船學校を設く、此處より我が基隆へ航行百五十海里あり、我が郵船會社は此處に代理店を置く。

廈門は周回十一里、人口凡そ十萬、福建省の南、廈門島の西南に位し、臺灣島と密接の關係を有せるが上に、烏龍茶は主に此に集まりしが、我が國が臺

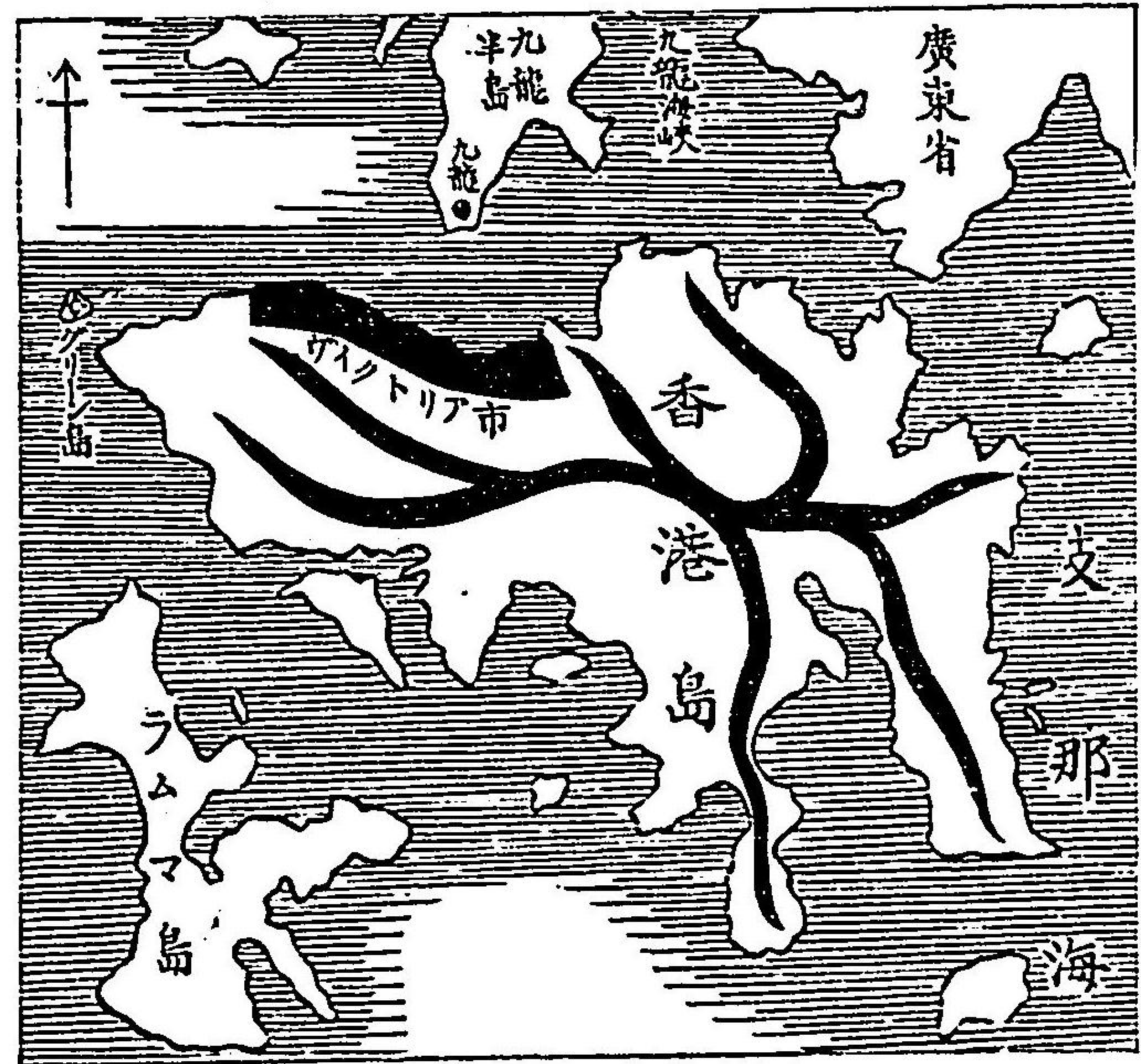


(廈門港之圖)

灣を占領せしより、市場漸次振はず、主要の輸出品を紅茶、砂糖、紙、煙草、麻等とし、輸入は紡績糸、海産物、黃蠟、豆餅、阿片、煙等あり、我が國より木綿、紀州子ル、燐寸、寒天、洋傘、乾海老、貝柱、錫等を輸入す。

汕頭は人口三萬二千、港内深く船泊に便なれども、香港に接せるを以て商業振はず、外人は僅かに英、米領事の外、二三の商館は爲替、舟積、保險等の業務に従ひ、貿易は支那人の經營に屬す、輸出は赤白砂

糖を最とし、煙草、支那綿布、紙類等あり、輸入は金巾、毛織物、綿紗、石油等あり、香港は廣東灣頭に横はれる小島にして、面積僅に五方里、人口二十二萬あり、此の地は元と支那の所



(圖之島港香)

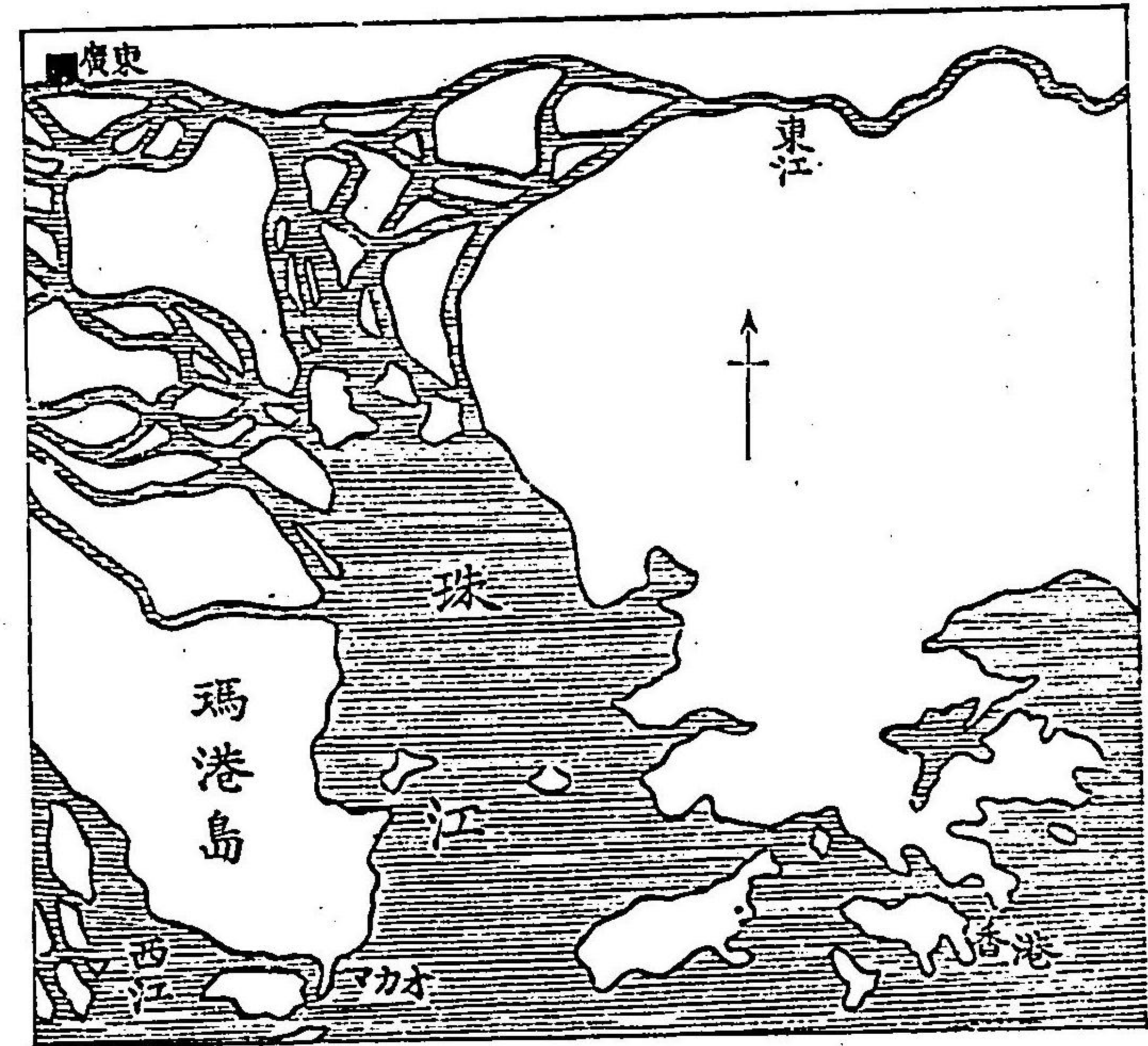
領なりしが、阿片戦争の結果、英國に屬し、英國東洋艦隊の碇泊所たり、市街をヴクトリアと稱し、北に面し七千餘の外國樓館は構造甚だ壯麗なり、貨物の集まる者、茶、棉花、陶器、阿片、砂糖、鹽、麥粉、石材を主とし、皆再び支那及び歐、米諸國、濠洲、我が國等へ轉輸し、その貿易額年々二千萬磅に上

る、我が國民の在留する者殆ど三百、領事館を設け、瑪港、廣東、汕頭、瓊州の貿易事務を兼ね、長崎へ航程千八十五海里、上海へ八百二十六海里、我が郵船會社の支店あり。

瑪港は人口凡そ七萬、廣東灣の西岸に突出して小半島をなし、面積香港より稍小さく、人口殆ど七萬、葡國の領土とす、居民は支那人十分の九を占め、無頼の徒博奕に耽り、政廳は賭博に課税し公然之れを許可す、貿易は茶の輸出毎年七十萬弗に上り、外に多少の阿片煙あるのみにして、商權漸次香港に奪はれ、復た昔日の觀なし。

廣東は珠江の上流、三十七海里の北岸に位する、支那南部第一の大開港場にして、人口凡そ百六十萬、商工業の盛んになると全國に冠たり、珠江は此に東西、北の三江を合するを以て、水運の利に富み、兩廣より雲南、貴州の僻地に至るまで、貨物の運搬を舟船に取る、外人の居留地は沙基にあり、輸出は生糸、絹織物、赤砂糖等最多く、輸入は阿片、綿製品、大豆、米等を主とす。

瓊州は人口六萬、海南島の北部に位し、市街は内地に偏在せるを以て、市場



(圖 之 江 珠)

過ぎざれども、兩廣及び沿海地方の要路に當り、商品の集散疾し、輸出は砂糖、亞麻仁、油、米、茶等ありて、支那人主に貿易を營み、綿製品、毛織物、石油、阿片

を輸入す。

本部の人民は蒙古人種に屬し、漢族、滿州族、苗越族等の小民族に分かる、宗教は主に儒教、佛教、道教の三教多く、その内、儒教は獨り國教たるの資格を有せども、國民の多數は佛教に歸依す、外に、回教、喇嘛教及び妖教を奉ずる者あれども、耶蘇教の如きは未だ之を顧みず。

首府を北京と云ふ、人口百八十萬、直隸省の順天府にして、又燕京と稱し、白河の西南、六里餘の平野に位し、周圍に城郭を繞らし、郭内を京城と云ひ、その北部を内城、南部を外城とす、皇居は紫禁城と號し、内城の中央を占め、王侯の邸宅、各國の公使館、各衙門、八旗兵、親衛兵等の建築は、皆その附近にあり、

外城は道路廣く商店並へごも、到る處汚穢なり、○南京は又江寧府と稱し、人口四十萬、往時は城市宏大、家屋閑雅にして、繁華北京に亞ぎ、文華風流支那第一と稱せしが、長髮賊の亂、全都大半灰滅に歸し、有名なる大報恩寺の陶製九層塔の如きは、その形八面八稜、九層を重ね高さ二百六十一尺、外面を被ふに五彩の磁板を以てしたる建築なりしが、今は僅かに、その遺跡を存せるのみ。

政體は古來君主獨裁にして、皇帝親ら萬機を總裁し、機務を釐理するに、内閣及び吏部、戸部、禮部、兵部、工部、刑部、海部の七衙門を以てし、内閣には、大學士四人、協辦大學士二人を置き、七衙門には海部の外、毎部に長官とて、尙書二人と、外に、左

侍郎、右侍郎、郎中、員外郎、主事等の官を設け、その官人は滿州人、漢人を等分す、又軍國の大事を決する軍機所には、軍機大臣を置き、親王一人と大學士及び六部の尙書、侍郎中より、才幹ある者を以て之に當らしめ、外交の事務を決する總理衙門には、親王一人と軍機大臣及び六部の尙書、侍郎中より八人を撰み、その事務を理む、地方制度は各省に總督又は巡撫を置き、その下に布政司、按察使、道臺、知府、知州、知縣等の官あり、陸軍は、八旗兵、綠旗兵、練軍、勇兵の四種あり、八旗兵とは八色を分かちて、一隊の記幟となせる者にして、その京師を守る者を禁旅八旗、地方を守る者を駐防八旗と云ひ、每旗の下に滿州人、蒙古人、漢人を隊別して二十四旗とす、綠旗兵は漢

人を以て、編成せる常備兵にして、綠旗兵より撰拔せし訓練兵を練軍とす、海軍は北洋、南洋、福建、廣東の四艦隊となし、就中北洋艦隊は最も強大なりしが、明治二十八年二月十二日我が軍の爲めに全滅せられ、方今獨り脆弱なる三艦隊を殘せり、我が國と航通せしは、遠く仁明天皇の朝より始まり、爾來商船互に往來して、通商斷ゆるとなかりしが、明治四年改めて通商條約を結び、二十七八年の戰役により、一旦無條約國となり、和を議するに及び、二十八年四月十七日、更に馬關に於て修好條規を議定せり。

内地の交通は運河を利用する外、百般の貨物皆擔夫馬脊に依て輸送せるに係はらず、道路甚だ悪しく、殊に雨後は泥濘深く、脛を沒し、行步頗る艱難を極む、鐵道の敷設は種々の事情によりその進歩甚だ鈍く、僅かに天津を

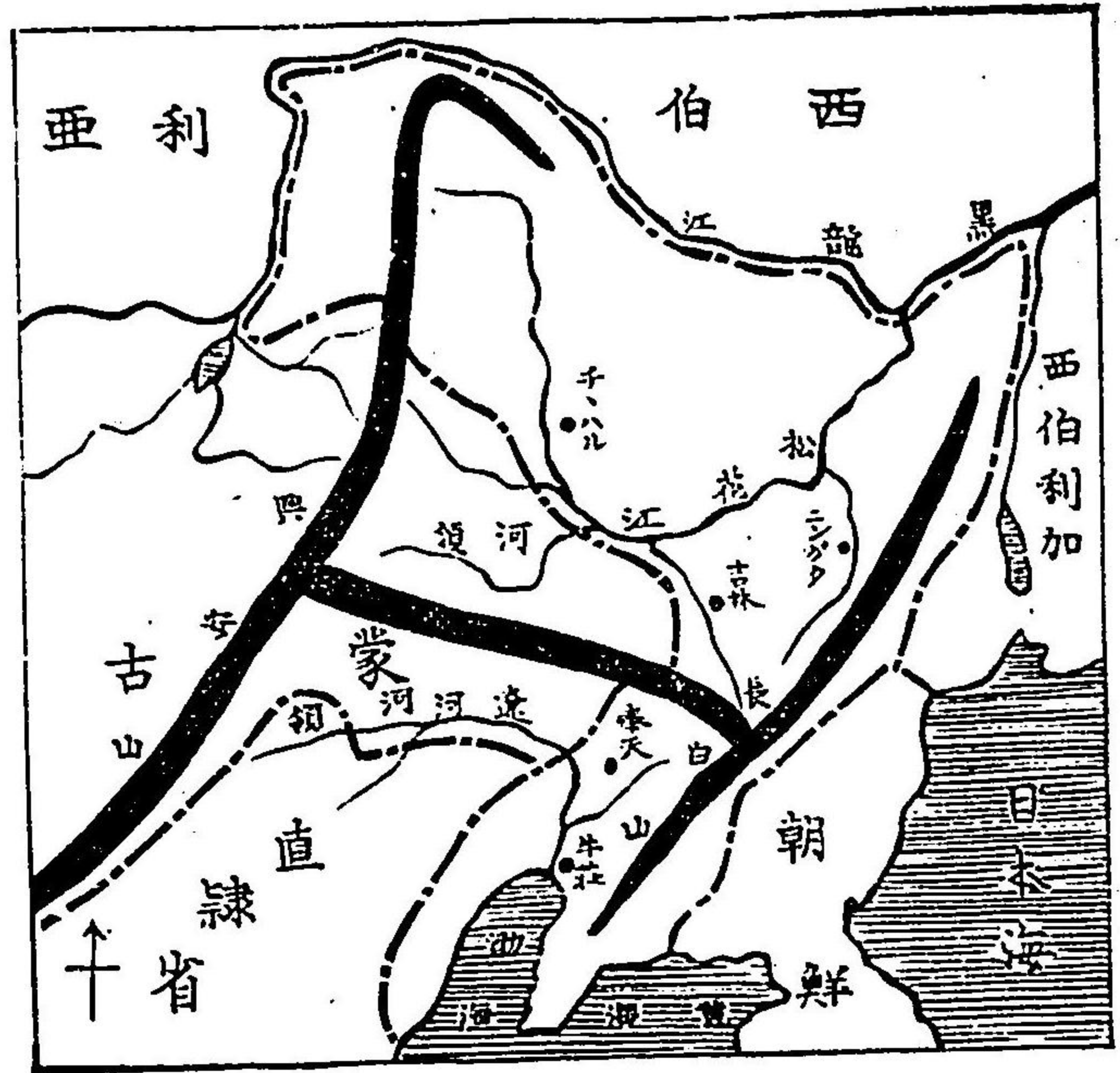
中心とし、一は山海關に達せる者と、他は北京に至る者及び上海、吳淞間に少許あるのみ、されど、沿海の航路は、上海を中心として船舶の往來頻繁なり。

(口) 滿州

面積六萬三百八十方里人口七百五十萬

滿州は支那本部の東北に位す、北東は露領西伯利亞に接し、東南は朝鮮に界し、渤海、黃海に臨み、西は蒙古と本部の直隸省とに交はる、域内を盛京、吉林、黑龍江の三省に分かち之を東三省と稱す。

地勢は西境に興安山脈、南より來りて蒙古と界を分かち、餘脈中央より東に分走して、遼河と松花江との分水界をなし、朝鮮の界に至りて長白山脈に連なるを以て、その狀恰もH字形をなせり。



(圖之州滿)

抵十一月下旬に氷結して、三月中旬に至らざれば融けず、されど、空氣乾燥にして清く、熱天饒地の酷暑も堪へ難きに至

氣候は寒暑共に劇しく、北部は冬には華氏の氷點を下る、四十度より五十度に至り、夏は九十度に上る、南部は冬には氷點を降る、十五度より二十度にして、夏は九十五度より百度に昇る、各地大

らず、雨量は豊かなれども量少なし、○物産は米は耕作に適せざれども、麥、粟、高粱等は穰々として稔り、南部には麻、人參、藍、煙草等を産し、農期短きを以て、二度の收穫なれども、産額非常に夥多にして、豆類及びそれより製する油糟の如きは主要の輸出品に屬す、又罌粟は近頃處々に植へ、北京及び西部地方に輸出す、木材は古來樹木の伐採を禁ぜしより、松、檜、樺、樹、樅等の堅材、山野到る處に繁茂し、悉く伐り去らるには、大凡一世紀間を要す、若し夫れ、幾多の障礙を排斥して、普ねく伐採するに至らば、本州は實に世界の材木市場を驚倒するに足らん、獸類は馬、驢、馬、騾等皆強健にして、農業を助け、又能く運搬に資す、外に、虎、豹、熊、黑貂等多く、土人は貂皮を

以て他の獸皮の價格を定め、貿易上一般の貨幣に代用す。鑛物も砂金、鐵、石炭等各處に伏在せるを以て、その採掘にして發達せば、敢て農産、牧養に劣らざる産業たり、されど、製造工業は未だ進歩せず、從て商業亦不振にして、貿易場は獨り牛莊を限り、愛暉は露國人との特別貿易場たり。

内地の交通は、冬期道路は雪を以て蔽はれ、河沼は氷を以て閉し、甚だしく輸送を妨ぐるならんとは、皆人の思惟する所なれども、事實は全く此れに反し、域内到處、丘陵の起伏せるにより、貨物の運搬は、冬期は却て夏期に十倍す、而して北部の黒龍江、烏蘇里、南部の遼河は、定期の航行あり、松花江の如きは、吉林府附近に於て、その深さ實に二十尺に達す、加之、南方海に瀕せる一面、潮流温を扇ぐの風なきも、凡そ六百哩の海岸は、牛莊、旅順、大連灣の如き良港を控ふ、況んや西伯利亞鐵道の延長して、北部を横斷するに至らば、海に陸に、交通の利便を興へ、滿州將來の發達を助くる、蓋し少々なら

ざるべし。

滿州人は古へより北方の強を以て顯はれ、健兒滿州の森林より出で、三度覇を全支那に唱へたりしが、今は、言語文章より習慣風俗に至るまで、已に漢人と同じ、生業は農を主とし、又獸獵を事とすれども、西部は牧養盛んに行はる、信教は喇嘛教が曾て清朝の太祖に尊崇せられしを以て、今に最も盛んに、外に、佛教、薩滿教亦行はる。

滿州は本部と政治を異にし、奉天府に戸部、禮部、刑部、兵部、工部の五衙門を置き、東三省の政務を治め、各部に侍郎一人を長とす、地方は省に府尹を置き、外に、八旗兵の旗人を督する將軍あり。

奉天府は人口二十五萬、清の太祖起業の地にして、今は、清帝の離宮となれり、吉林府は人口十萬、チ、ハルは人口五萬共に商業盛んなり、牛莊は遼河を浜る凡そ十三海里の左岸に位し、往時は盜賊の横行せる處なりしが、今は、人口凡そ六萬あり、此の地は冬期河水凍り航路を絶てごも、東三省の要路に當り、石炭、綿、木材、獸皮、阿片より、殊に豆類、豆油、豆餅の輸出を以て著はれ、又東三省より蒙古に供給する、食鹽集散の中心に當る、輸入は木綿織物、紙、陶器、海産物等あり、又興東、金州廳、鳳凰廳、錦州府、ニングタ等は地方の都會なり。

日清戦争の結果により、明治二十八年四月、馬關條約を以て一旦我が國に收め、後又、清國に還附せし遼東半島とは、盛京省の遼河以東の半島を稱し、

面積二千六百万方里あり、有名なる旅順口の軍港はその南端に位す。

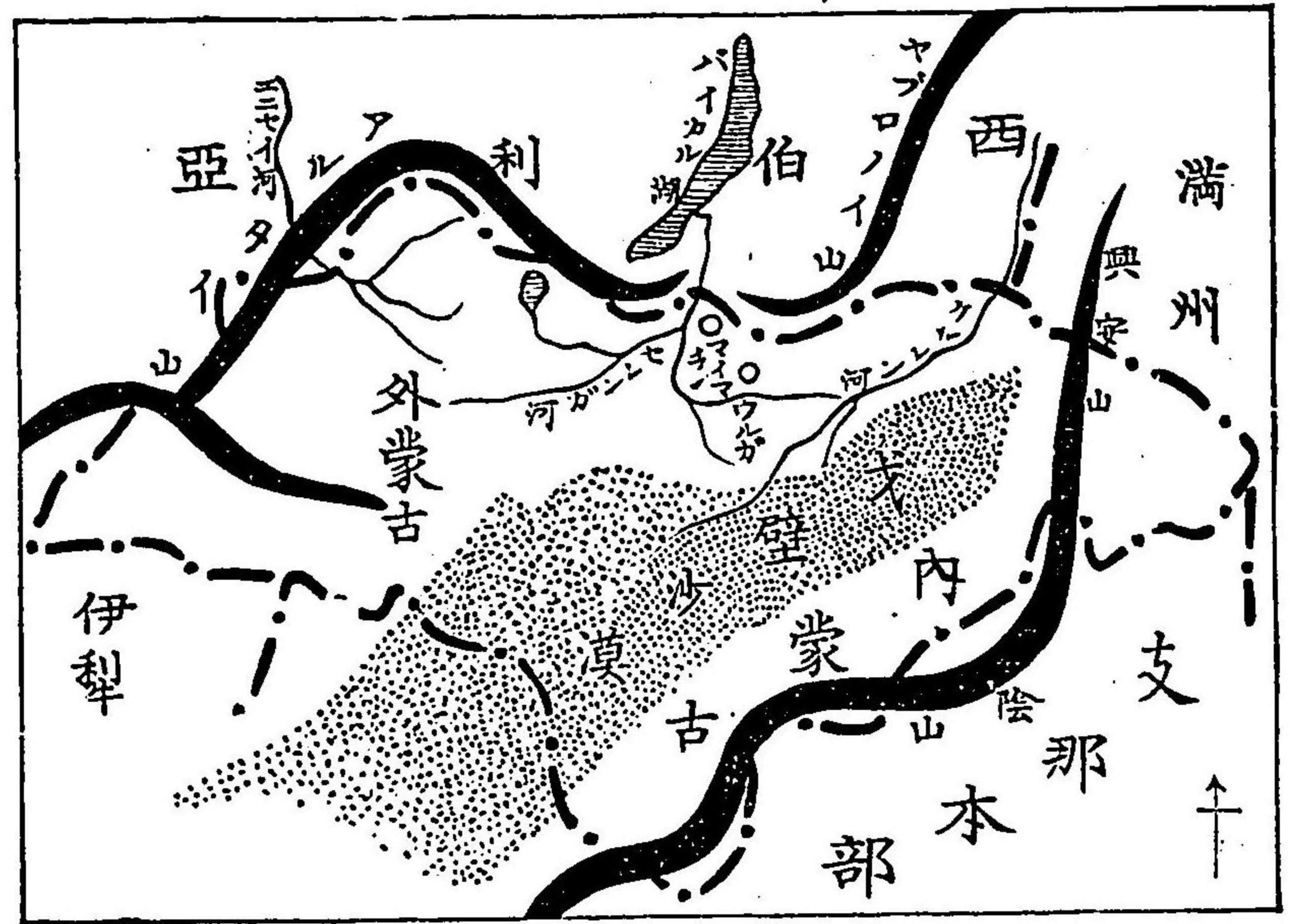
(ハ) 蒙古

面積二十一萬四千餘方里人口二百萬

蒙古は支那本部の北に位し、北は西伯利亞に接し、東は滿州に界し、南は萬里長城を以て支那本部を限り、西は伊犁に隣す、戈壁の大沙漠中央を東西に亘り、城内を二部に分かち、漠南を内蒙古、漠北を外蒙古と稱す。

地勢は四周の境上に、アルタイ、ヤブロンイ、天山、陰山、興安等の諸脈を繞らし、内地は拔海二千五百尺より、六千五百尺に達する至大の高原をなし、山岳處々に起伏せり、河流は外蒙古のセレンガ河最も大きく、又漕運の便あり。

戈壁の沙漠は又シハモと稱し、支那人は之れを瀚海と云ふ、全地、天山南路のタリム河の水域なる沼澤地に起り、國の東



(圖之古蒙)

北を亘り、滿州の境に至る、長さ凡そ八百六十里、幅凡そ二百里より三百里に達し、面積凡そ二十萬方里を占む、漠内は満目の風景、唯不毛無水の慘狀を呈せる、無根の曠原なりとは、皆人の思惟せる所なれども、事實は全く之に反し、或る一

部は沙漠の性質を帶ぶれども、東蒙古一帶の沙漠は、多くは、邱阜、平原、谷地等を交へたる荒野の特性を有し、谷地處々に淡湖、鹹湖の泉水あり、加之多量の降雨は甚だ稀なるも、年内雨雪全く無きにあらずして、夏は雨となりて、墜ち、冬は雪となりて降るにより、瘠地は疎に赤土を露はし、春草は僅かに二三寸に過ぎざれども、その他は春期綠草到る處に瀰滿し、駱駝及び隊商の率ゆる馬を飼養するに足る、又泉水の近傍には隊商往々、遊牧の蒙古人に逢ふことあり。

氣候は夏は熱さ強く、冬は數月間一片の降雪を見ざるも、寒さ甚だ劇しく、四時殆ど乾燥し、朝露だも生ぜざる處あり、○物産は、不毛の地多きを以て甚だ少なく、獨り人參は地方第

一の主産にして、支那人之れを貴重し、往時は、金の同量と交換せり、外に、家畜の牧養は重要な産業に屬し、馬、駱駝、羊等は一人に二萬頭を飼養せる者あり、輸入は茶、葉煙草、織物等を主とし、更に内地及び西伯利亞へ供給す、茶は特に磚茶を尊び、地方の人民之れを通貨に使用す、輸出は獸皮、馬、駱駝、阿片、人參、罌粟等あり。

蒙古人は往古慄悍雄武を以て、世に知られたる民族なりしが、今は復た昔日の遺風を見ず、生業は専ら牧養を事とし、天幕を携へ、水草を逐ふて各地に徙り、或は濕地に稠居して農業を營む、宗教は喇嘛教を主とし、佛教亦行はる。○首府をウラギ云ふ、人口僅かに三萬、外蒙古にあり、喇嘛教の僧徒多く、

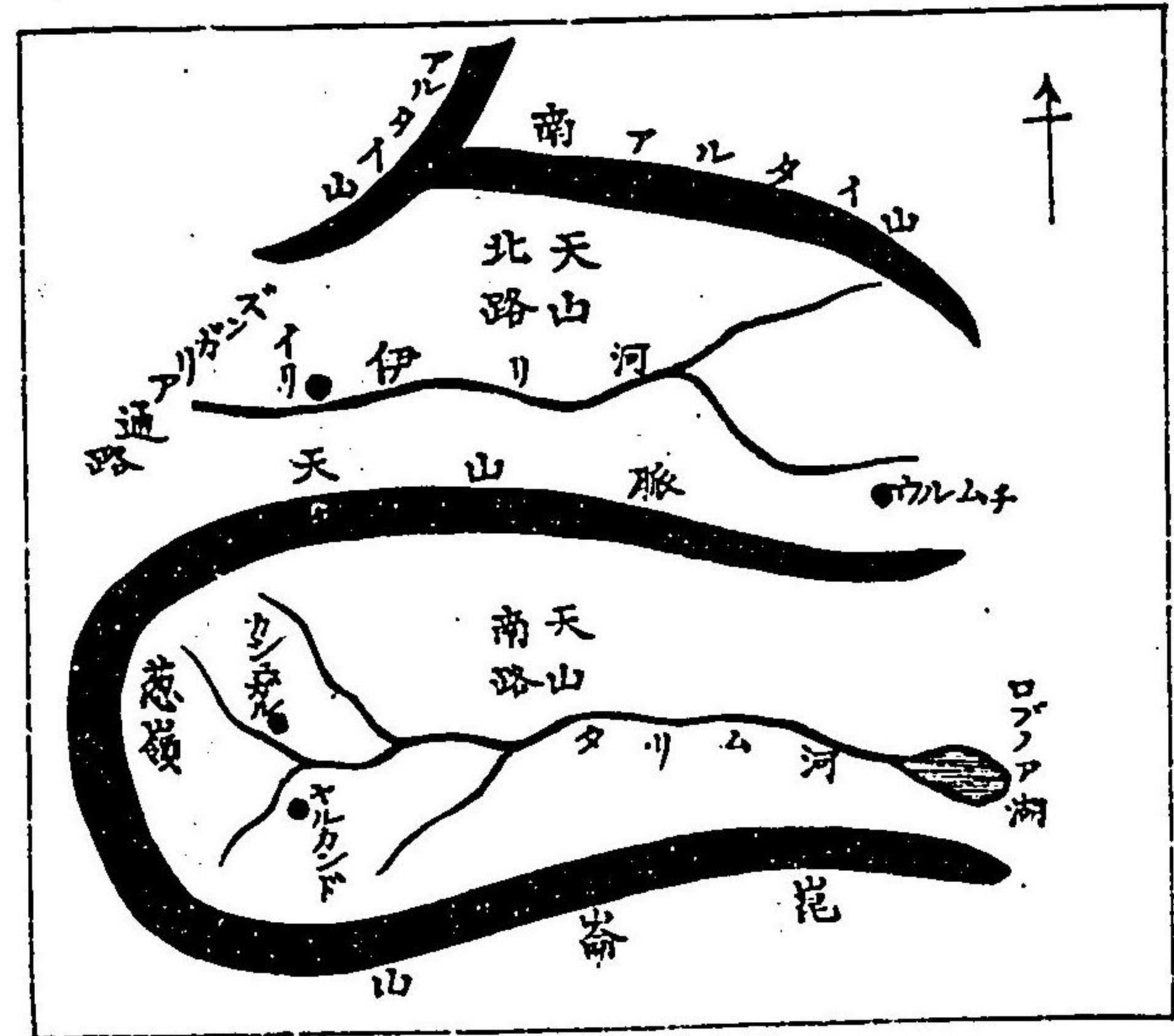
佛堂の結構頗る壯麗なり、買賣城はウラガの北方、西伯利亞の境上に位し、露、支兩國の商路に當り、露産の獸皮、羅紗、金巾等と、支那の茶及び雜貨との交易盛んなり、國民皆支那政府の正朔を奉じ、本國より將軍都統等の文武官を派し、地方の政務を治むれども、酋長は猶統御の權を握り、羊、馬、駱駝等を政府に進貢す。

(二) 伊犁

面積九萬六千餘方里、人口百十八萬餘

伊犁は又中央韃靼と稱し、西洋人は東土耳其斯坦と云ふ、支那全部の極西を占め、北東は西伯利亞、蒙古、支那本部と接し、南は西藏、印度に界し、西は露領中亞細亞に交はる、中央ニ天山脈東西に亘りて、域内を南北に二分し、北を天山北路又ズンガリアと云ひ、南を天山南路又回疆と稱し、西洋人は或

は支那土耳其斯坦と云ふ。



(圖之梨伊)

流れバルカッシェ湖に注ぐ、南路は北に天山と、南に崑崙山脈を繞らし、西は葱嶺脈を以てパミール高原に連なり、内

地は西より東に低く、タリム河東に灌ぎロブノアの湖水に入る。

氣候は略ぼ蒙古と同じく、雨量少なく、寒暑共に強し。○物産は穀類、綿、生糸、獸皮、金、銀、銅、鐵を主とし、内地の貿易は露國より輸入する、製品、粗製品及び支那より來る茶等なり。○北路の民は蒙古種に屬し喇嘛教を尊び、多くは水草を逐ひ、遊牧を事こなせども、南路は土耳其種に屬し、一般に回教を奉じ、一定の居處を設け、耕耘を勤め或は商業を營む。

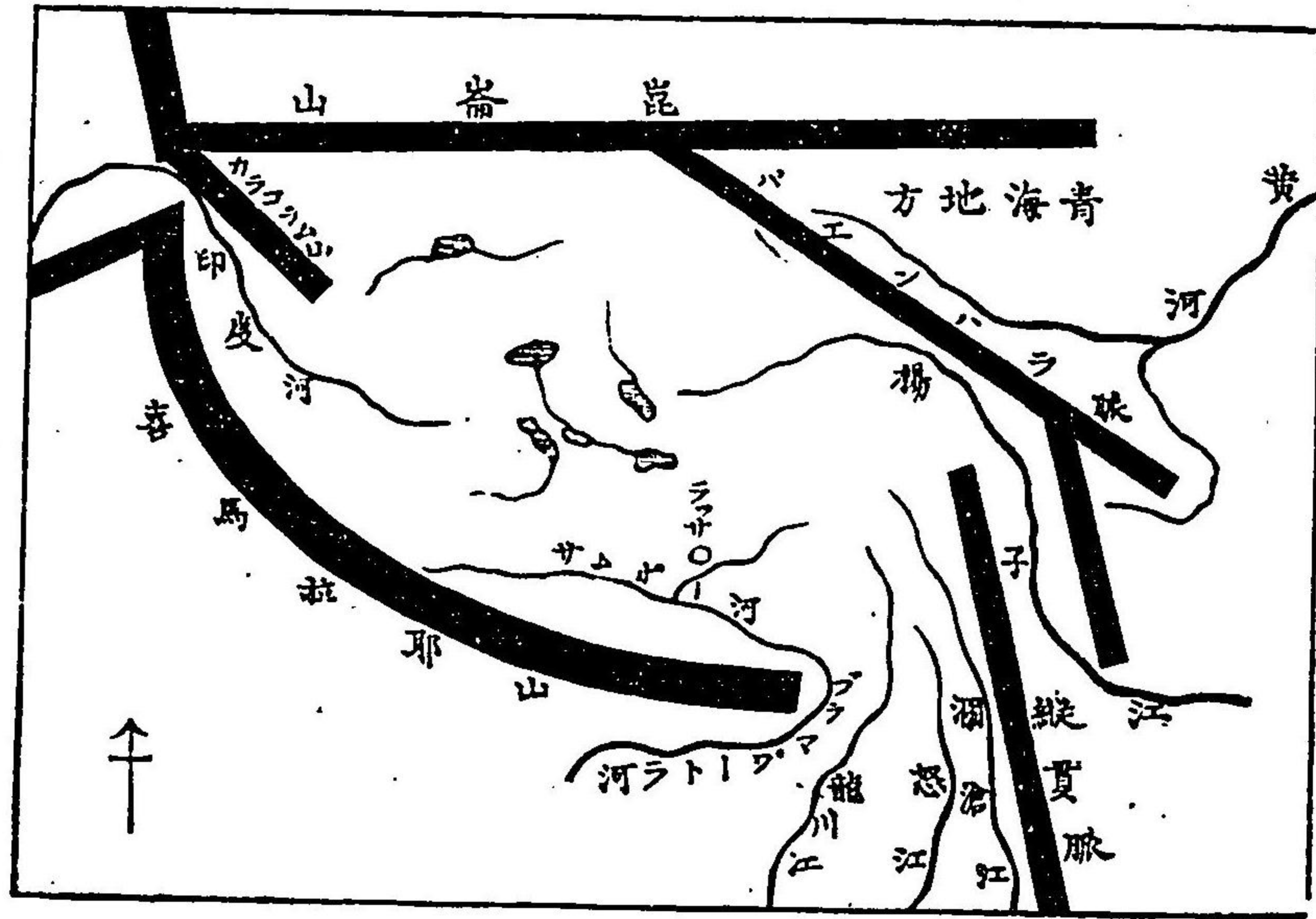
ウレムチは又迪化府と稱し、土人は之れを紅兒廟と呼ぶ、北路四通の要路に當り、市街繁華なり、クルジヤは又伊犁と稱し、中央亞細亞に通ずる小都會なり、カシニガル、ヤルカンド

は共に南路の西部にありて人口各六萬、金、銀の裝飾品、絹糸、綿等を輸出す。○此の地は古への所謂西域にして、元と獨立の王國なりしが、百數十年前、清國の版圖に歸せり、されど、露領に接せるが故に、屢紛紜を生じ、二十餘年前、一旦露人に占領せられ、明治十五年、新疆條約を結びて清國に歸し、今は北路に新疆將軍、副都統を置き、南路は甘肅省に屬す。

(ホ) 西藏

面積十萬八千六百方里人口六百萬

西藏は崑崙、喜馬拉耶兩山脈の間に挟まれる、世界第一の高原にして、その狀三口を有する噴水盤の如く、北は崑崙脈を以て伊犁に界し、東は縦貫山脈を連ねて支那本部に接し、西南は喜馬拉耶山脈を距て、印度に界す、域内を前藏、後藏の二部に分かつ。



(圖之藏西)

地の全部は拔海二萬尺より一萬五千尺に達し、國民は恰も我が富士の山巔に生息せるごとく大差なく、四周は山岳を繞らし、喜馬拉耶山脈のエヴェレスト峯は二萬九千尺の天外に聳へ、世界の最高峯たり、域内大河とてはなけれども噴水盤の三口より出づる、黄河、

楊子江、瀾滄江、怒江、龍川江、ブ、マブートラ河は、皆東洋大河の源をなせり。氣候は寒さ強く、一年の半ばは降雪止まざるを以て、四周の山岳は皆千古の雪を殘せごも、雨量甚だ少なし。○物産は羚羊、馬、驢、牛の家畜より、麝香、羊毛、金、銀等の外に、佛像、佛具及び金屬、香木を以て作りたる、種々の製作器を出す。住民は蒙古種に屬し、西藏族最も多し、生業は官吏より僧侶に至るまで、皆理事者を置きて商業を營み、又農工採鑛を業とす、信教は喇嘛教最も盛んに、國民の半ばは皆僧侶なり。○支那政府は、こゝに辦事大臣を置きて政務を行へごも、達賴喇嘛と稱する喇嘛教の教主は、法教を主宰するご共に又政

務を主宰し、政治上、社交上無限の權力を有するが故に、民租の大半は、牛、馬、羊、金、銀等の物品を教主に納む。○ラッサは全國の首府にして、人口十五萬、サムポー河領に立ち、市街は寺院堂塔甚だ多く、又各種の製造所あり、府の西北の教主の宮殿は、ボタラと稱し、四階の樓閣は、皆金銀珠玉を以て飾れり。西藏の東北に青海地方あり、之れ青海と名づくる鹹湖あるを以て、部落一體の地名となりし者にして、北は崑崙山脈を横たへ、中央はバエンハラ山脈西北より東南に貫き、平地も拔海一萬尺以上の高原をなし、黃河、楊子江は源を此に發す。此の地方は西藏に屬すれごも、支那政府は甘肅省の西寧府に、辦事大臣を派遣して部落の政務を治む。住民は西藏族多

く、牧養を主とし、大抵青海地方に稠居す。

(三) 西伯利亞

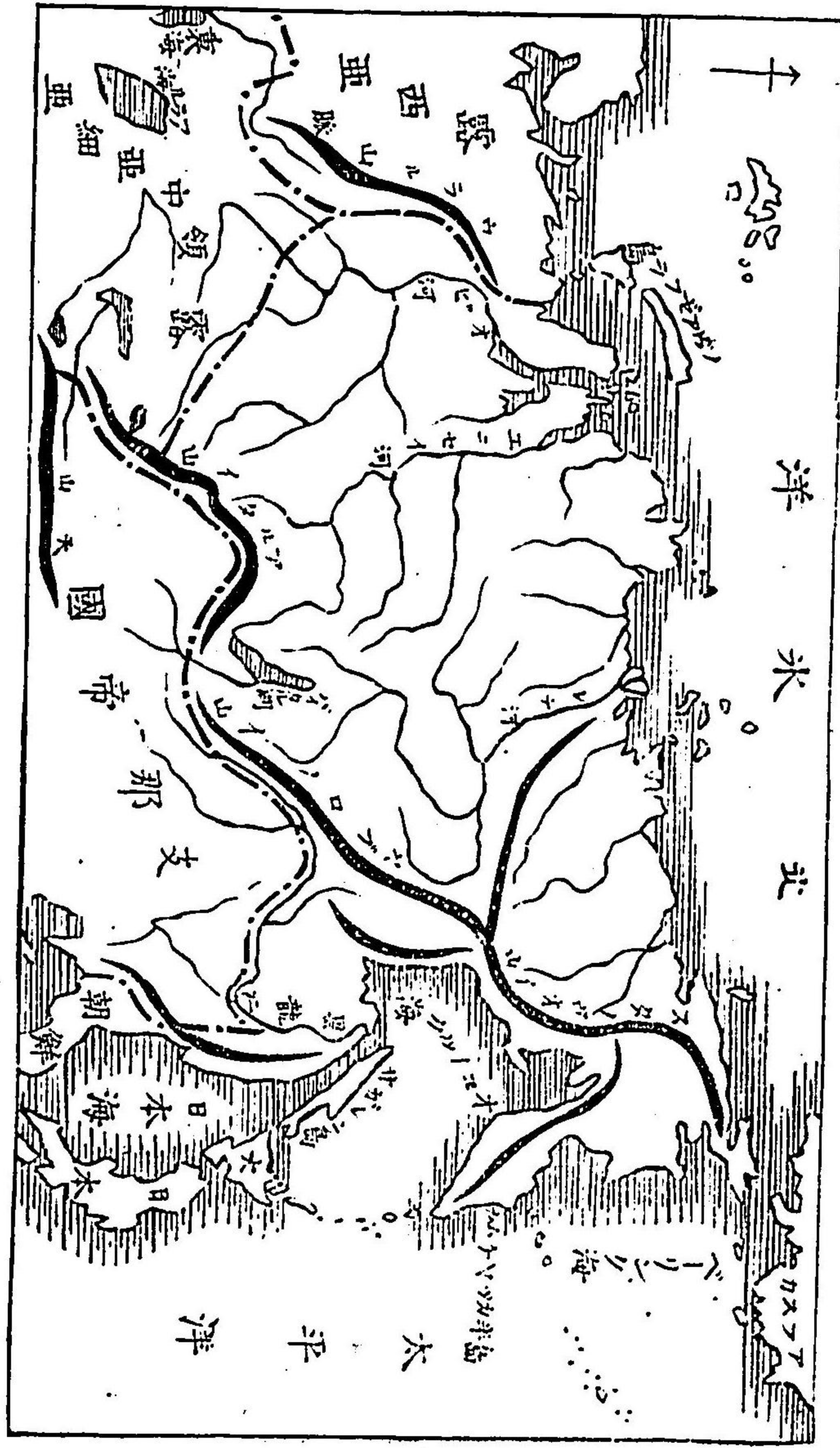
北緯四十二度二十三分—七十七度三十四分

東經六十度—西經百七十度

面積八十萬五千六千方里人口四百九十萬三千三百

西伯利亞は亞細亞の東北を占め、北は北氷洋に臨み、東北隅はベーリング海峡を距て、北亞米利加のアラムカ半島に對し、東は太平洋に面し、カムチャツカ半島を以て千島諸島に、サガレン島を以て北海道に、日本海を距て、本州に望み、南は朝鮮、滿州、蒙古と、中央亞細亞の一部とに接し、西はウラル山脈を以て露西亞に界す、分ちてトボムスク、トムスク、エニセイスク、イルクーツク、の四省、ヤクーツク、バイカル、黒龍江、沿海の四州、及びサガレン島の九部とす。

地勢は一般に東南に山岳多く、漸次深き森林より廣野とな



(圖) 西伯利亞

り、次第に西北に傾き、各部に平原をなせとも、土地廣大なる

を以て、自然に凍土地方、森林地方、曠野地方、山岳地方の四大部に分かる。

凍土地方は北緯六十、五度の以北を稱し、地低く、不毛の凍土をなし、冬期樹木は介穀を交へて結晶し、人畜生息せず、夏期凍土の外面僅かに融け、沼澤處處にその形を露はせば、水禽は地上に巢くり、馴鹿來て野苔を食し、肉食獸亦漂泊す、森林地方は北緯六十五度より五十五度の地方を稱し、海松、樺木、樅等能く暢茂すれども、夏は熱さ甚だしく、冬は寒氣強く、風雪の日は戸内に爐を擁し、僅かに凍死を免る、曠野地方は北緯五十五度の以南にして、瘴氣野に充ち、人畜の生息を害すれども、灌溉の利に乏しからざるが故に、田畝開け、人口稠く、西伯利亞穀倉の稱あり、山岳地方はウラハ、アルタイ、ヤブノイ、スタノヴォイ等、諸山脈の斜面地方にして、山腹の谷地は、樅、樺木、落葉松等能く繁茂し、黄金、石炭、銀、鉛、寶石等の礦物に富む。

氣候は緯度の高きと、地勢の北に傾けることによりて、日光の

直射を受くること能はざるのみならず、冬は晝短く、夜永きを以て、北緯六十度以北は寒さ強く、周歲地下數尺の深さまで氷結す、南部亦冬期水銀の凍るとあれども、氣候稍温かに、夏は晝永く夜短し。○物産はオビ河畔は黒上層遠く連なり、佳良の燕麥、裸麥を産す、林産も亦海松、落葉松、樅、樺木、榆、槭等、千古の良材能く繁茂せり、動物は貂、白熊、熊、白狐等の外、海狸、臘虎、海馬、海豚、海熊、海獺等の海獸は皆その毛皮を外國に輸出す、殊に凍土地方には、マムモスコ稱する大象地中に埋没し、家畜は野草多き處、綿、羊、牛、馬、馴鹿、駱駝等の牧養盛んなり、礦物はアルタイ山より、銀、鉛、銅、鐵を出だし、バイカル州は沙金多く、イルクーツク省は殊に黒鉛に豊かに、又鐵、食鹽を出

だし、黒龍江、沿海の二州は沙金、石炭を産し、サガレン島は石炭、瑪瑙に富めり、内地の貿易は、凡て年市を設け、内地の生産物と、露國及び支那より來る物品とを交換し、外國貿易は主に浦鹽斯德、ニコライスク、ユルサユフの三港に限り、鯨、海豚、海馬等よりサガレン島の附近に採取する昆布等を輸出す。

浦鹽斯德は人口一萬五千、沿海州の彼得大帝灣に枕める海港にして、元と、金角港と稱す、安政三年、英國船の發見せし所に係り、清國政府の所領なりしが、文久元年、露國に割き今の名に改む、昆布、木材、海參、藥草、牛骨、干鮓、毛皮等を輸出し、殊に昆布は、採取の多きと、價格の廉なるとにより、販路廣く、主に芝罘に輸し、再び支那北部地方へ轉輸す、我が國より麥粉、醬油、酒類、食用品、密柑、織物、磚茶、紅茶等を需用し、牛骨、干鮓等を供給す、我が國人の在留せる者、殆ど千五百人、政府は貿易事務官を茲に派す。○本港は露國が東洋唯

一の根據地として、義勇艦隊、西伯利亞艦隊、東洋分遣隊を置き、港口の諸海峡は、常に水雷を布き、防禦を嚴にせるが故に、船舶は必ず先ず、露國士官の先導を乞ひ、士官來て乗組人員、及び發着の港名、又は時日を調ふるを常とす、本港と長崎との間は、別に海底電線を架せり、本港より函館へ四百五十五海里、小樽へ四百五十七海里、長崎へ六百八十四海里、芝罘へ千百十六海里あり。

住民は主に蒙古人種、高加索人種の二大別に分かる、蒙古種は概ね牧畜を業とし、富者は牛數百頭、馬數千頭を飼ひ、傍ら農耕を營めり、高加索種は露西亞より移りし、大露西亞、小露西亞、コサツクの三大民族とし、その内、大、小、露西亞族は至大の勢力を有し、多くは官吏又は地主となり、或は農、採鑛等を事とす、外に、カムチャツカと稱する固有の民族、及び朝鮮

族等あり、信教は一定の國教なきも、高加索種は凡て希臘教を奉じ、他は大抵回教、喇嘛教、猶太教を信じ、土人は薩滿教シャマンに歸依す、教育は政府の干涉甚だ嚴に、文政年間、イルクーツク府に中學校を起し、尋て各省州に令じ、中學校を設け、露語露文を學ばしめ、今は、工藝學校、神學校、女學校、高等學校、大學等を設立し、トムスク府の大學には三百の子第あり。

都會の大なるはトボルスク、トムスク、クラスノヤースク、エニセイスク、イルクーツク、ヤクーツク、ブラゴージェナエンスク、ハバロフカ、コルサコフ等を主とし、市街は道路平坦にして區劃正しく、商店相並び、建築は皆宏大美麗なれども、人口五萬を超ゆる者なし。

サガレン島は又樺太島と稱す、ヤコーツク海と日本海とを劃り、面積四千九百方里、人口凡そ二萬六千六百あり、此の島は明治八年、我が千島諸島と交換し、露國の版圖に入りしより、本國政府は年々囚徒を移し、内地の開拓を獎勵せるを以て、今は、露人多數を占む、沿海は、南部に海岸の屈曲夥しく、トロアニワの二岬斗出してアニワ灣を抱き、その一端宗谷海峽は我が北海道の北見と對し、西はタリタリ灣を距て大陸の沿海州に對し、灣北は我が國人、間宮倫宗が發見せし處なるを以て、間宮海峽と稱す、内地は處々に沼澤あれども、山脈全島を貫き、中に十四の活火山あり、物産は地不毛にして農産に乏しけれども、沿海は魚族、昆布に富み、又石炭の

採掘夥し、ユルサユフは人口僅に千八百許、アニワ灣の中央に位し、灣内深さ三四尋に過ぎざるが上に、暗礁處々に横たはり、舟泊に便ならざるが故に、市街淋し、我が國人の在留せる者、凡そ百六十人、我が國より特に領事館を設置せり、輸入は米、鹽、麥粉、更紗、綿等を主とし、輸出は魚類、昆布多し。全部露國に屬し、政治は上に總督を置きて軍政民政を統へ、その下に參事會ありて政務を佐け、外に、省、州には知事、サガレン島には長官あり、又土人の部落には、土人管理廳を設け、酋長を以て之れを治め、曠野會議を設け知事の管理に屬す、陸軍は三軍管区、外に、コサツ兵あり、海軍は浦鹽斯德港に鎮守府を置き、義勇艦隊、西伯利亞艦隊、東洋分遣隊を設く。

交通はオビ、レナ、エニセイ、黒龍江等の河系は、冬期舟運を絶てごも、皆汽船の航行自由にして、バイカル湖亦定期汽船の航通あり、されど、政府は猶此の國に於ける、山野の開拓、人口の増殖、産業の發達を盛んならしめんとし、終に西伯利亞大鐵道の敷設に着手するに至れり。

西伯利亞鐵道の大工事は、露國政府工費を負擔し、皇帝親ら鐵道委員の總裁となりて指揮せる所たり、その線路は、西伯利亞西境のミアス府を起點とし、東はオムスク、トムスク、クラスノヤースク等の諸府を經、ウヂンスク府に出で、イルクーツク府に達し、迂廻してバイカル湖の南岸に沿ひ、東にスタノヴォイ山脈を横斷し、シルカ河岸に至り、ストレテンスクに達し、更に黒龍江の左岸に沿ひ、ブラゴイエスチェンスク府を過ぎ、ハバロフカ府に達し、南に折れ、烏蘇里江の右岸に出で、グラスカヤ驛に抵り、東南浦鹽斯德に達する延長四千九百五十哩に亘る、その内クラスノヤースクよ

りミアス、ニ至る中央西伯利亞線は、已に乗客及び荷物の運送を開き、^グプスカヤ驛、浦鹽斯德間は共に線路の敷設を終れり。抑浦鹽斯德は露都聖^{セント}彼得堡を距つると、凡そ六千八百哩なるが故に、陸行或は水路に由り、或は鐵道に由るも、凡そ百二十日を要せざれば達すると能はず、されど、此の鐵道にして竣工せば、僅かに八日と十九時間半を要し、假りに休息時を一時間に十分づゝとするも、猶十日と十二時を費すに過ぎざるを以て、此の鐵道の開通するに至らば、濠洲、亞米利加、亞細亞、歐羅巴の諸産物は、皆我が國を經ざれば、浦港に至るとを得ざるが故に、我が國の貿易に偉大の關係を及ぼさん。

(四) 中央亞細亞

面積二十七萬七千餘方里、人口八百八十餘萬

中央亞細亞はバミール高原より西はアラル海、裏海に至る歐亞大山脈以北を稱す、北は西伯利亞に接し、東は支那に界し、南は亞富汗、波斯に接し、西

はウラル山脈、ウラル河を限りて露國に、裏海を距て、外部高加索に對す、域内北をキルギス草野、南を土耳其斯坦とし、裏海の東を外部カスピアンとす、内に、ボカラ及びキヅアの二侯國あり。

地勢は東南に山岳多く、西北に低くキルギス草野となり、裏海及びアラル湖の間はウスト、ウルトと稱し、一面荒蕪の臺地をなす、河流はアム、ダリ、アシルダリア、セラフシヤンの三大河、南より中央の大部を灌漑し、北部にイルチンヌ河、東部に伊犁河、西部にムールカッパ河あり。

氣候は寒暑共に烈しく、且つ雨量少なきを以て、空氣乾燥し、夏期一滴の降雨なき處あり。○農産物は、穀物、綿、煙草等は、僅かに水灌ある河谷に産するに過ぎざれども、荒野は雜草能く繁茂し、牛、馬、駱駝、羊等の牧養盛んなり。

政體は全部露國の領土にして、總督を置き地方の政務を行ふ、住民はキルギズ族多數を占め、大抵草野地方に住し、遊牧を事とし、外に、土耳其種、蒙古種は農業を事とす。信教は主に回教を奉ず。○タシケンドは地方第一の都會にして、人口十三萬、ボカラ、波斯、印度等の物産を露國に輸出す、外に、サマールカンド、コーカンド等の都會あれども、皆人口五萬に充たず。交通は裏海の東岸よりボカラを経て、サマールカンドに至るトランス、カスピアン鐵道あり、又國內の河湖は汽船の往來自由なり。

(五) 伊蘭高原

伊蘭高原はバミール高原の西南を占め、北は歐亞大山脈を以て、露領中亞

細亞と裏海とを限り、東はスリマン山脈、ハラ山脈を距て、印度に界し、南は波斯灣、オーマン灣に臨み、西は亞細亞土耳其に接す、全部亞富汗、比耳路斯坦、波斯の三國に分かる。

(イ) 亞富汗

北緯三十度——三十八度二十分 東經六十度三十分

——七十四度三十分

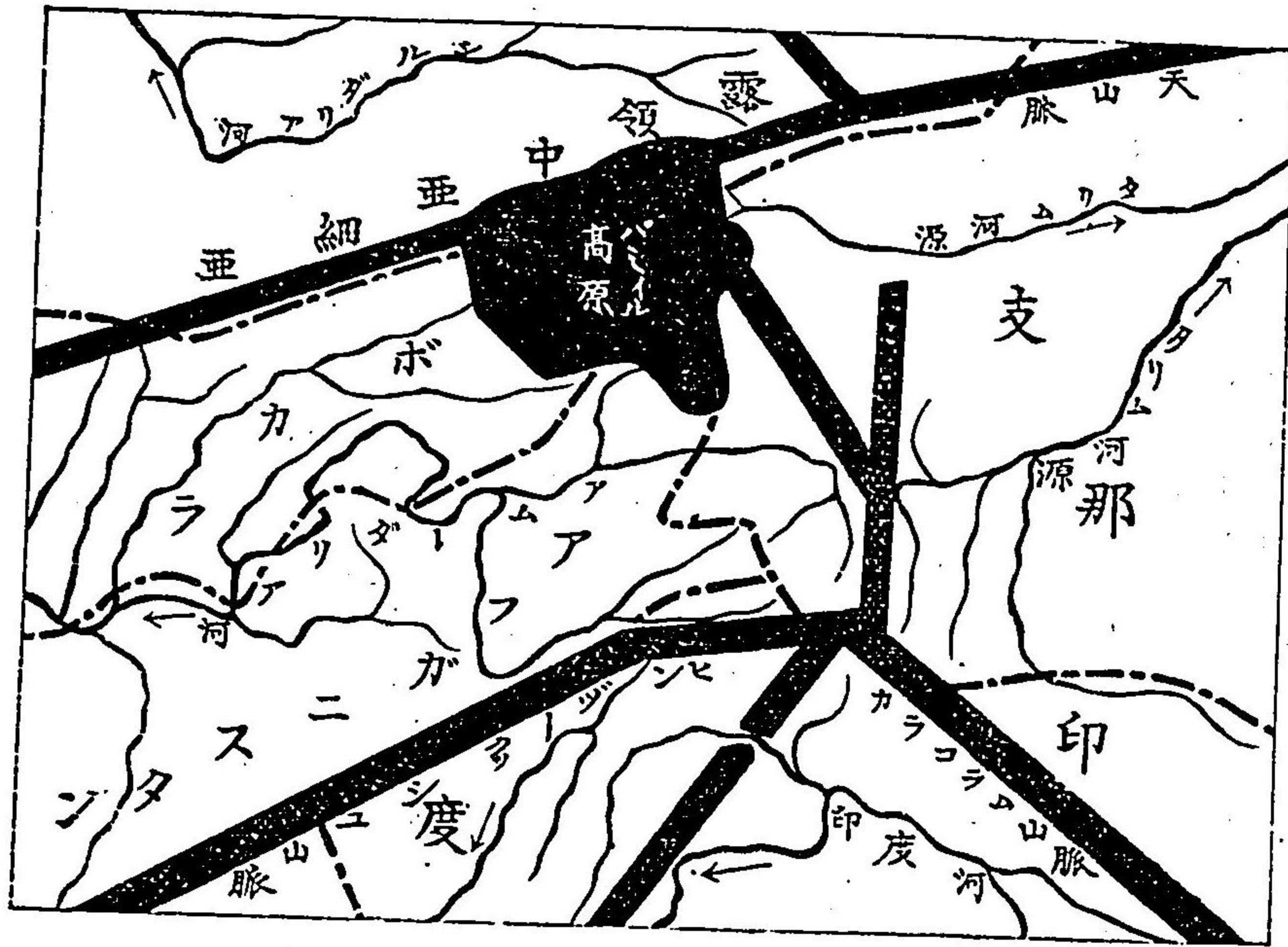
面積三萬七千餘方里 人口凡五百萬

亞富汗は伊蘭高原の本部を占め、北は露領中亞細亞に接し、東は支那、印度に界し、南は比耳路斯坦を限り、西は波斯に交はる。

地勢は歐亞大山脈のヒンヅークツシユ山脈東北より西南に亘りて、オクザス、カブール、ヘリラッド、ヘルマンドノ四大河領を分かち、餘脈内地に四出し、全土五分の四は拔海三千

九百尺の山地を成せり。沿岸の山地は海上の軟風を遮り、内地は大抵沙漠質なるを以て、氣候は、夏は熱く冬は寒し、○農産は水漑ある處地肥え、米、麥、玉蜀黍、茜根等は、年内二回の收穫あり。鑛物は銅、鉛、鐵、金等多く、家畜は羊、駱駝、馬等皆佳良なり、工業は近時漸く盛んに、羊毛、絹毛氈等あり、殊にカンダハールの絹絨氈は皆手工になり、頗る精巧を極む。

住民は大抵アリヤン種なれども、許多の部落に分かれ、酋長の支配に屬する蒙古人種及び雜種民族あり、生業は概ね牧養を事とすれども、又耕作に従ふものあり、宗教は主に回教を奉ず。○政體は君主專制にして王をアミールと稱す、全國



(圖之原高ルイミバ)

をカフイリスタン、セイスタン、コラサン、アフガン、トルキスタン、の四部に分かれ、各部に太守を置き政務を行ふ、されど、英國の干渉を受けて、殆どその屬國の如し。○カブールは國の首府にして、人口七萬五千、カブール河に臨み、印度に通づ

る貿易の要路に當れり、その他、カンダハール、ヘラット、バルク等の都會あり。

亞富汗の東北をパミール高原とす、此の地は露、清、英三國の間に挟まり、その境界は久しく露、英爭奪の中心に當り、後來益多事なるべき所なり。

(ロ) 比耳路斯坦

北緯二十五度—三十二度 東經六十一度—七十度
面積二萬二千餘方里 人口五十萬

比耳路斯坦は伊蘭高原の東南を占め、北は亞富汗に接し、東は印度に界し、南は亞拉比亞に臨み、西は波斯に交はる。

地勢は四周に山岳を繞らし、内地は處々に山地あれども、大部は廣大なる沙漠をなし、ダスナー—河獨りグアツタル灣に

注ぐ。○氣候は我が國に比せば、琉球の波照間島以北と緯度を同うせるも、海岸一帶の山岳は濕風を遮り、寒暑ともに烈し、○農産は甘蕉、胡椒、無花果、橄欖等に過ぎざれども、駱駝の牧養は甚だ盛んに、又多量の石炭を採掘す。

住民は大抵アリヤン種に屬するベルナス族と、蒙古種に屬するブラヒュイス族との二種とす、多くは遊牧の野民なれども、又隊商を掠むる者あり、宗教は回教を信奉す。○全國を四部に分ち、各部に汗又は酋長ありて之れを治むれども、全部英國の保護を受け、印度總督府より、派遣の比耳路斯坦駐在代理官の干涉を以て政治を行ふ。○ケラットは國の首府にして、人口一萬餘、印度より波斯に通ずる要路に當るク。

ツタは國中第二の都會にして、ケラットの北に位し、英國より派遣の兵士此に駐屯す。

(ハ) 波斯

北緯二十六度||二十九度東經四十四度||六十三度
面積十萬四千餘方里人口九百萬

波斯は伊蘭高原の西部を占め、北は中央亞細亞、裏海及び高加索に界し、東は亞富汗、比耳路斯坦に交はり、南は波斯灣、オーマン灣に臨み、西は亞細亞、土耳其に接す。

地勢は歐亞大山脈のエルブルズ山脈北境を走り、ザグロス山脈東南より西北に亘れるを以て、北西部は一體の山地なれども、中央より東は、廣大なる沙漠質の高原をなし、北にコラザン、大鹽沙漠、南にロット沙漠あり、されど、裏海の海濱は、

地低く米穀、甘蔗の耕作に適す。○全部殆ど我が國の本州と、緯度を同うすれども、氣候は寒暑共に強く、中央高原は北西南の三方に山岳を繞らし、空氣常に乾燥なり。○産物は全土不毛の地多きが故に、農産甚だ少なく、僅かに谿谷の濕地より、麥、米、綿、阿片、煙草、護謨等を産す、されど羊、馬、駱駝の牧養盛んに、鑛物は土耳其玉最も多く、國の特産なり。

住民はアリヤン種、蒙古種、亞拉比亞族等より成る、その内、アリヤン種は性優美にして、詩歌音樂を嗜み、生業は農を主とし、又商工に従事す、宗教は大抵回教を奉じ、沙漠地方の民は拜火教を信ず。○政體は君主專制にして、王をシャーと稱し、その下に内閣を置く、全國を三十二州に分ち、州には總督、又

は副總督を以て政治を行ふ、陸軍は常備兵僅かに二萬五千、海軍は二隻の兵艦あり。○テヘランは王國の首府にして、エルブルズ山脈の南麓に位し、王宮は最も壯觀なり、此の地は寒暑の差強きが故に、平時は人口二十一萬あれども、夏は住民居を裏海の濱に避け、市街淋し、その他、イスバハン、タブリヅ、メセッド等の都會あり。

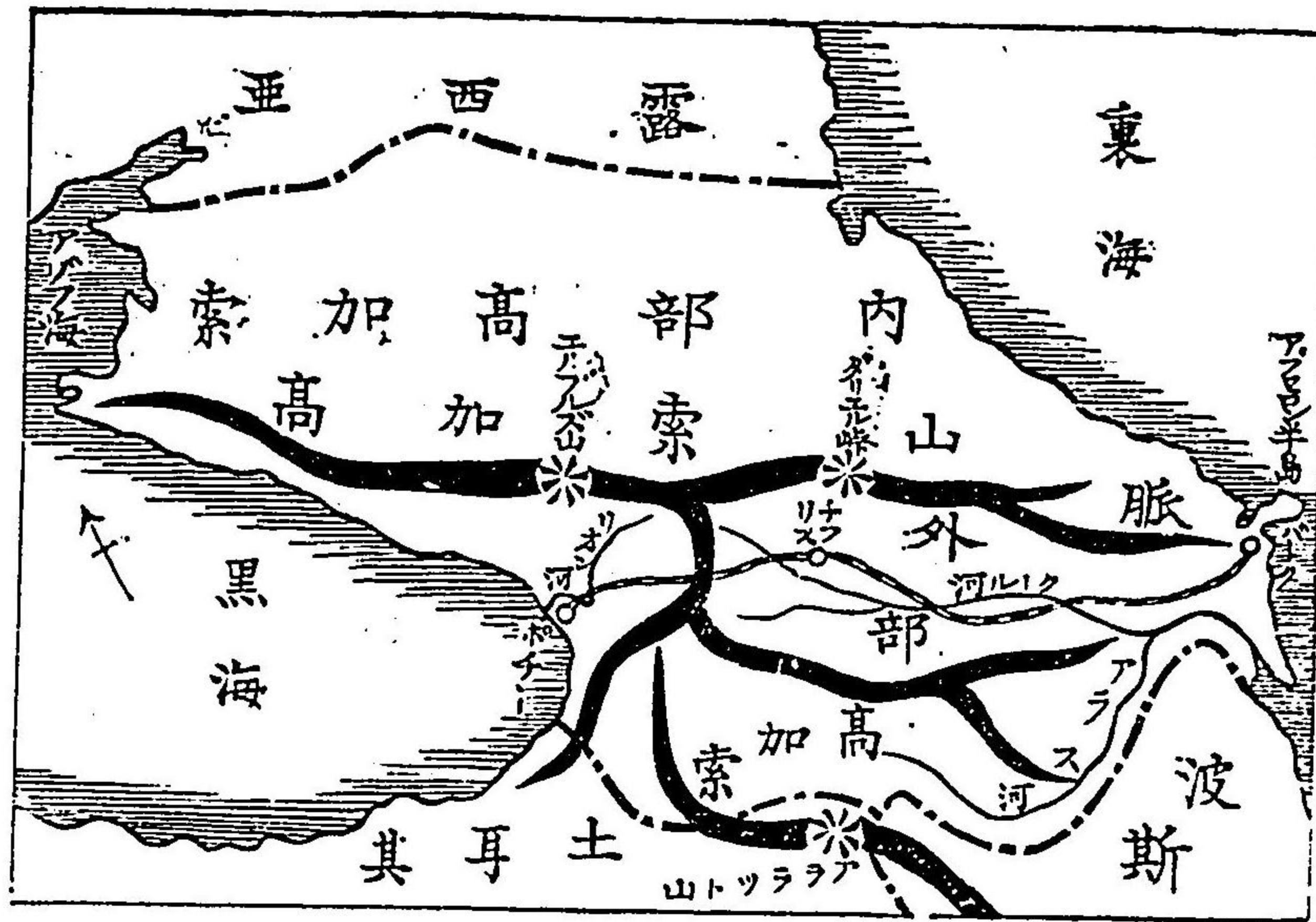
(六) 外部高加索

北緯三十九度以北より高加索山脈に至り

東經三十七度—五十度

面積一萬五千餘方里人口四百七十餘萬

裏海を東にし、黒海を西にし、その間を連続せる陸橋を高加索と稱す、高加索山脈を以て南北に二分し、北を内部高加索、南を外部高加索とす、高加索



(圖之索加高部外)

山脈は歐亞二洲の境界なれども、露國は政治上、内部外部を合せて一州とせり。

歐亞大山脈の餘脈は内地を亘りて、高加索山脈に連なるを以て、地勢は一帶に山地多く、クール、アラスの兩河東に流れ、リオン河西に注ぐ。○北部の山岳は冬期、寒風を遮るが故に、氣候は概ね

暖かく、降雨亦多量なり、物産は麥、米、玉蜀黍、茜根、綿、煙草、麻等の農産物夥しく、山地には、樺、櫟等の木材に富めり、鑛物は石腦油、石炭、石油等最も多量に、銀、銅、鐵之れに亞ぐ、外に、牧養、漁業能く行はる。

住民は大抵高加索種なれども、許多の民族を混へ種類百五十に及び、言語も亦頗る多様に分かる、生業は牧養、耕作を主し、宗教は回教、耶蘇教を奉ず。○全部露國に屬し、總督を置き一切の政治を統ぶ、チフリスは國中第一の都會にして、人口十四萬、總督府所在の地なり、バークーは人口僅かに十一萬なれども、石油の産地に近き、裏海の要港たることにより、市況盛んなり。

(七) 亞細亞土耳其

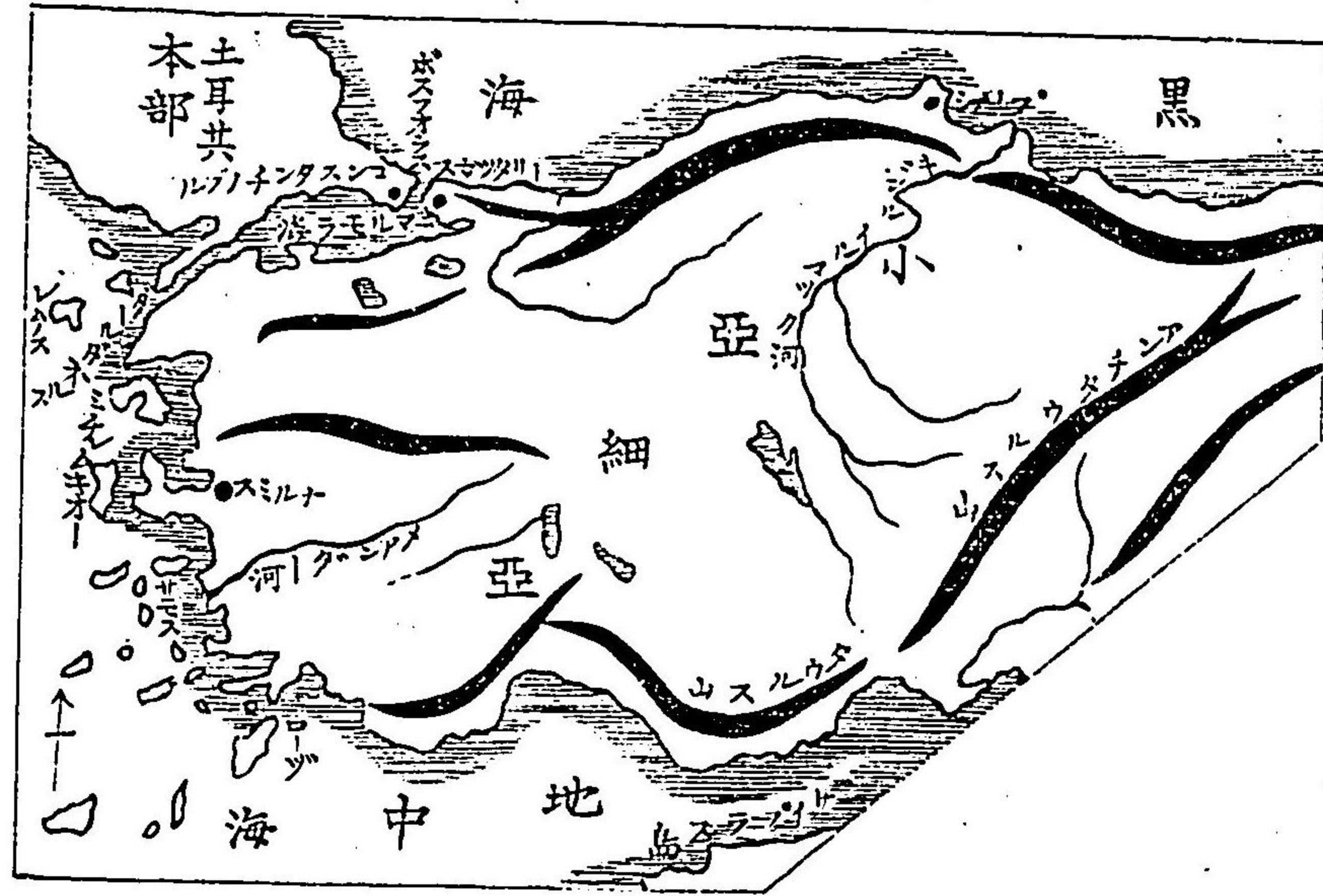
北緯十三度—四十三度 東經二十六度—五十一度
面積十一萬三千餘方里 人口二千百餘萬

亞細亞土耳其其は西方亞細亞の極西を占め、北は黒海に面し、東は波斯、露領高加索に界し、東南は波斯灣に臨み、南は亞拉比亞に接し、西南は地中海に瀕し、西は多島海を控へ、西北のマールモラ海は土耳其本部に渡口を開き、西南の一隅は蘇土地頭を距て、亞弗利加に接し、シナイ半島より長く紅海に沿ひ、亞拉比亞の南端に延ぶ。

歐亞大山脈は東北より黒海岸に沿ふてボスフォラス海峡に至り、アンチタウルス山脈はザグロス山脈より續き、中央を西南に走りて、餘脈更にタウルス山脈を起し、地中海の北岸を、西に亘りて歐亞大山脈に合し、又レバノン、及びアンチ

レバノンの並行脈は、地中海の東岸を南北に馳せ、直にシナイ山に終れるを以て、山脈の趨勢著しく錯雑せざれども、内地は高臺、燥地、平原、沙地、窪地を交へ、地勢甚だ均一ならざるが故に、全國をタイグリス及びユーフレネチス河領地方、小亞細亞地方、シリア地方、ヘッヂャーイズ及びバイーメン地方の四部に分かつ。

タイグリス及びユーフレネチス河領地方は、東部一帯のアールメニア、クルヂスタン、メソポタミアより、亞拉比亞の東にあるエルハサの地を總稱す、多くは肥沃の廣野より成れども、アールメニアは一般の山地にして、雙兒河源を此に發す、小亞細亞地方は又アナトリアと稱す、雙兒河領の西より、多島海に臨める一帯の地方にして、地、南より北に低下すれども、概ね三千尺の高臺をなし、處々に大鹽沙漠あり、シリア地方はメソポタミアの



(圖之方地亞細亞小)

西より、南はシナイ半島に至り、レバノン山脈の東麓より漸く低く、エルゴールの窪地となり、猶南に陥落し、死海に至り、世界第一の低地となり、以東は次第に高く、一帯の沙丘をなせり、ヘッヂャーイズ及びバイーメン地方は、もと亞拉比亞に屬せし紅海の沿岸を總稱し、北はシナイ半島より、南はパツフェル、マンデップ海峽に達し、多くは沙丘岩礁より成れる不毛の地なり。氣候は我が國の本州と

殆ど緯度を同うせるが故に、相似たる所あれども、小亞細亞は炎熱にして降雨少なく、アールメニアは冬は寒さ強くシリヤ及びメソポタミアは夏日炎熱甚だし、○物産は雙兒河領の地に、穀物、綿、無花果、葡萄、珈琲、橄欖、阿片等の農産夥しく、小亞細亞は煙草を出だし、北部及びシリヤは麻、苧等に富め



(圖之方地アリシ)

り、鑛物は銅、銀、鐵、石炭、大理石、硫黃等あれども、産額未だ多からず、その他海綿は地中海より産し、馬、駱駝、羊等の牧養は、小亞細亞地方に盛んなり。

住民は土耳其族多數を占めども、希臘族、アールメニア族、シリヤ族、亞拉比亞族、猶太族等あり、信教は回教厚く土耳其族、亞拉比亞族等に行はるゝも、希臘族は耶蘇教を奉ず。○スミルナは國內第一の都會にして、人口二十餘萬、多島海に臨み、隊商と交易盛んなり、外に、ダマスカス、バグダッド、ゼルサレム、アレキサンドレツタ、ブルーサ、メデナ、メッカ等の都會あり。

(八) 亞拉比亞

北緯十二度四十分—三十四度東經三十二度

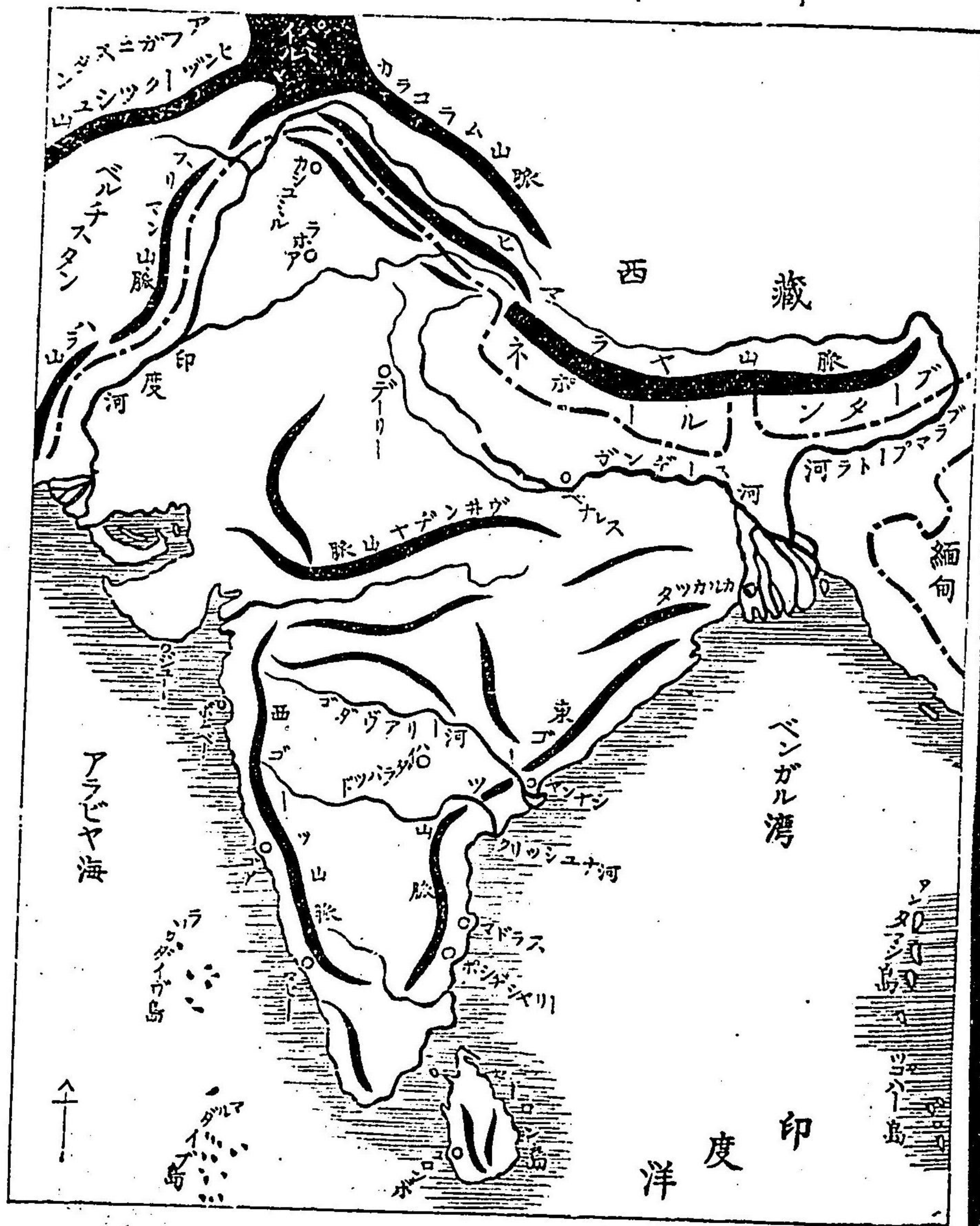
亞拉比亞は西方亞細亞の西より、南に長方形に突出せる、世界第一の半島にして、北は亞細亞土耳其に界し、東は波斯灣、オーマン灣を控へ、南は亞拉比亞海、亞丁灣に瀕し、西は紅海を距て、亞弗利加に對す。

地一帯に沙漠質の高原より成り、湖沼なく、河水なく、雨水時にあれども、皆沙中に浸して、海に注ぐ者なし。○氣候は大抵暑く、空氣常に乾燥し、沿海地方殊に劇し、されど、中央の高原は四時暖かく、亞拉比亞の樂土と稱す、國の過半は無雨帶に屬せり。○物産は谿谷水灌ある處、椰子、棗、檸檬、葡萄、珈琲、護謨、綿等を出だし、馬、駱駝、羊、驢馬等の牧養最も盛んに、殊に亞拉

四十分—六十度
面積二十一萬方里人口七百萬より千三百萬
の間にある。

比亞馬は天下に名あり、鑛物は唯鉛、銅を産し、瀕海は眞珠、海綿、珊瑚等夥し。○住民は亞拉比亞族最も多く、沙漠の間に遊牧を事さす、外に、土耳其人、猶太人、印度人等あり、宗教は回教を奉ずること厚けれども、又太陽を拜する蠻族あり、

國內をエル、ハサ、オーマン、ハツドラ、モート、イーマン、ヘツダ、ヤーズ、シナイ半島、子デユド、ダエベル、シヨーマルの八地方に分かつ、その中、エル、ハサ、イーマン、ヘツダ、ヤーズは土耳其に、シナイ半島は埃及に屬し、他は各自獨立の部落をなし酋長に屬す。○マスカットは國の首府にして、人口六萬、波斯灣口に臨み、印度及び歐洲諸國と貿易盛んなり、亞丁はハツドラ、モートの西南海岸を占むる、火山質の小半島にして、附近



(圖 之 度 印)

の島嶼を合せ面積十二方里、人口四萬五千あり、氣候熱く、樹木稀に、平時用水に乏しきを以て、僅かに雨水を貯へ飲料に供す、本港の貿易は、珈琲、護謨、革皮、煙草等を亞拉比亞内地より輸出するに止まれども、東洋航路の重要な石炭積入所に當ると、紅海の咽喉を占むることにより、軍事上要用の地位に立てり、全部英國に屬し、孟買政廳より派遣の政務駐在官、本港の政務を兼ね、孟買より航程千六百六十四海里。

(九) 印度

北緯六度—三十六度 東經六十六度—九十七度
面積二十三萬五千餘方里 人口二億八千二百萬餘

印度は又前印度と稱し、古への天竺の地にして、亞細亞の中央より印度洋に、三角狀をなして突出す、北は喜馬拉耶山脈を以て支那に、パミール高原

を以て露領中亞細亞に接し、東は緬甸に界し、南は印度洋に面し、西はスリ
マニ山脈、ハラ山脈を以て亞富汗、比耳路斯坦を限る、東西の最廣八百里、南
北は我が千島の北端より臺灣の南端に至るよりも長し。
地勢は土地の廣きと、高低の均しからざるによりて、喜馬
拉耶地方、中央平原地方、デッカ^ン高原地方、海濱平原地方の
四大部に分かる。

喜馬拉耶地方は喜馬拉耶山脈の南麓にして、下層は熱帶の植物繁茂し、七
千尺より一萬二千尺の間は灌木を生じ一萬二千尺より一萬五千尺の間
は雜草蘚苔となり、夫より以高は氷雪を以て蔽はる、中央平原地方は喜馬
拉耶地方の南、印度、ガンジ^スの兩河領を成せる大平原にして、東はベンガ
ル灣より、西は亞拉比亞海に達する大沙漠なれども、大部は印度中最も、豐
富の地なり、デッカ^ン高原地方は中央平原地方の南を占め、北にヴ^ンヂヤ
山脈と、東に東ゴーツ山脈、西に西ゴーツ山脈とを以て圍める三角形高原

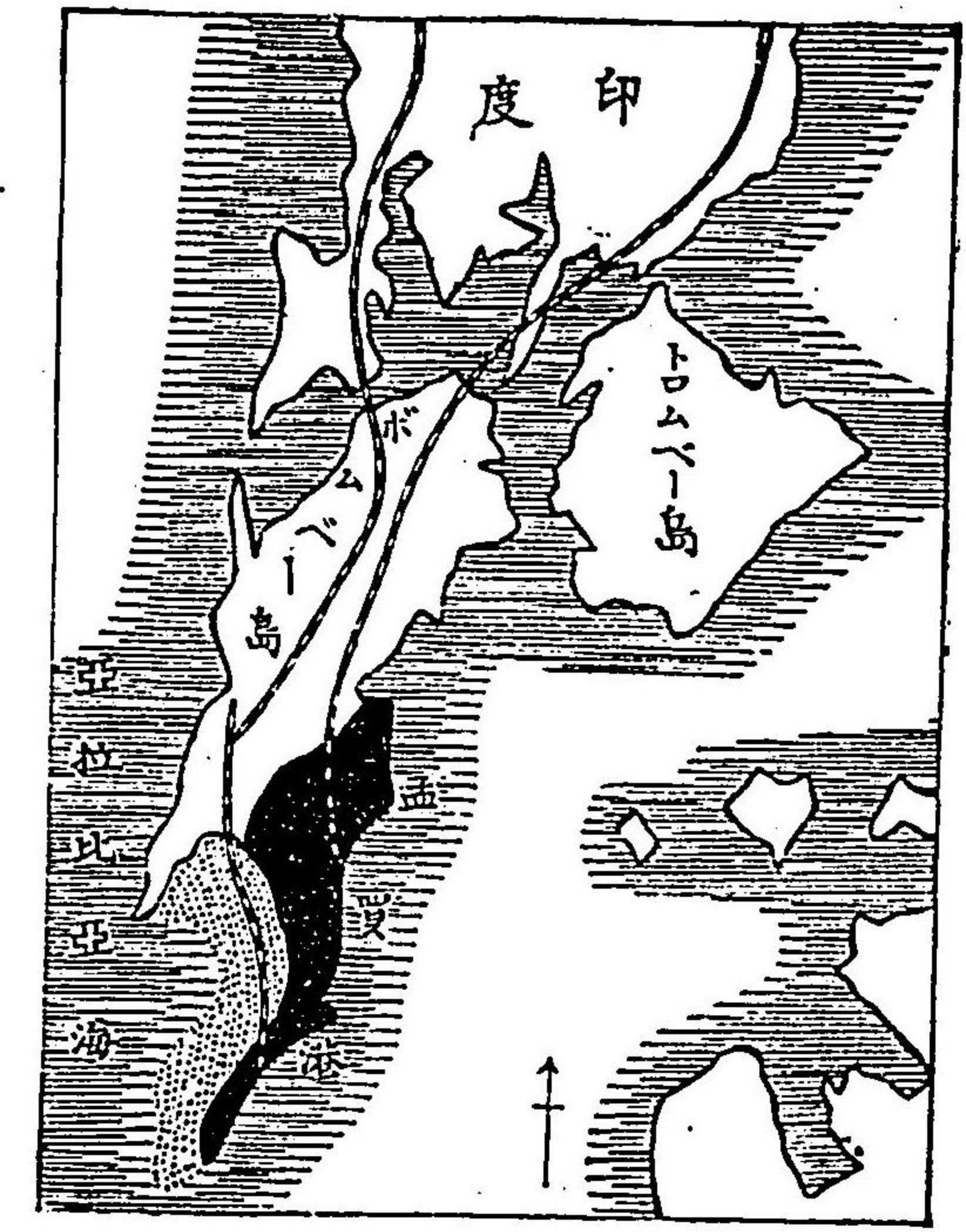
にして、大部は肥えたる黒土層より成り、マハナデー、ゴダヴ^リ、クリッ
シユナ、ナーバダ等の諸流全部を灌溉し、綿の培栽を以て著はる、海濱平原
地方は東、西ゴーツ山脈以外の海濱に存在せる、狭く長き豐沃の平原なり。
氣候は緯度の懸隔と、地勢の高低と、沙漠及び海洋等の作用
とによりて、多少の異同あれども、概ね濕、乾、熱の三期に分か
れ、三月より六月の間は熱さ烈しく、六月より十月は西南氣
候風洋上より來りて霖雨絶へず、十月より三月は、東北氣候
風内地より來り雨量最も少なし、物産は喜馬拉耶高原地方
及び東西海岸の山中に、チーク^ク、椽樹^{アカウ}等良材の外、白檀、椰子、
護謨樹等の森林能く繁茂し、農産物は米穀、珈琲、綿、砂糖、藍、煙
草、茶、麻、阿片等、到る處に産し、動物は象、獅子、虎、狼、犀、水牛、野猪、

猿猴等森林の間に棲息し、殊に鱷魚、蛇、蝮の如きは、濕澤に潜伏して許多の人畜を害す、鑛物は鐵、石炭を主とし、金、銀、金剛石、紅寶石等の諸鑛あり、内地の商業は毎年定期の市場を開き、波斯及び露領中亞細亞と取引し、外國の貿易は主に英國、支那と行はる、輸出は綿、米、小麥、阿片、藍、麻、茶等を主とし、我が國へ綿、米、熟皮、藍、砂糖、麻等を輸出し、我が國より石炭、銅、木器類、陶器、漆器、絹布、手巾等を輸入す。

現時の印度人は種々の民族の混合より成れども、正統の印度人種は、高加索人種のアリヤン種とし、多くは農を事とし、宗教は婆羅門教を尊崇すると甚だ深く、又回教、耶蘇教を信ず、教育は都會の地に中學、大學の設けあれども人口五分の

四は猶讀み書きする能はず。

カルカッタハ人口九十萬、印度の首府にして、ヒューグリー河の東岸に立ち、大總督駐在の地として、政廳、鎮臺等宏大なる建築多く、市街は皆歐風に倣ひ美麗なれども、氣候甚だ悪しく、土地濕潤に失し、飲料水不良なるが故に、夏は流行病の繁殖地として世に知らる、市況は綿及び麻の製造盛んに、阿片、米、麥、茶、藍等は、此處より輸出する重要品なり、外に孟買、マドラス、ベナレス、デリー、ラホア、カシユミル等の都會あり、就中、孟買は西部の海岸、同名島の南端に位し、人口八十二萬、綿の産地と交通の便あるを以て、紡績業最も盛んに、四十有餘の製絲場あり、本島と大陸との間は、棧橋を架し鐵道を敷



(圖之島買孟)

の輸出は、支那と取引盛んなり、我が國の紡績絲は原料を多く此に仰ぐ、我が國人の在留せる者ありて、領事館の設けあり、横濱より航程五千四百餘海里。

交通は鐵道一萬八千餘哩に延長し、水路はガンヂーヌ河の如きは、汽船の

けるにより、往來頗る頻繁を極め、殊に蘇士運河の開けしより、内外の貨物此に集まり、綿、阿片、種子類、穀物、革皮、珈琲等

大なる者は二百里、小なる者は五百三十里に航行し、海岸平原地方は運河の設けありて、デッカ地方との交通を便にす。

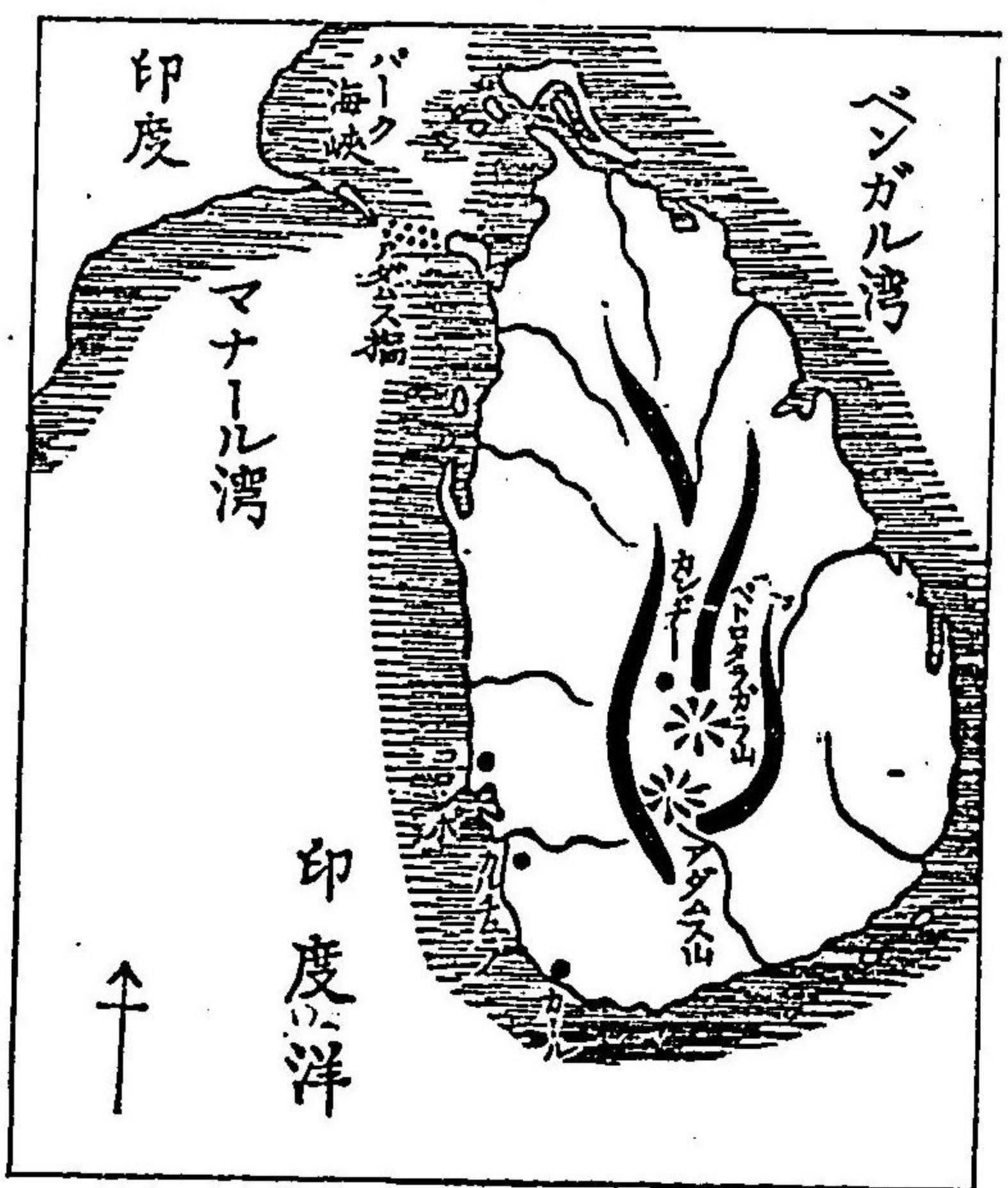
全部英國に屬し、域内を大別して直轄部及び藩屬部とし、直轄部を七州に分かつ、その政治は英國女皇の勅任したる大總督を以て統轄し、地方制度は州に知事副知事又は代理官等を置く、藩屬部は印度の舊國にして、今も猶藩王之れを治め、總督府派遣の駐在官に政務を諮問し、部内を監督す、兵備は英國より派遣の常備兵七萬、土人兵十五萬と、外に、東印度駐在の英國軍艦十隻あり。

英國は斯く印度全國を領すれども、猶喜馬拉耶地方の山中に獨立せるチポール及びブータンの二小國と、佛國の領せ

るシヤンデルナゴア、ボンヂシャリー、マヒー、ヤンナン、葡萄
 牙の領せるゴア、ダムマン、ヂュー等の領土あり。

チポールは喜馬拉耶山麓に位し、面積九千方里、人口二百萬より五百萬に
 至る、獨立の王國にして、武斷を以て國を治め、物産は米、牛酪、材木、麝香等を
 主とし、皆印度に輸出す、首府をカトマンヅーと云ふ、住民は蒙古人種にし
 て、佛教に歸依す。○ブータンはチポールの東隣にある王國にして、面積二
 千八百方里、人口二萬を超ゆ、首府をプーナカと云ふ、産物は米、玉蜀黍、生糸、
 稷、護謨、羊毛、馬、麝香等を主とし、印度へ輸出す、國民は蒙古人種にして、佛教
 を奉ずると厚し。

錫蘭島はパーク海峡を距て、印度半島の南端に位し、アダ
 ムス橋の珊瑚礁を以て大陸と連續し、面積凡そ四千三百方
 里、人口三百萬餘あり。○本島は西南五百海里の海上に、十七



(錫蘭島之圖)

山及びアダムス山は高く八千尺以上に達し、地概ね肥え、山
 地も菲薄なる處甚だ稀なり、氣候は低地は熱く雨多きが故
 に、濕氣強けれども、拔海三千尺以上に至れば、溫暖なること
 恰も春の如し、物産は椰子、肉桂、茶、煙草、珈琲、綿より烏木、チ

の珊瑚島よりなれる、
 マルダイヴ群島と共に、英國殖民事務大臣
 の直轄に屬し、本國派
 遣の總督政治を行ふ、
 内地は山岳處々に起
 伏し、ペツロタラガラ

ク|| 杖等の良材を出だし、西北の海灣より眞珠を産す。人民は高加索種に屬し、多くは農業を事す。此の地は釋尊が教法を修めし靈地なるが故に、人民甚だ佛教を尊奉し、無數の伽藍今にその舊觀を改めず、古倫母は本島の首府にして、人口十三萬、西海岸に位し、東西に往來する船舶は、石炭準備の爲め此に寄港し、帆檣常に林立す、鐵道は二千七百哩の敷設あり。

(十) 交趾印度

北緯一度十六分 || 二十八度三十分 東經九十二度三十分 || 百九度二十分

面積凡そ九萬五千方里 人口三千百七十餘萬

交趾印度は亞細亞の東南に位せる、後印度半島と總稱す、北は支那に界し、

東は支那海に面し、南は印度洋に瀕し、マラッカ海峽を距て、馬來群島のスマトラ島に對し、西は、一部はベンガル灣に臨み、一部は印度に接す、分かれて佛領亞細亞、暹羅、海峽殖民地、緬甸の四部となり、面積九萬五千方里、人口三千百七十餘萬あり。

(イ) 佛領亞細亞

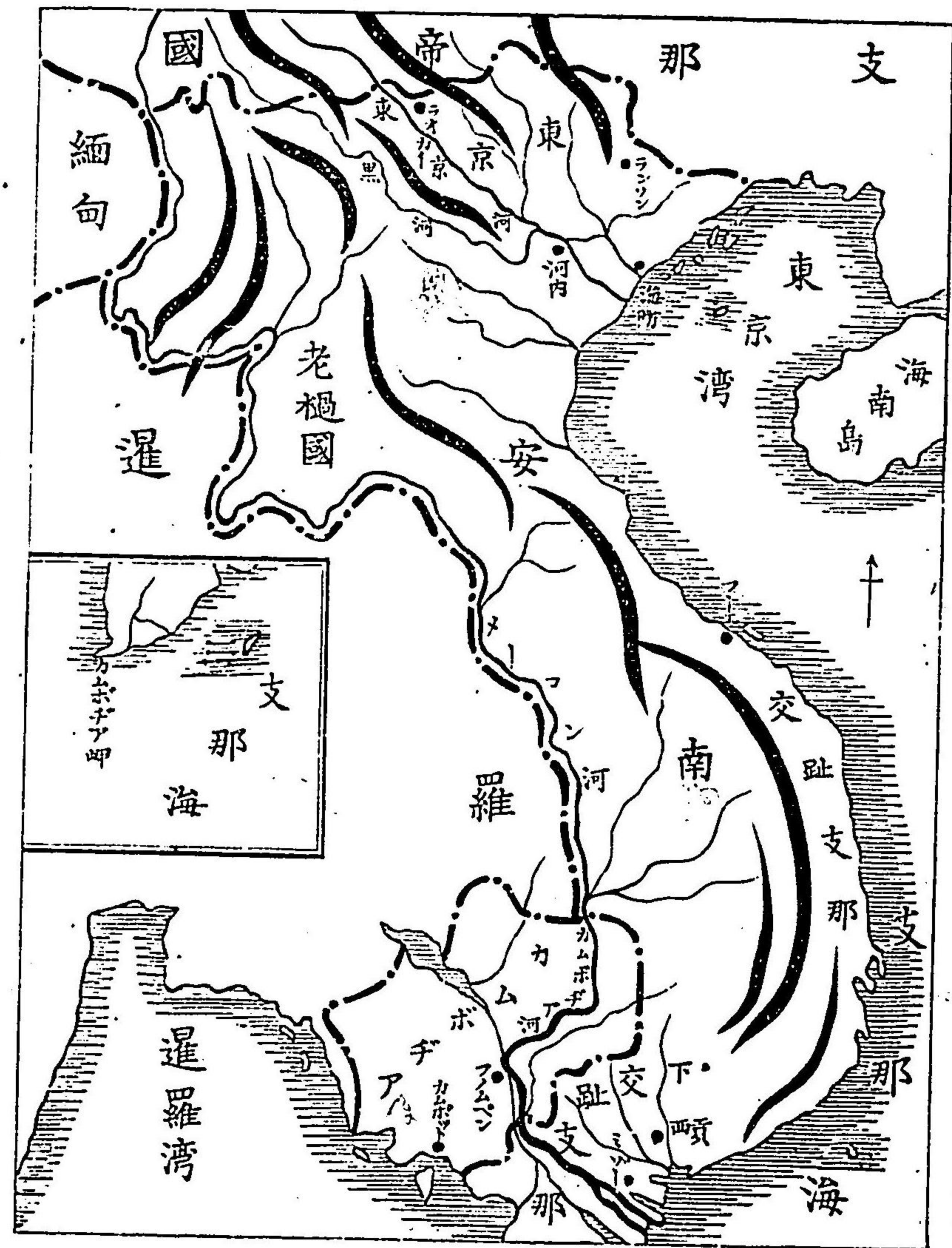
北緯八度四十分 || 二十三度二十分 東經百度十分 || 百九度二十分

面積二萬三千八百六十方里 人口千七百八十三萬餘

佛領亞細亞は交趾印度の東部一帯を領し、北緯十六度線恰も中央を貫き、北は支那本部に接し、東南は支那海に瀕し、南西は暹羅灣に臨み、西は緬甸、暹羅に界す、分ちて東京、安南、交趾支那、カムボヂヤの四部とす。

地勢は歐亞大山脈の餘脈、中央を南北に亘れるが故に山岳

多けれども、交趾支那は地平らかに、能く植物の生育を助く、
 河流は山脈の趨勢に従ひ、北より南に馳せ東京河、メーコン
 河の水域は地殊に豊饒なり。○氣候は熱さ強きも、終年乾濕
 の二期に分かれ、四月より十月の間を濕期とし、乾期は十一
 月より三月に亘る、就中、三、四、五の三ヶ月は空氣鬱塞し、風土
 に慣れざる外國人は、滯留久しきに及ばず、往々貧血症に罹
 るとあり、地方第一の物産を米とし、大抵支那、南洋諸島、歐洲
 及び我が國へ輸出す、又山間豊かなる地は、肉桂、綿、煙草、砂糖、
 麥、麻、藍、胡椒、護謨、果實等各種の農産夥しく、鑛物は金、銀、銅、鐵、
 石炭あり、家畜は水牛、牛等多く、輸出は鹽、酒類、諸織物、陶器、器
 械類、金屬具等を主とし、佛國との貿易最も盛んなり。○土人



(佛領亞細亞之圖)

は大抵蒙古及び馬來の雜種民族にして、農耕を主とし、又採鑛に従事せるも、一般に怠惰遊樂に耽り、忍耐の氣象に乏し、支那南部の人民移住して、勞役に服する者甚だ多し。○信教は佛教を奉ずると甚だ厚く、壯大なる許多の寺院あり、耶蘇舊教又盛んに行はる。

全部今は四國となれども、元は安南の地に屬し、西曆十三世紀頃までは、支那の封冊を受け、後獨立して、東洋屈指の專制國となりしが、十八世紀の末より、國勢次第に衰ふるに及び、内亂之れに乗じ、國王終に暹羅に逃れ、佛國の聲援を借り、漸く争亂を定め、爰に始めて交趾支那を佛國に割讓し、文久三年、又カムボヂヤ王國の保護を佛國に委任し、明治十六年、東

航路權の事件より、佛國と戰端を開き、その結果東京の全土を舉げて佛國に割き、同時に、安南王國亦佛國の保護を受く、我が國との交通は、慶長六年に、使人來聘して好を修めしに生まれども、是より先き、天正年間、我が國人の此の國に渡航し、市街を開き、日本町を建て、又寺院を建立せし者ありき。

東京は古への交趾の地にして、佛領亞細亞の北部に位し、北は直に支那本部と界を交へ、西北は山岳多きも、東部は地坦らかに、沃野連り、東京河斜めに國を貫き、舟運漑灌兩ながら便なり、河内府は首府にして、人口十五萬、東京河口の上流、四十里の河畔に位し、東京河貿易の要路に當り、雲南地方と舟楫の便あり、海防港は東京河口の海港にして、人口九千、東京

通商の中心に當り、佛國と船舶の往來あり、全部佛國に屬し、派遣の總督河内府に駐在し、本國殖民省の監督と、印度支那高等會議の輔佐とによりて政治を行ふ、交通は海防より河内を經、猶東北、ラソンに至る六十四哩の鐵道あり。安南は東京の西より南に亘る大部にして、西はメーコン河を以て暹羅に界す、中央は山岳多きも、東の海岸は平野遠く連り、農産物豊かなり、フーエは國の首府にして、人口十餘萬、國王の宮殿は、金銀にて鏤めたる佛像を以て城門を飾り、結構華麗を盡くせり、此の地は又順化府チエンカイフーと稱し、國の中央海岸に臨めるを以て、漁船常に海防港との間を往來し、貿易盛んなり、全部獨立の王國なれども、佛國の保護を受け、本國政府

は、官吏を派し、又六百の兵士を此に屯し、財政は必ず商議の權を有せるが故に、名は王國なれども、實は附庸の國と異なる所なし。

交趾支那は佛領亞細亞の南角を占め、北は安南、カンボヂヤに接し、メーコン河斜めに中央を貫き、土地は大部平坦肥沃なり、西貢サイゴンは國の首府にして、人口五萬餘、西貢河に跨り、佛國支那、香港、新嘉坡等と貿易盛んに、市街は道路廣く、總督府、上等裁判所、陸軍病院、兵營等の建築は宏大美麗なり、この地は佛領亞細亞中最も要害の地なるを以て、艦隊を置き、隊兵を駐屯して防禦を嚴にす、民俗一般に氣候熱きが故に、晝間は、大抵十時より、閉戸休息し、午後四時頃に至れば、復店を開き

て業を執るの習慣あり、全土佛國の領土にして、總督を置き政治を行ふ、交通は西貢よりミゾーに至る五十一哩の鐵道あり。

カムボヂヤは交趾支那の西北に位し、西南は暹羅灣に臨み、メーコン河東部を流れ、地平らかに、沃野多く、米を産するこゝ夥し、プノムペン^ンは國の首府にして、人口凡そ五萬、メーコン河に臨み、市街は清潔に、殊に、宮殿諸官衙は建築を歐風に倣へり、此の國も亦名は專制の王國なれども、佛國の保護を受け、財政の豫算は、本國必ず商議權を有するを以て、殆ど屬國と異ならず、交通は未だ鐵道の敷設なきも、プノムペンと西貢との間は、汽船の定航ありて船舶の出入劇し。

(口) 暹羅

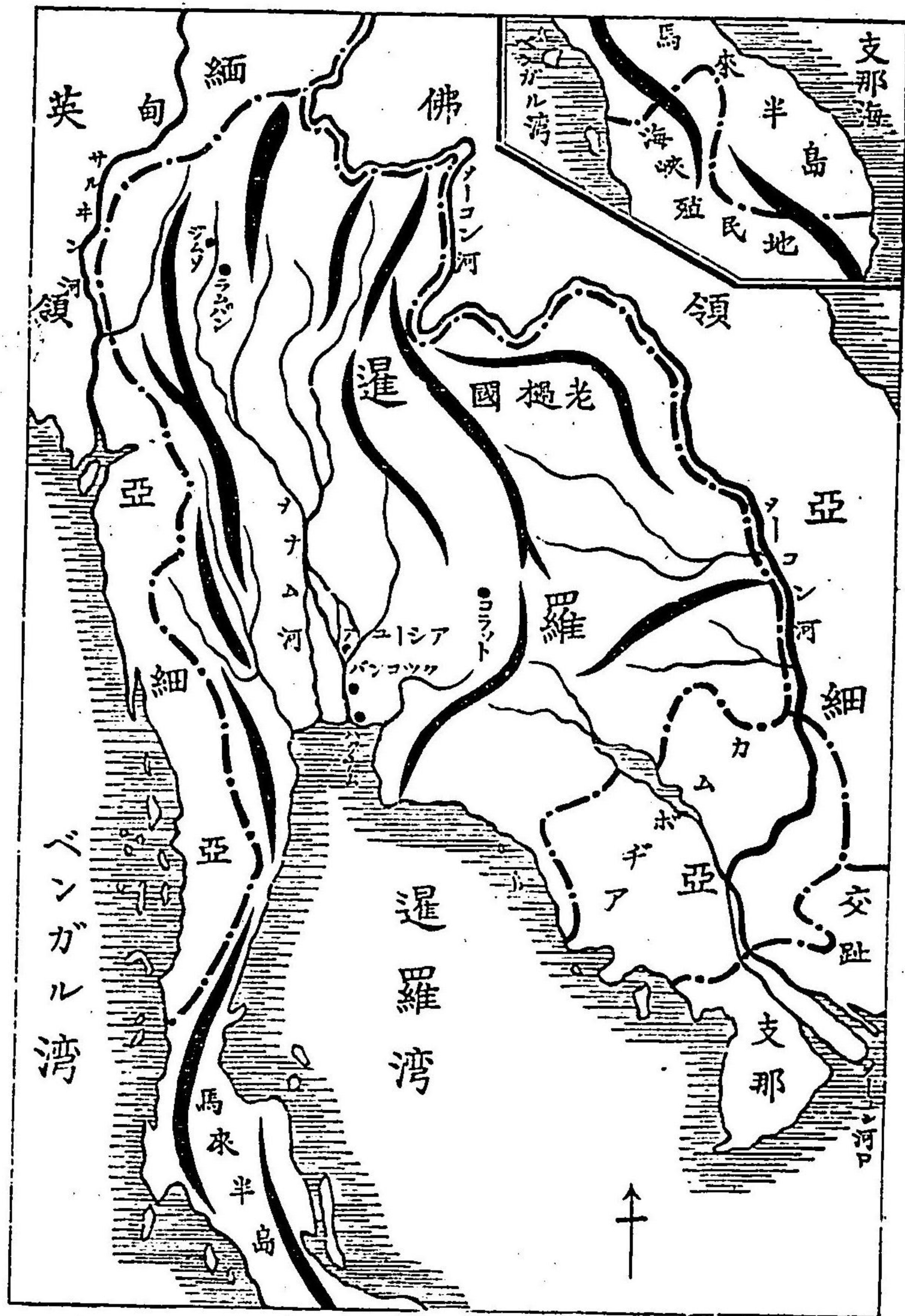
北緯四度十五分—二十度二十分東經九十七度十分—百六度

面積四萬二千餘方里人口二千七百萬

暹羅は交趾印度の中央、佛領、亞細亞と緬甸との間に挾まれる、獨立の王國にして、北及び東は緬甸、安南、カムボヂヤと界を交へ、南は暹羅灣に臨み、西南の一部長く馬來半島に連なり、西は一帶緬甸に接す。

地勢は歐亞大山脈より分派せる許多の山脈、安南、緬甸の界より國の東西を走り、その一端は遠く馬來半島に亘れるが故に、北より西は山地多きも、中央以南は沃野遠く連なり、暹羅灣にかけて次第に低く、丘陵を見ず。

氣候は、乾濕の二期に分かれ、濕期は涼しく、乾期は暑し、就中、



(暹羅國之圖)

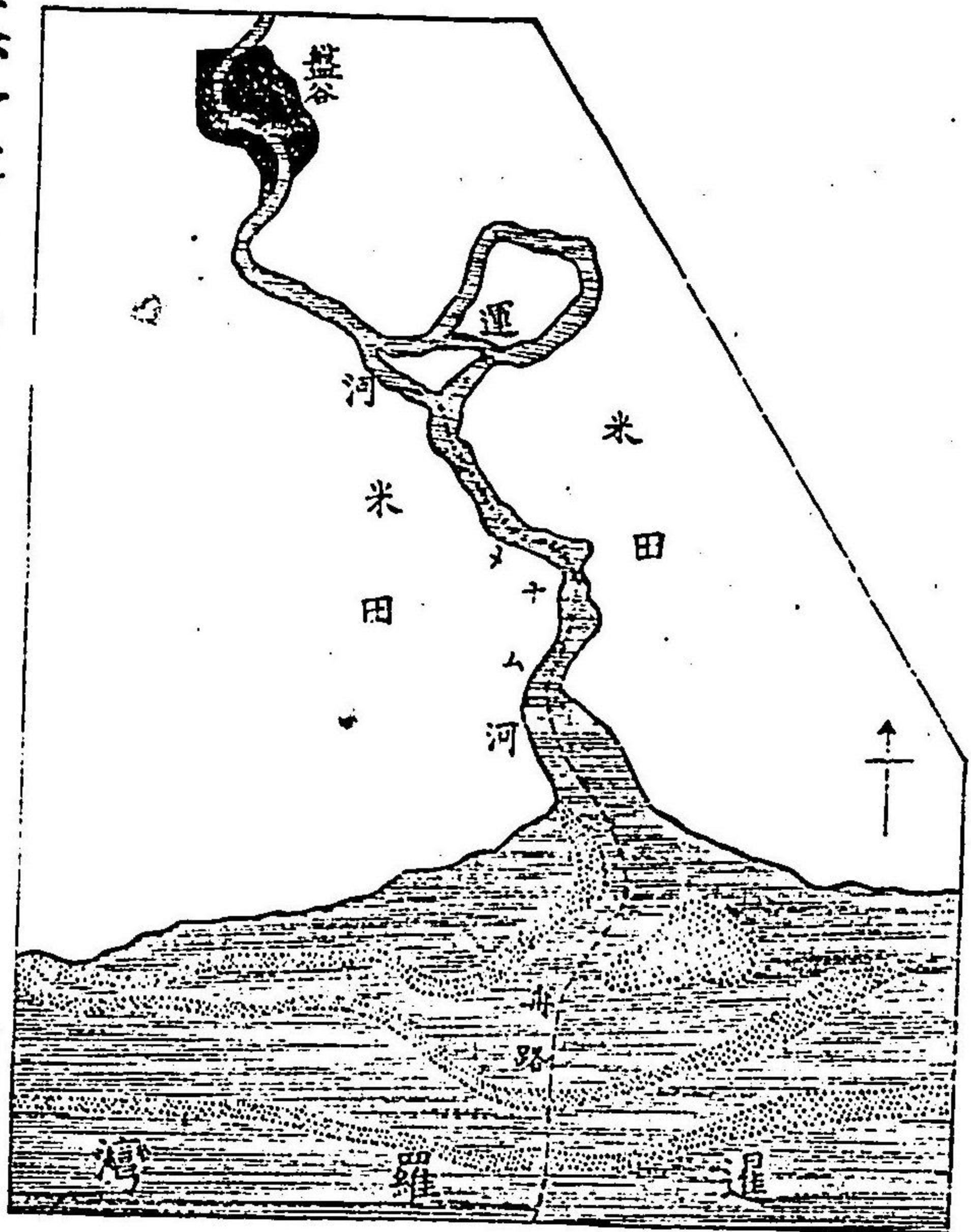
最も涼しきは十一月頃にして、その前十月より翌年の二月頃までは、大抵日中の温度九十度に達し、夜間は七十度に降る、暑氣は三月より五月まで最も強く、最高百十五度に昇り、低きも猶九十度を降らず、外人の風土に慣れざる者、陰雨の候、一種の熱病に罹る者多し。○此の國第一の物産を米とし、我が國人の南京米と稱するは、此の國及び比隣地方の輸出米を汎稱す、外に、砂糖、玉蜀黍、綿、煙草等亦生育し、北部の森林よりは、殊に良材を産す、礦物は金、鐵、石炭、錫、寶石等あり、輸出は米、砂糖、胡椒、護謨、黃蠟、ナーク材、紫檀、烏木、象牙、犀角、水牛、牛皮等頗る多く、我が國、支那、安南、新嘉坡、印度、歐洲、米國等と取引し、輸入は金巾、更紗、毛織物、紡績糸、陶器、燐寸、茶、紙等を主と

す、我が國との貿易は、未だ盛んならざるも、燐寸の如きは、大抵我が製品を用ひ、陶器、洋傘、漆器、木綿、團扇、絹布類も、亦價の廉なる者漸次嗜好に向はんごせり、我が國へ直輸出する者は、米及びナーク材最も多し。

國民は大抵蒙古人、馬來人多く、性温和なれども、熱帶國の常として、衣食住に關する勞苦は極めて少なきを以て、一般に怠惰にして賭博を好み、飲酒に耽り、政府亦賭博を公許し、その課税の大部を舉げて政府の歳入を補ふ、されば、盤谷の如きは賭場の大なる者十七ヶ所ありて、常に二千人体内の國民集合し、互に勝敗を争へる有様は、實に他國人の想像し得べき所にあらず、國民生活の程度甚だ低く、家屋は僅かに日

光を遮ぎ、雨露を凌ぐに止まり、食物は椰子、檳榔子、芭蕉等、天産の菓物を食す、風俗亦多くは裸體跣走にして、僅かに腰巻及び乳被チカレンを纏ふ、宗教は佛教を尊敬すること最も厚く、男子苟くも一度僧と成らざれば、國民として齒せざるの習慣あり、されば、國民は上下一般に、二十歳前後に至れば身を僧籍に列し、凡そ七八ヶ月より、多きは二年間、村里に托鉢し、或は經を讀み學を講じ、後還俗して各自の好む所に適歸し、國王と雖、即位前には必らず僧籍に列するを常とす、故を以て寺院堂塔は宏大美麗にして、到る處、建築の觀るべき者多し。

首府磐谷パンコックは人口凡そ三十五萬、メナム河口を浜る十餘里の兩岸に跨り、内外通商の要衝に位し、市街は内、外、浮の三郭に



(圖之府谷磐)

の大、外客の始めて来る者、多くは驚かざるはなし、外郭も亦地廣く、貴族の邸宅、外人の館舎より、數多の商店軒を並べ、市街繁盛なり、浮郭は河の兩岸に浮べたる船住家屋にして、府

分かれ、王宮官署皇族の居宅、無數の寺院高塔等は、皆内郭にあり、就中、宮殿官署は建築を歐風に倣ひ、結構の美、規模

民大約三分の一は、生涯を此所に送る、その構造は、ナーク材を以て堅固に基礎を造り、その上に柱を樹て、屋根を覆へる處は、一般の家屋と異なるなきも、風荒み波高き日は、搖々として恰も波間に漂ふ舟舶の如く、而も、流水の緩なるにより絶へて流るゝとなく、物貨を賣買する者は、その間を小舟に棹して往來し、住民も亦斯の如くす、夜間之れを望めば、輝き渡る萬燈は波に映じ、又四時螢火の之れを助くるありて、その美觀實に磐谷第一の光景たり、アユーチャは磐谷の北にある舊都なり、交通は首府よりメナム河口のバクナムに至る十四哩と、首府ヨリアユーチャを経て、東北、ユラットに達する百六十五哩の間に鐵道を敷き、メナム河の如きは、運河

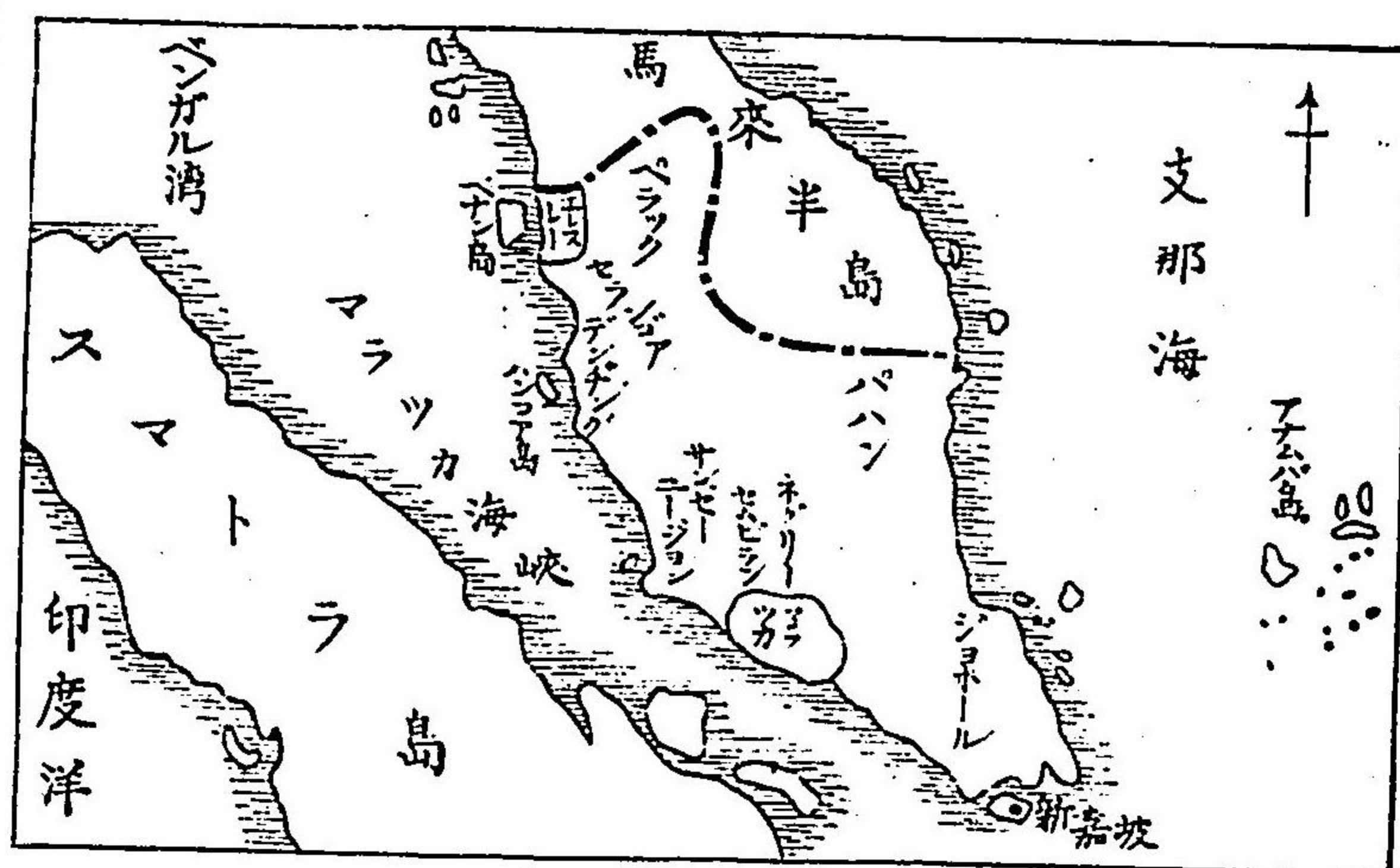
を開き、捷路を設けて舟楫を利せり、されど、その河口は洲沙堆積せるを以て、船舶は貨物を却し、船脚の吃水を減じ、満潮の候を俟つにあらざれば、入港するに能はず。

政體は世襲の君主專制にして、王侯貴族甚だ權力あり、陸軍は常備兵一萬二千人を侍衛兵、王宮衛兵、象隊歩兵等に分ち、海軍は小軍艦數隻、外に、巡洋艦一隻あれども、唯海岸の哨船に充つるのみ、明治二十一年、我が國と通商條約を結び、盤谷に我が公使館あり、されど、個人の航通は文祿の比に始まり、我が商人の渡航して日本町を設け、在留人七八百人に及びしとあり、就中、山田長政の如きは、國王を佐け内亂を鎮定し、封侯の榮爵をさへ賜はりき、元和七年暹羅の聘使來りて

方物を獻じ修好を請へる時、將軍秀忠之れを允しぬ、此れを國際上交通の始とす、現今、我が國人の在留せる者、許多ありて、公使館を盤谷に置けり。

(ハ) 海峽殖民地

海峽殖民地とは馬來半島の南部、マラッカ海峽に臨めるマラッカ、エレスレー、ディンゲン、及び新嘉坡シンガポール、バンコア、ペナンペナンの三島より成れる英國の殖民地にして、皆西曆千七百八十五年より千八百十九年までに、全く英國の版圖に歸し、その他ペラック、セラングア、サンゼイ、ユーシジョン、子グリー、セムピラン、パハン等も亦マラッカ半島の大部を占め、酋長の支配に屬する、許多の小州をなせども、英國の保護を受く。



(圖 之 地 民 殖 峽 海)

柔弱にして、多くは勞役に従事す、物産は錫、香料、穀類、茶、珈琲、

地勢は丘陵處々に起伏せるも、地低き處は、概ね肥沃にして農産物豊かなり、各部熱帯地方にあれども、氣候の變甚だ穩かに、殊に夏は驟雨時々來りて蒸熱を冷却し、人身の健康を害せず、土人は馬來人種多く、風俗は腰部に白紗を纏ふも、大抵は裸體跣足を常とし、容貌は奸惡なれども、性

護謨、籐、砂糖、胡椒、肉荳蔻、水牛、煙草、黃蠟を主とし、多くは新嘉坡を経て海外諸國に輸送す。

新嘉坡は殖民地政廳の所在地にして、人口二十萬、新嘉坡島の南端に位し、東西兩洋に通ずる咽喉に當るを以て、物貨の集散甚だ速やかに、一年の貿易額三億萬圓に上り、貿易は自由制度なるが故に、出入の船舶、積卸の貨物には課税せざれども、燈臺及び燈船の維持費に、船舶は一噸毎に三仙を納めしむ、此の地は人種の博覽會とも稱する所にて、世界各種の人民、皆此に集合すれども、支那人最も多く十萬を超へ、大抵勞役を事させり、我が國人の在留せる者、殆ど六百人、領事館を置きペナン、マラッカの事務を兼ね、我が國人の在留せる

者、ペナンに百五十人、マラッカに四十人、その他に四百五十
餘人あり、横濱より航程二千九百二海里。

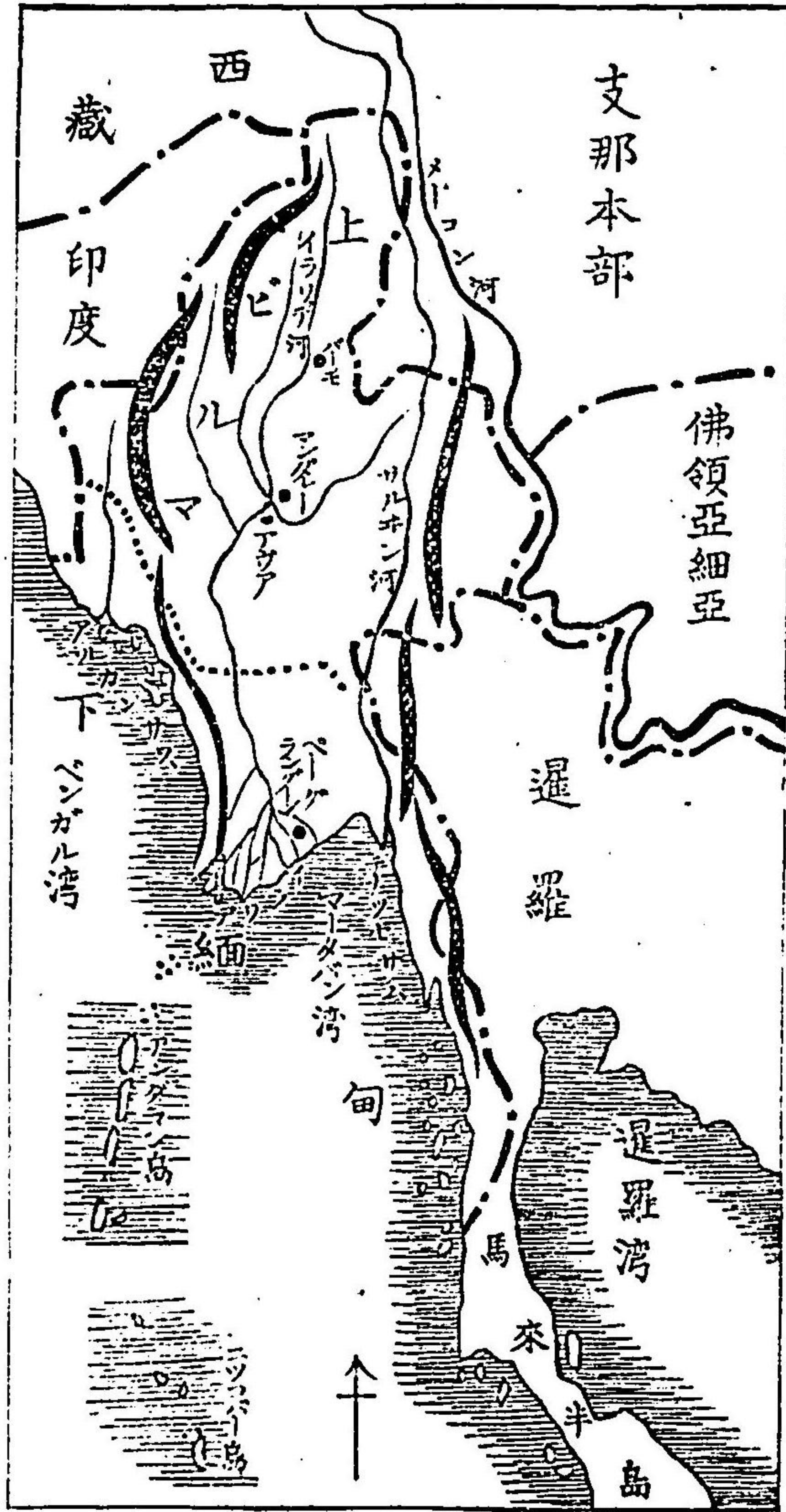
(二) 緬甸

北緯十度三十分—二十八度三十分 東經九十二度
三十分—百三度

面積二萬八千五百餘方里、人口七百六十餘萬

緬甸は暹羅の西北に位し、東經九十六度線中央を貫き、北は支那に、東は佛
領亞細亞、暹羅に界し、南西はベンガル灣を限りて印度洋に面し、西は印度
に接す、全國を上緬甸、下緬甸の二部に分かつ。

地勢は歐亞大山脈の餘脈北方に蔓延し、遠く下緬甸の海岸
に亘れども、内地は地坦らかにイラワッデー河中央を貫き
サル井ン河東部を流る、海岸は屈曲多く、港灣に富み、マー
タ



(圖 之 甸 緬)

バン灣深く陸地に一大灣をなせり。○氣候は暑さ強きも、概
ね乾濕の二期に分かれ、五月より十月の間は霖雨あるも、冬
期は東北氣候風山岳に衝突し氣候乾燥なり。物産は米、砂糖、

綿、煙草、藍、胡椒等の外、ナーク材多く、又鑛物に豊かに、金、銀、鐵、石炭、寶石等を出だし、動物には白象、虎、犀、牛、馬等夥し。マングレーは上緬甸の首府にして、イラワッデー河畔に立ち、往時は市街賑やかに、王城は城郭を築き、要害堅固なりしが、英國が占領せしより、通商に不便なるを以て、繁華はラングーンに移り、今は人口僅かに八萬餘に過ぎず、印度より派遣の兵士此に屯す、ラングーンは下緬甸の首府にして、人口十八萬、イラワッデー河口を浜る十一里餘の河岸に位し、港頭深く船舶の碇泊夥しく、米の輸出盛んに、英領亞細亞著名の要港なり、アヴァは上緬甸の舊都にして、國威の盛んなる時、國名をアヴァと稱せしとありしが、嘗て、全都地震の爲め

に破壊せられ、今は市街頗る寂寥なり、交通は往時内國の運輸を、一にイラワッデー河に取り、支那地方の物産を印度洋に輸せしが、今は、マングレーを中心として、南はラングーンより、北はバームに鐵道を敷設し、猶目下、バームより一は印度に入り、一は暹羅のヂュムに連なり、一は支那の雲南省に至るまで工事中に屬す。住民は蒙古人種多く、大抵農業に従事せり。宗教は回教を奉ずる者あれども、多數は最も佛教を信じ、競ふて寺觀を壯大にし、國民は一度寺院に入りて剃髮し、法衣を被て村落に托鉢するを名譽とす。

緬甸の建國は、遠く二千四五百年前にありて、往時は、下緬甸と共に強大な

る王國を建て、東洋に雄視せしが、國運次第に頽廢に趨くに際し、西曆千八百二十四年終に英國と干戈を交へ、戦利あらずして下緬甸の三州を取られ、尋で千八百五十二年、下緬甸の全部も亦占領せられて、上緬甸のみ僅かに漸く、獨立の體面を保ちにき、されど、英國は明治十九年に、故なく國王の非政を鳴らし、大舉して國王を擒にし、緬甸全土を滅してその版圖に歸せしめ、今は、英國女皇の勅任したる總督を以て、地方一切の政務を行ふ。

(十一) 馬來群島

馬來群島は又東印度諸島と稱し、交趾印度の東南より、東はニューギニア島の間に散在し、南北は南緯十度より北緯二十度に亘り、東西は東經九十五度より百三十度に達し、北は支那海を限りて、我が臺灣に對し、東北は太平洋に臨み、南西一帶印度洋を擁す、分かれてスダ諸島、ボルネオ島、スールー諸島、比律賓諸島、セレベス島、モラッカス諸島等の主島よりなり、面積十二萬餘方里、人口三千六百八十餘萬あれども、多くは西班牙、和蘭、英國の領土に屬し、獨立せる者なし。



(圖) 之 島 群 來 馬

(イ) スンダ諸島

スンダ諸島は馬來群島中、西南に位せる最大島彙にして、又スマトラ、ジャヴァ、チモアの主島に分かる。

地勢は各島皆火山質の山岳多く、殊にジャヴァの如きは、有名なる火山島にして、四十六座の火山を有し、往々地震の慘害を蒙るとあり、彼の西暦千八百八十三年に於けるスンダ海峽のクラカタア島の噴火は、歴史以來前古未曾有の大爆烈をなし、火山灰は高く上天に昇りて、世界を一週し、全地球の人、一時日光の赤色を認めたるにあり。

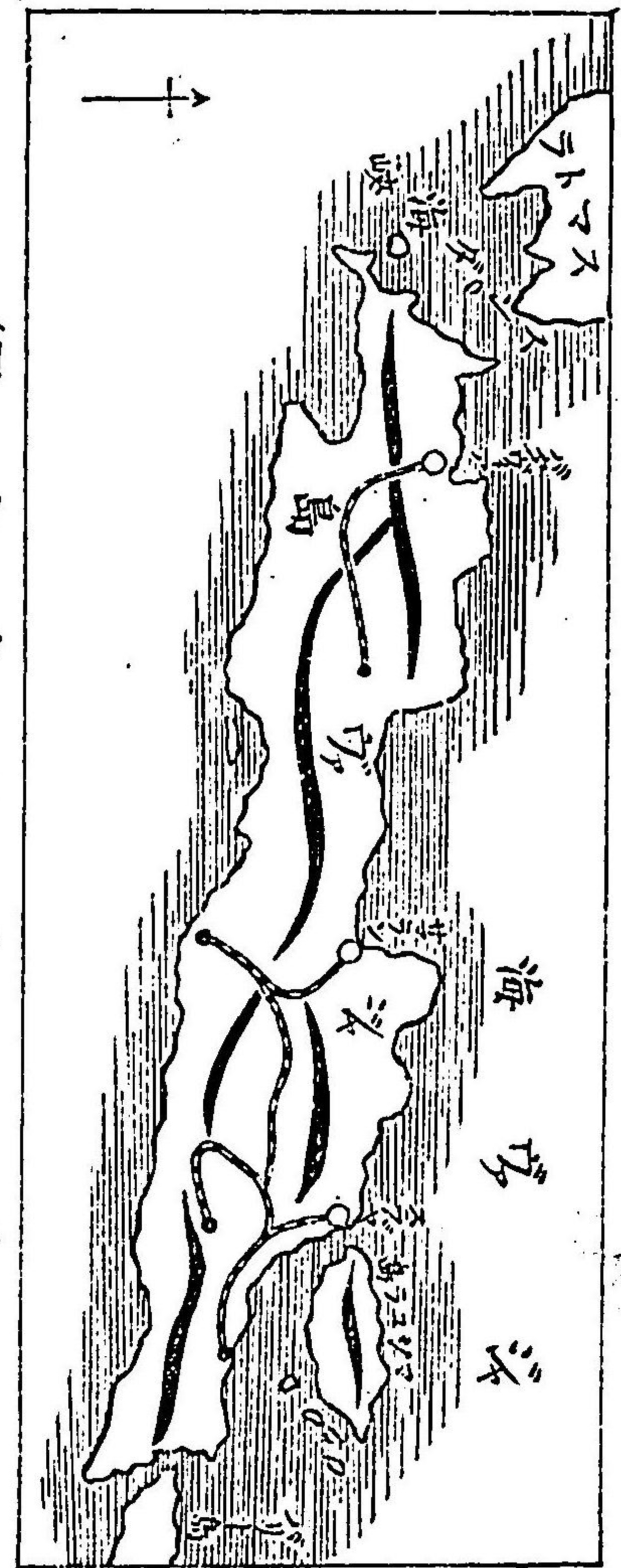
氣候は地、熱帯に位すれども、各島互に間隔し、海風常に炎熱を和するを以て、大抵健康を害するとなし。人民は主に馬來

人種にして、多くは農業を事となすも、内部は開けずして、猶人肉に舌を鼓するの蠻民あり、又邊海には海賊を業とするものあり。宗教は概ね回教を奉じ、外に、佛教、耶蘇教を信する者あれども、蠻民は主に妖教を崇拜す。

スマトラ島

スマトラ島はマラッカ海峽を距て、馬來半島の南に位し、面積二萬五千餘方里、人口凡そ二百九十萬あり、東部は地坦らかに、土肥えるも、中央以西は山岳多く、五座の活火山あり、島の東南より西岸に至る大半は和蘭に屬すれども、北部は許多の部落に分かれ、酋長に屬す、バダングは西部にある海港にして、本國派遣の太守此に駐在す、物産は金、鐵、硫黃、石炭より、米、砂糖、煙草、胡椒及び黃蠟を主とす。

ジャヴァ島



(圖) インドネシア群島

ジャヴァ島はスンダ海峡を距て、スマトラの東南に位し、北にジャヴァ海を擁す、面積屬島を合せて八千五百方里、人口二千四百六十餘萬あり、島中山岳多きも、地最も豊沃にして、農産物能く生育し、珈琲、甘蔗、藍、米、玉蜀黍、落花生、綿、煙草、胡椒等の産出夥しく、又幾那^{キナ}香料、錫、皮類を出だす、バタヴィアは本島第一の海港にして、人口十五萬、支那人、歐人多く在留し、貿易盛大なり、外に、スラバヤ、サマラン等の海港あり、全島和蘭に屬し、派遣の太守バ

タヴィアに駐在す。

本島は蘭國漁船の便により、バタヴィア、サマラン、スラバヤ等より、香港を経て神戸に達する航路の外、我が國と貿易の便なかりしが、綿布、綿糸、燐寸、硝子器、紙、銅器等は、我が製品を輸入するの傾向あるを以て、日本郵船會社は南洋へ航行の途次、此所へ寄港するの計畫あり、我が國人の在留せる者、百七十餘人。

チモア諸島

チモア諸島はジャヴァ島の東、遠く海中に連なれる島嶼にして、パプア、ロムボック、サムバ、フロレス、サムバワ、チモア等を主とし、面積三千六百四十方里、人口三十萬あり、その内、チモア島最も大きく、大部は和蘭に屬すれども、東半部は葡國に屬し、面積凡そ七千方里を占む、物産は唯黄蠟の産あるのみ。

(ロ) ボルネオ島

ボルネオ島はジャバの北に位する大島にして、面積四萬七千九百餘方里、人口凡そ八十五萬あり、島中山岳多きも、平原、低地も亦甚だ多く、島の四分の三は和蘭に屬し、北西部は共に英國に屬し、北を北ボルネオ會社の所領、西をサラワック、東を東ボルネオ會社は、煙草、砂糖、珈琲、麻の産出漸次發達せるを以て、殊に我が國民の移住を歓迎せり、大都ブルニイは北岸にある土人の都會にして、面積五百方里あり、都會の大なる者サラワックにカッタナング、北ボルネオにサングカンありて和蘭人、支那人の商業を營む者多し、西北海中にあるラブアン島は英國に屬し、多量の石炭を出だすを

以て名あり。

(ハ) スールー諸島

スールー諸島はボルネオ島の北東にある、七十有餘の群島よりなり、北にスールー海を控へ、面積百五十餘方里、人口七萬餘あれども、島中は海賊の巢窟にして、近海に出没し、船舶を悩まして貨物を奪掠す。

(ニ) 比律賓諸島

比律賓諸島はボルネオの東北に位し、北と東とは太平洋に、南はセレベス海に、西は支那海に面し、諸島の北はバシー海峽を距て、九十餘里にして我が臺灣に對す、全島大小四百餘より成り、呂宋、ミンダナオ、パラワン、バーク、サマール等稍

大きく面積合せて一萬九千餘方里、人口七百萬を超ゆ。○島中平坦の地あれ共、山岳亦甚だ多く、皆火山の中心に當れるを以て、古來地震の多き、他にその比を見ず、又北部は颶風圈内にあるが故に、暴風屢起り、今より四十餘年前のときはマニラの家屋一萬戸を破壊せり、氣候は熱き強きも、夜間は涼風吹き來り、心神爽快なり。

首府マニラは人口十六萬餘、呂宋の西南海岸に位し、港口は西南に開き、東西十二里より南北十五里に亘り、南洋第一の海港たり、外人の商業に従事せる者は、支那人五分の四を占め、外に、我が國人、西班牙人、英人、印度人、土人等あり、我が國より阿波縮、紀州子ル、甲斐絹、陶器、漆器、洋傘、紙、石炭、茶等を輸入

し、領事館の設けあり、香港より六百餘海里、外に、リーパー、バナナ、ラオアック等の都會あり。○物産の著名なるはマニラ煙草にして、政府の專賣に係り、土人に一人一年四萬本を耕作せしめ、政府は相當の價を以て、之を買上ぐるを法とす、その他、大麻を以て製したる船具綱、馬、米、砂糖、珈琲、藍、玉蜀黍等の外、烏木、白檀等あり。

全島は古へ蠻族の生息せし所なりしが、西曆十七世紀の頃、西班牙のチャレス第一世始めて侵略を試み、その後、フリップピン第二世に至り、全島を征服し、直にその名を以て諸島に命名し、今に、その版圖となり、總督を置き文武の全權を委ね、民政局長官、軍政官を置き、地方の民刑行政を司どり、政廳をマニラに設く、我が國との航通は、足利時代より始まりしも、文祿の頃、秀吉書を總督に贈り、我が正朔を奉せしめんとせしが、時恰も征韓の役

に際せしを以て果さず、その後家康政權を握るに及び、呂宋と通商を約せしことありて、我が國人の渡航せし者多かりき。

(ホ) セレベス島

セレベス島はマカッサ―海峽を距て、ボルネオの東に位し、北は一面セレベス海に濱し、面積一萬二千方里、人口九十餘萬あり、全島恰もK字状をなし、山脈各半島に蟠まり、休活火山多し。産物は綿、煙草、珈琲、燕巢、鼈甲等の外、又金、鐵、錫、石炭を出だす、土地、北の半ばは和蘭に屬すれども、南部は土人の九回教徒國に分かれて獨立す。

(ヘ) モラツカス諸島

モラツカス諸島は丁子、肉荳蔻、肉桂等の香料に富めるが故

に、又スパイス島と稱し、セレベス島の東に位し、ギロロ、セラム、アムボイナ、ブールー、バンダ等の主島に分かれ、面積七千餘方里、人口十六萬餘、全部和蘭に屬す、セラムの土人は性殘忍、好んで人を殺し、その頭骨を取て腰間に帶び、或は家屋の用圍に吊して裝飾とせり。

第三章 大洋洲

馬來群島の東南より、太平洋の一面を點綴する大小無數の島嶼を總括して、大洋洲と稱す、南は南緯五十度より北は夏至線に至り、西は東經百三十一度より東は西經百三十度に羅列す、全部我が國の西南より東南に亘るを以て、我が國人は、馬來群島と共に、單に、南洋諸島とも呼ぶことあり、面積凡

六十万萬里、人口殆ど五百五十萬ありて、大別して(一)メラチ
 シア群島、(二)マイクロチシア群島、(三)ポリネシア群島、(四)オー
 ストララシア群島の四部とす。

此等の群島は、往時蠻族の部落たるに過ぎざりしが、西暦十六世紀の頃、西
 班牙が始めて比律賓諸島を占領せしより、和蘭、英、吉利等の諸國は、幾多の
 領土を發見して人民を移殖し、續づいて獨逸、佛蘭西、北米合衆國の如きも、
 競ふて自國の國旗を掲げて、領土を劃定し、今は、豆大の孤島も所屬の分明
 ならざる者なきに至り、布哇の如きも、今は、北米合衆國の屬地となれり、我
 が國との關係は、交通日猶淺く、貿易未だ繁盛の域に向はざれども、海路航
 通の容易なると、氣候風土の著しき懸隔なきとに依り、近時、群島に移住せ
 し者漸次増殖し、布哇、ニュー、カレドニア諸島、オーストラリア、ニュー、ジ
 ラード、木曜島等には、我が國民の渡航せる者多く、日本郵船會社は諸島に
 汽船の航行を開けるを以て、將來彼我の貿易頻繁なるに至らん。

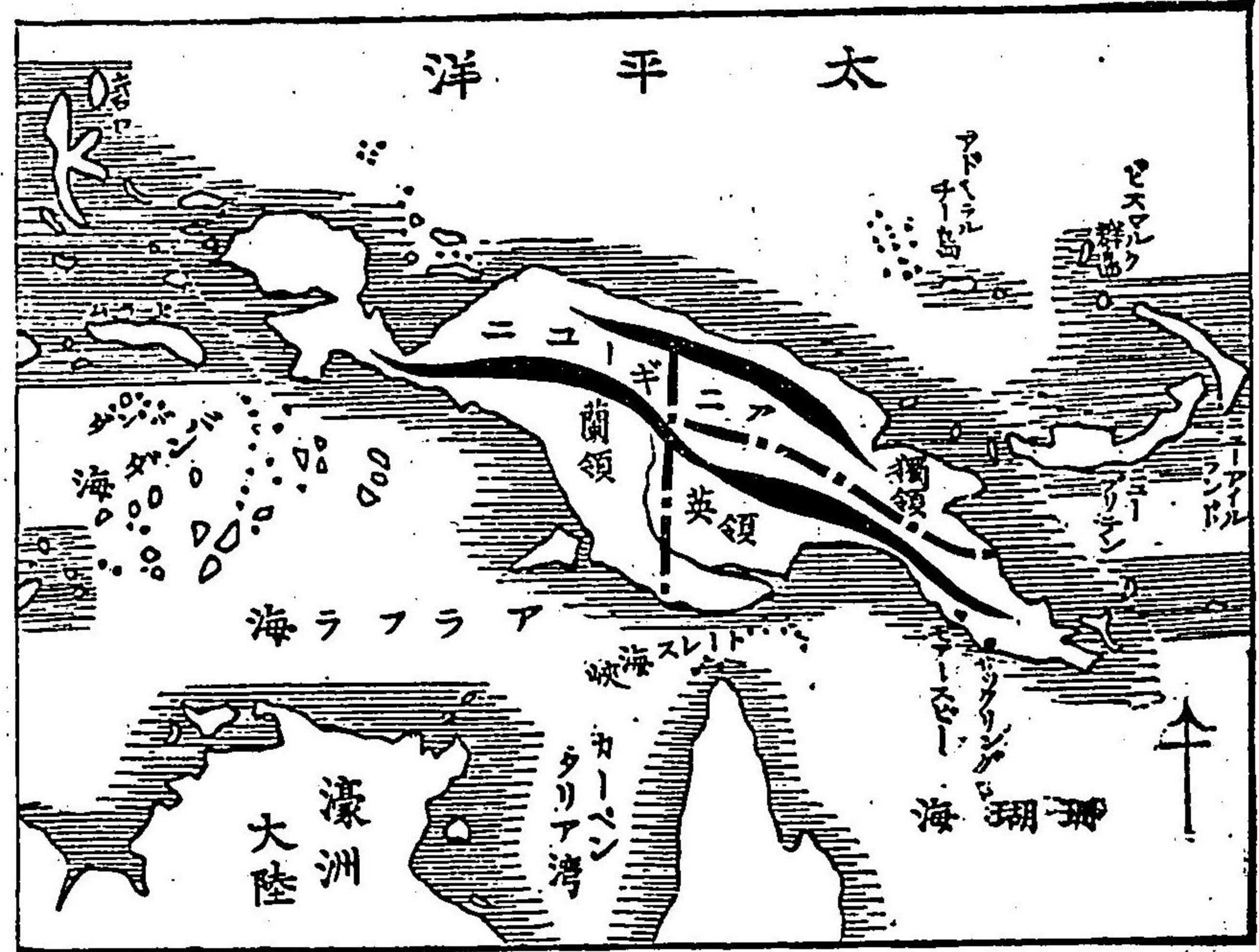
(一) メラチシア群島

メラチシア群島は「黒人島」の義にして、馬來群島の東より、濠
 洲大陸の東北に擴がれる一帯の島嶼を稱し、北は赤道より
 南は南緯二十度に亘り、西は東緯百三十一度より東は西經
 百七十二度に達す、分かれてニュー、ギニア、ビスマルク、ソロ
 モン、ニュー、ヘブリデス、ニュー、カレドニア、ローヤルチー、フ

シー等の主島となれども、多くは諸國に分屬す。

- 佛領 ニュー、カレドニア、ローヤルチー、
- 獨領 ビスマルク、ソロモン、ニュー、ギニアの一部、
- 英領 フォジー、ニュー、ギニアの一部、ニュー、ヘブリデス、
- 蘭領 ニュー、ギニアの一部、

(イ) ニュー、ギニア島



(圖之アニギニユニ)

ニューギニア島は又パ
 ーア島と稱し、深洲の北に
 横はる世界三大島の一な
 り、島内火山質の山岳多く、
 東南部のオーエン、スタン
 レー、峯は、高く一萬八千尺
 に聳へ、氣候は熱帯に位す
 れども、海風の調和を受け
 炎熱ならず、降雨亦甚だ多
 量にして、地肥え森林繁茂
 し、煙草、米、棕櫚、烏木、砂糖、茶、
 珈琲等を産し、近海は眞珠
 に富めり。
 島の西部は和蘭に屬

し、面積二萬五千餘方里、人口凡二十萬あり、東北部は獨逸に
 屬し、カイゼル、ウヰルヘルムス、ランドと稱し、面積一萬二千
 方里、人口十一萬あり、東南部は南緯八度より十二度に、東經
 百四十一度より百五十五度に亘り英國に屬し、面積一萬五
 千方里、人口三十五萬ありて、全島歐人の移住せる者多し、さ
 れど、内地は許多的蠻族に分かれて獨立し、その土人をパ
 ーア種と云ふ、貿易はモアースビー、フリードリヒ、ウヰルヘ
 ルムス、ハーフェン、フィンシユ、ハーフェン、ステーフアンス
 オルト等の海港にて行はれ、ニューギニア會社専らその漕
 運を司ごれり。

(ロビスマルク諸島)

ビスマルク諸島はニューギニア島の東北に位し、ニューア
ドミラルター、ニュー、メクレンブルヒ、ニュー、ボメラニア等
の主島よりなり、面積三千五百方里、人口凡十九萬あり、此の
諸島は、往時は、英國の所領なりしが、今は、獨逸に屬し、島中活
火山多く、土人は好んで人肉を食す。

(ハ) ソロモン諸島

ソロモン諸島はビスマルクの東南洋中に散點し、面積千五
百方里、人口九萬、獨逸に屬す、全部火山質島嶼にして活火山
多く、森林能く繁り、烏木、蘇木等の良材を産す。

(ニ) ニュー、ヘブレッデス諸島

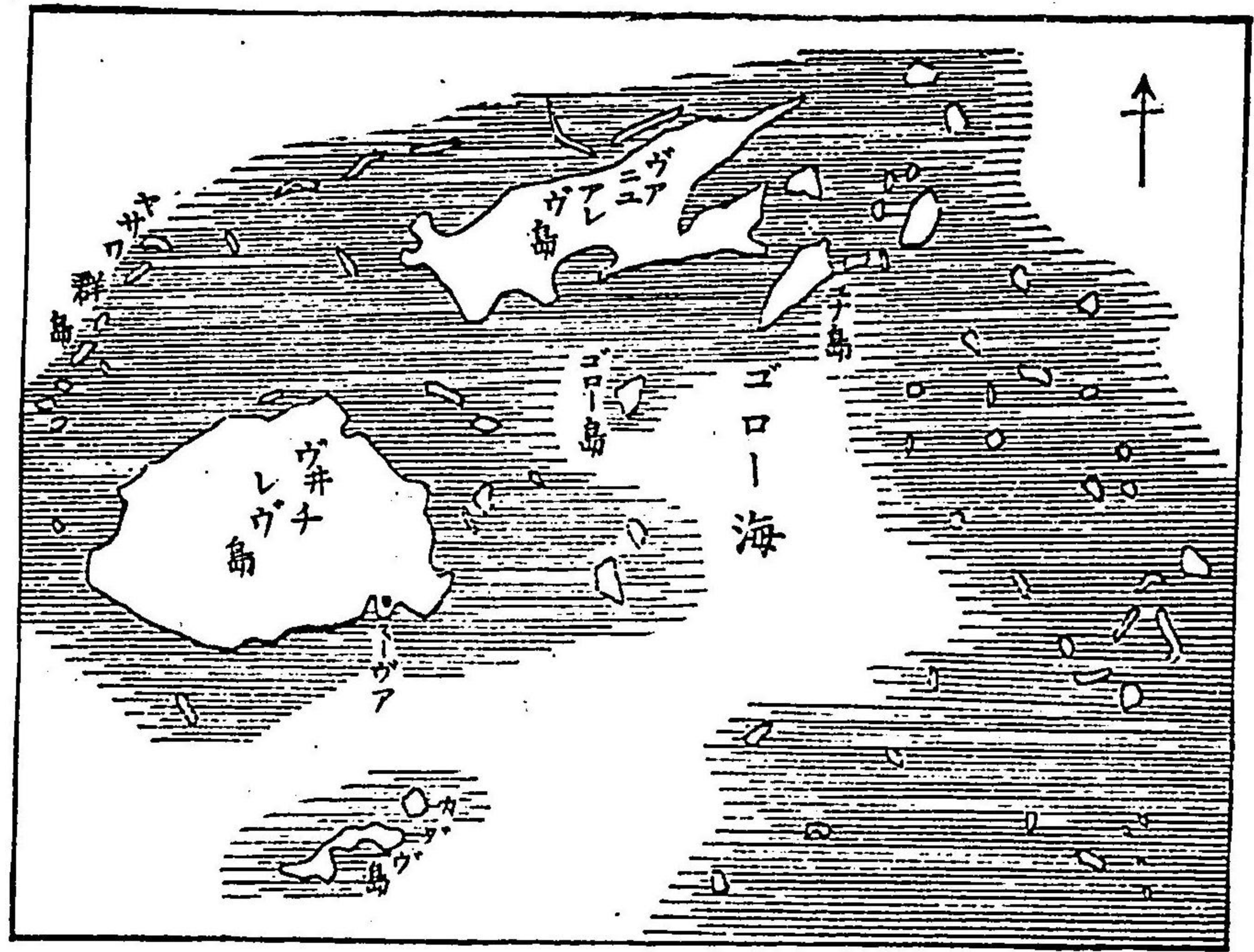
ニューヘブレッデス諸島はソロモンの南東にある、大小二十

餘の火山質島嶼より成る、全部英、佛が久しくその所有を争
ひしが、今は英領に歸せり。

(ホ) ニューカレドニア及ローヤルター諸島

ニューカレドニア、ローヤルターの諸島は共に佛領にして、
メラチシア群島の極南に位し、面積千百餘方里、人口六萬三
千あり、全島珊瑚礁より成り、氣候は乾、濕の二期ありて、温度
甚だ強からざるを以て、労働者は終歲シャツ一枚を用ゆこ
云ふ、ニューカレドニアは有名なる白銅産地にして、到る處
に採掘し、我が國人の出稼して、採掘せる者少なからず、珈琲
も亦品質良好を以て著はる。

(ヘ) フォンシー諸島



(フジナ諸島の図)

フジナ諸島は南緯十五度より二十度に、東經百七十七度より西經百七十八度に亘る、二百二十有餘の島嶼より成る、面積は千三百方里なれども、人口は僅かに十三萬に過ぎずして、島に住民せる者八十に充

たず、島内山岳多く、地肥え、砂糖、茶、甘蕉、鳳梨、椰子、煙草、米、玉蜀黍を産するところ多し、全島英國に屬し、歐人の移住せる者、二千三百餘人あり、首府スヴァは貿易盛んに、米國、英國より濠洲へ航行の船舶此所に寄港し、又ニュー、ジラントに定航船あり。

(二) マイクロネシア群島

マイクロネシア群島は馬來群島の東より、ニューギニア島と我が小笠原島の間散布せる島嶼を稱す、南は赤道より北は北緯二十度に亘り、東經百四十度より百八十度に達す、皆火山質、若くは珊瑚質より成れる小島にして、分かれてギルバート、マーシャル、カロライン、マリアン、チー等の主島と

なれども、ギルバートは英國に、マーシャルは獨逸にカロライン、マリアンチーは共に西班牙に分屬す

(イ) ギルバート諸島

ギルバート諸島は赤道の中央、東經百七十度より百八十度の間に散布せる、珊瑚環礁より成り、高地も拔海二十尺を出でず、面積二十八方里に充たされども、人口三萬六千八百ありて、密度諸島に冠たり、明治二十五年、英國全島を領し、珊瑚椰子、甘蔗及び鳥糞の産を以て著はる。

(ロ) マーシャル諸島

マーシャル諸島はギルバートの西北に連なり、珊瑚島より成り、面積二十五方里、人口凡一萬餘あり、全島獨逸に屬す。

カロライン諸島はマーシャルの西方に散布し、面積は僅かに九十餘方里なれども、人口凡三萬五千を有し、全部西班牙に屬す。

(ハ) カロライン諸島

(ニ) マリアンチー諸島

マリアンネー諸島は又ラドローンと云ふ、カロラインの北に位し、北方五百海里にして、我が小笠原島に對す、面積七十方里、人口一萬餘あり、全部西班牙に屬し、椰子、甘蔗、鼈甲、眞珠等の産あり。

(三) ポリネシア群島

ポリネシア群島は「多島地方」の義にして、メラネシア群島の

東より、遠く太平洋に羅列せる許多の諸島を稱し、南は冬至線より北は夏至線に至り、東は西經百四十度より西は百七十度に亘る、分かれてトンガ、サモア、ソサイエター、マーケサス、ハーヴェー、サンド井ツチ等の主島より成れるも、サモアを除く外、サンド井ツチは米國に、トンガ、ハーヴェーは英國に、他の三諸島は佛國に屬す、

(イ) トンガ諸島

トンガ諸島は又フレンドリーと稱す、フ#ジ-諸島の東南緯十五度より二十三度に、西經百七十三度より百七十七度の間に散在す、面積六十二方里、人口一萬七千餘ありて、歐人の移住せる者多きも、ポリネシア族の土人多数を占む、全地

火山、珊瑚の兩質より成り許多の火山あり、政體は立憲王政なれども、英國の配下に屬し、甘蕉、果實を主要の輸出品とす、濠洲、ニュー、ジ-ランド、サンド井ツチ等へ航行の船舶、此處に寄港し、貿易盛んなり。

(ロ) サモア諸島

サモア諸島は又チヴ#ゲターと稱し、トンガの東北に位し、面積三百八十方里、人口三萬六千ありて、歐人の移住せるもの多く、外に、ポリネシア族の土人あり、政體は明治二十二年、伯林府に開きし、サモア會議の結果により、英、獨、米の三國が獨立を認めて王政となり、綿、珈琲、椰子等を主要の物産とす、首府はウポル島のアピアにあり、ニュー、ジ-ランド、濠洲及

びフレンドリー島の間に汽船の往來あり。

(ハ) ソサイエター、マーケサス、パウモト

等の諸島

ソサイエター、マーケサス、パウモト等の諸島はトンガの東、遠く洋中に散在し、パウモトは又ローアーチ諸島と稱す、面積合せて二百五十餘方里、人口二萬五千ありて歐人多し、全島火山、珊瑚の兩質より成り、山岳高く八千尺に達する者あり、首府をバピナーと云ひ、佛國派遣の太守此處に駐在す、三諸島共に佛國に屬し、土人はポリネシア族多く、舊教を奉ず、物産は眞珠、椰子、綿、橙等あり。

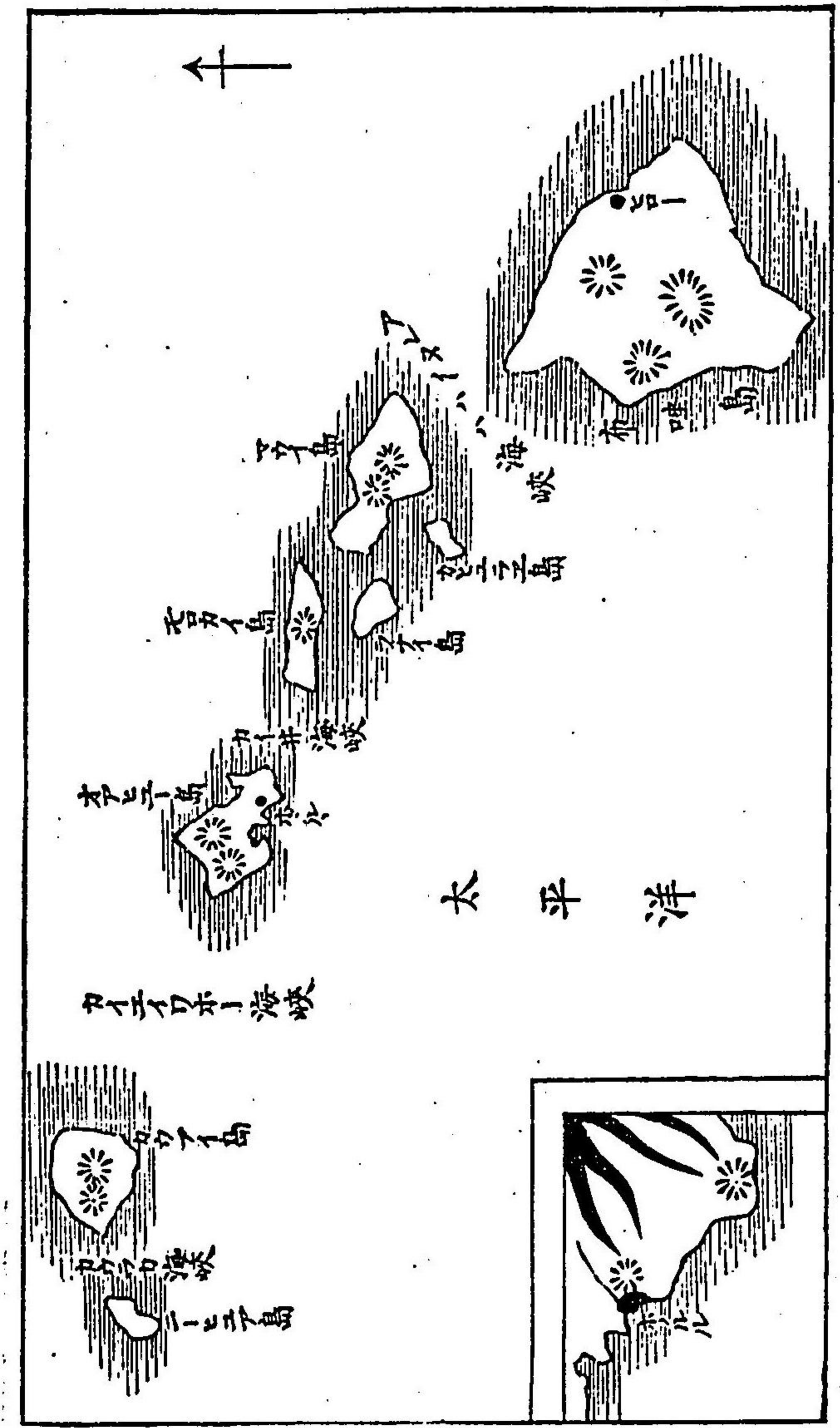
(ニ) ハーヴェー諸島

ハーヴェー諸島は又クックト稱し、トンガの南東、南緯十八度より二十二度に、西經百五十七度ヨリ百六十三度の間に散在す、面積二十四方里、人口八千四百あり、就中、ララトンガ島尤も大きく、周回二十二里、人口三千あり、全島英國に屬す。

(ホ) サンド井ツチ諸島

サンド井ツチ諸島はポリネシア諸島の最北、北緯十九度より二十三度に亘り、西經百五十度より百七十度に散在す、全域東南より西北に擴がり、布哇、マウイ、オアヒュー、カウアイ等大小二十餘の島嶼より成り、面積千二百方里、人口十萬九千餘あり、我が國人の布哇と通稱する者即ち是なり。地勢は一般に山岳多く、皆火山質より成り、内には、一萬三千

八百尺に達する活火山あるを以て、到る處、火山灰、火山岩を以て地體を構造すれども、平地は地味肥沃なり。○氣候は地



布 世 國 の 圖 (圖)

熱帯に位すれども、夏期は北東の定風吹き來りて炎熱を殺ぎ、夜陰殊に冷涼を覺へ、冬は氣候甚だ温暖なり。物産は砂糖、米、珈琲、綿、甘蔗、鳳梨等最も多く、殊に砂糖は主要の輸出品に屬し、目今製糖所百以上に達し、米國との取引最も盛んなり、我が國より絹手巾、陶器、鰯、貝柱、椎茸及び諸雜貨を輸入す、海路は米國、濠洲、我が國へ汽船の航行あり、我が日本郵船會社の汽船も亦此所に定航す、桑港へ航程二千餘海里、横濱へ三千四百海里。

本島は今より百餘年前に、發見せしごき、ポリネシア族土人の生息せし者、凡そ二十萬ありしが、西曆千八百八十四年には、僅かに五千餘人となれり、土人は性怠惰にして、氣慨に乏

しく、多くは外人に使役せらる、外人の移住せる者は、支那人二萬千餘に達し、外に、葡人、米人、英人、獨人等あり、我が國人の出稼せる者、凡そ三萬あり。

ホノルルは全島の首府にして、入口二萬餘、オアヒュー島の南岸に位し、市街は人馬兩條の道路に分かれ、電氣鐵道、電氣燈を設け、又電話の交換盛んに、港内は水深く大船の出入自在にして、南洋屈指の貿易港なり。○政體は古來より立憲君主政治なりしが、明治二十六年、政府を顛覆し、女王を廢し共和政府を組織して、我が國とは條約國なりしが、近頃北米合衆國の領地となれり。

(四) オーストララシア

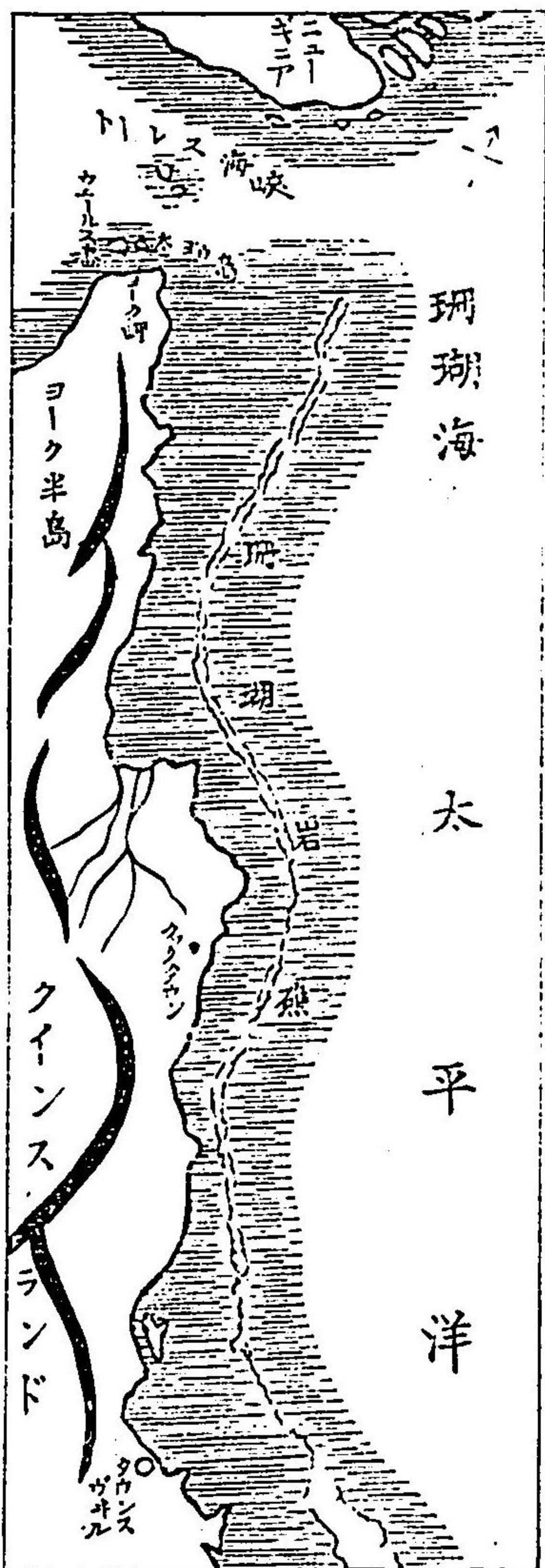
馬來群島の東南に横はれるオーストラリア、タスマニア、ニュー、ジラランドの三大島及び附近の島嶼を合せて、オーストララシアと稱す、面積凡五十二萬方里、人口殆ど四百萬あり、我が國人の濠洲大陸と稱する者即ちこれなり。

(イ) オーストラリア

南緯十度—三十九度、東經百十三度—百五十四度
面積四十九萬餘方里、人口三百十六萬餘

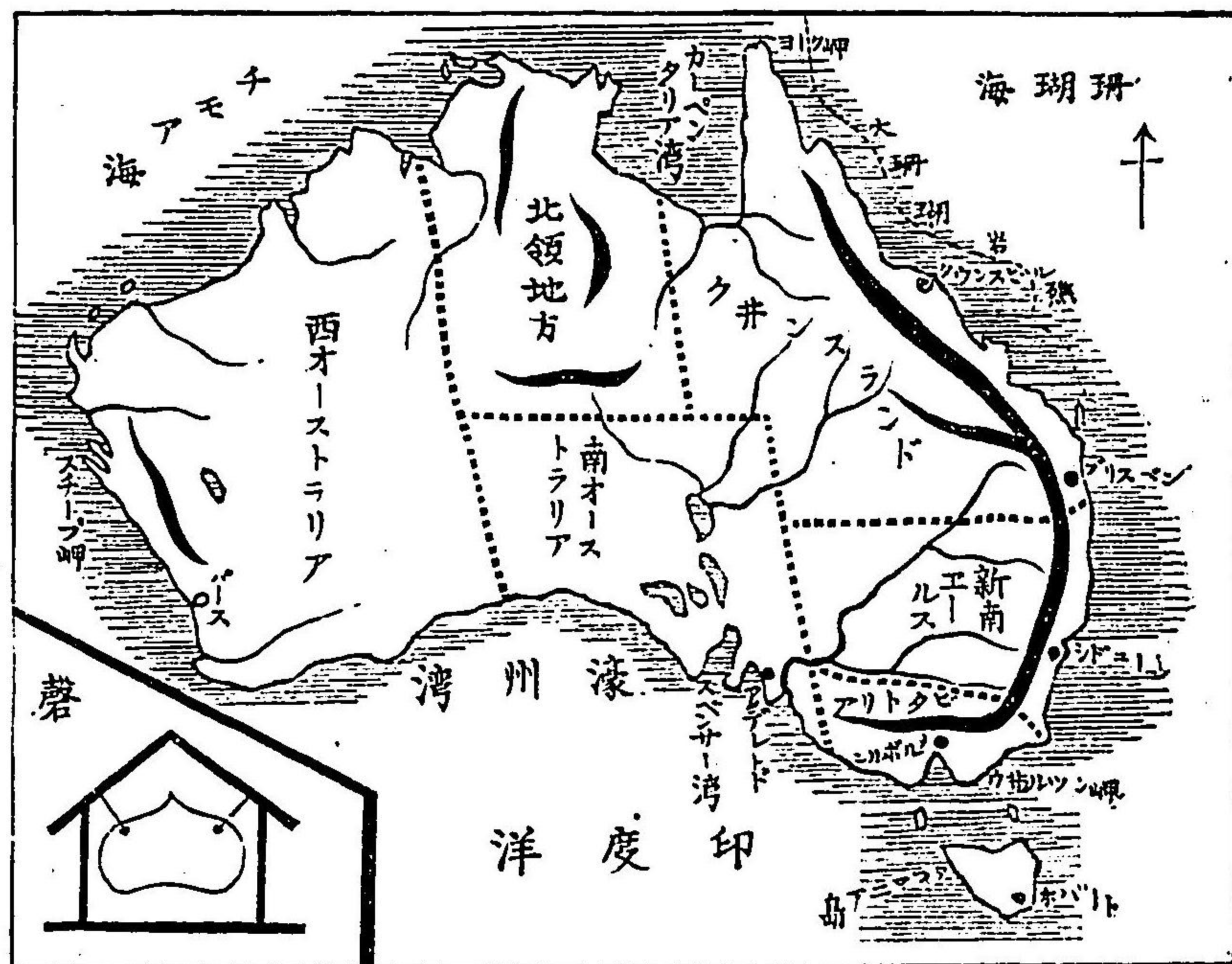
馬來群島の東南に磬狀をなせる大島をオーストラリアと稱す、北はトール海峡を距て、ニューギニア島に對し、東は太平洋に面し、南は南氷洋に延び、西は印度洋に瀕す、分ちてダクタリア、新南ウェールズ、クイーンズランド、南オーストラリア、西オーストラリアの五部とす。

四周の海岸は屈曲甚だ乏しく、獨り濠洲大灣廣く南方に開



(圖之礁岩珊瑚)

航海の危険少なからず。地勢は中央より西南に、草原沙漠を交へ、全土四分の三は大平原をなせども、東岸は海岸山脈、北はヨーロッパより東南に亘り、西に走りて濠洲アルプス山脈を起し、その一脈コシユスコ山脈の中には、七千三百五十尺に達する秀峯あり。



(圖之陸大洲濠)

けるのみにして、スベ
ンサー湾、カーベ
ンタリア湾、ケムブ
リッジ湾、ハーヴェ
ー湾等は皆舟泊に
便ならず、加ふるに、
トーレス海峡より
ハーヴェー湾に至
る千二百哩の沿海
は、廣き所、百哩に亘
る大墻礁斷續して、

氣候は北部、熱帯に屬するが故に、暑き強きも、北西氣候風を受け雨量豊かに、南部も亦冬は暖かに、西南氣候風を受け降雨多し、されど、中央部は東岸の山脈、南東貿易風を遮ぎるが故に、二三年降雨なく、氣候全く大陸性の所あり。物産は從來、鑛物の外、穀物なく、果實なく、動物の如きも僅かにカンガル、チムバット、鳴嘴獸、野犬等の奇獸のみなりしが、今は、各種皆能く生育し、農産物は小麦、玉蜀黍、葡萄、綿、甘蔗等を出だし、殊に小麦は産額夥しく、英國に輸出す、鑛物は金の採掘最も多く、東部の山地は到る處に産す、銀は合衆國、墨西哥に亞ぎ、又石炭、銅、鐵、瑪瑙を出だす、牧養は羊を主とし、羊毛の夥しきこと世界第一に位し、肉類の罐詰を歐洲に輸出す、我が國この

貿易は、未だ盛んなるに至らざるも、逐年頻繁に赴く、現時、我が國より輸入を仰ぐ者は、米、絹布類、麥稈、眞田、竹簾、竹材、磁器、燐寸、木綿手拭、絹手巾、華筵、樟腦、扇子、團扇等を主とし、我が國へ羊毛、ビスケット、獸骨、牛酪、罐詰肉類、及び雜貨類を輸出す、貿易は主に、メルボルン、シドニー、ブリスベーン、メルボルン、メルボルン、メルボルンに於て行はれ、日本郵船會社の汽船は各港に定航し、彼我貿易の媒介をなせり。

土人をオーストラリア黒族ニグロと稱す、好んで禽獸虫魚を食し、山野に獵し、鬪争を事とする外、一定の職業なき蠻族なれども、今は、僅かに三萬人に過ぎず、移住民は始め罪人を放流せしが、良民を移殖せしより、今は、大抵英人の子孫多く、生業は